

第 9 回

越 谷 市 教 育 委 員 会 会 議 録

令和2年 8 月 6 日

臨 時 会

令和2年第9回越谷市教育委員会議事録

招集年月日 令和2年8月6日（午前の部）
招集の場所 越谷市役所本庁舎5階 第3委員会室
開閉会日時 開会8月6日 午前 9時35分
閉会8月6日 午前11時56分

出席委員

教 育 長	吉 田 茂	教 育 長 職務代理者	野 口 久 男
委 員	堀 川 智 子	委 員	進 藤 秀 子
委 員	荒 木 明 子	委 員	渡 辺 律 子

欠席委員 な し

説明のため会議に出席した者の職氏名

教育総務部長	鈴 木 功	学校教育部長	岡 本 順
教育総務部 副参事兼 教育総務課長	渡 辺 真 浩	学 校 教 育 部 副 参 事 兼 指 導 課 長	佐々木 清
		学 務 課 長	小野寺 秀 明
		指導課調整幹	佐 藤 泰 弘
		教育センター 調 整 幹	田 嶋 栄 蔵

職務のため会議に出席した者の職氏名

教育総務課 副 課 長	市 川 今 日 子
----------------	-----------

令和2年第9回越谷市教育委員会議事録

招集年月日 令和2年8月6日（午後の部）
招集の場所 越谷市役所本庁舎5階 第3委員会室
開閉会日時 開会8月6日 午後 1時00分
閉会8月6日 午後 5時27分

出席委員

教 育 長	吉 田 茂	教 育 長 職務代理者	野 口 久 男
委 員	堀 川 智 子	委 員	進 藤 秀 子
委 員	荒 木 明 子	委 員	渡 辺 律 子

欠席委員 な し

説明のため会議に出席した者の職氏名

教育総務部長	鈴 木 功	学校教育部長	岡 本 順
教育総務部 副参事兼 教育総務課長	渡 辺 真 浩	学 校 教 育 部 副 参 事 兼 指 導 課 長	佐々木 清
		学 務 課 長	小野寺 秀 明
		教育センター 所 長	齋 藤 紀 義
		指導課調整幹	佐 藤 泰 弘

職務のため会議に出席した者の職氏名

教育総務課 副 課 長	市 川 今 日 子
----------------	-----------

	議 事	て ん 末
議 事 状 況	議 案	
	・ 第 3 7 号議案 令和 3 年度使用中学校教科用図書の採択について	原案可決

◎開会の宣告

吉田教育長 それでは、これより 8 月の臨時教育委員会会議を開会いたします。

本臨時会に関し、16 名の方から傍聴許可願が提出されておりますので、許可します。なお、会議中に許可願が提出された場合は、同様に許可いたします。

(午前 9 時 35 分)

◎第 37 号議案 令和 3 年度使用中学校教科用図書の採択について

吉田教育長 それでは、7 月 30 日に行われた 7 月定例教育委員会会議において継続審議となっておりました第 37 号議案「令和 3 年度使用中学校教科用図書の採択について」審議を行います。

今回の令和 3 年度使用中学校教科用図書の採択について、改めて指導課長から説明をお願いいたします。

指導課長。

佐々木指導課長 それでは、第 37 号議案 令和 3 年度使用中学校教科用図書の採択についてご説明申し上げます。

恐れ入りますが、会議要項の 25 ページをお開きください。

第 37 号議案 令和 3 年度使用中学校教科用図書の採択について。

令和 3 年度使用中学校教科用図書を別紙のとおり採択するものとする。

令和 2 年 7 月 30 日提出、越谷市教育委員会教育長。

提案理由でございますが、中学校教科用図書の改訂に伴い、令和 3 年度使用中学校教科用図書を採択する必要があるため、提案するものでございます。

越谷市立小中学校で使用する教科用図書の採択につきましては、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 21 条第 6 号及び越谷市立小中学校使用教科用図書の採択に関する要綱第 3 条の規定により、本市教育委員会で行うこととなっております。

恐れ入りますが、会議要項の 27 ページをお開きください。今年度採択する中学校教科用図書は、採択一覧表でお示ししたとおり 17 種目でございます。今回約 10 年ごとに改訂される文部科学省が定める教育課程の基準、学習指導要領が改訂されたことを受けて、教科用図書が変更されることとなりました。したがって、令和 3 年度からの中学校新学習指導要領全面実施に伴い、道徳を含めた全ての教科で採択を実施いたします。

なお、道徳に関しましては一昨年度に採択を行い、特別の教科として先行実施しておりますが、昨年度新学習指導要領により改めて検定を行っておりますので、ほかの教科と同様に採択を行います。なお、採択された教科用図書につきましては令和 3 年度から 4 年間の使用となります。

採択の手順につきましては、越谷市立小中学校使用教科用図書採択事務要領に基づき行います。

初めに、越谷市立中学校使用教科用図書選定委員会委員より選定資料に基づく報告を行い、続いて教育長及び教育委員の皆様からの質疑にお答えいたします。その後、教育長及び教育委員の皆様でご協議いただいた後、採択をお願いいたします。

第37号議案についての説明は以上でございます。

さきほど採択一覧のところ、会議要項の27ページと申し上げたところは、3ページということで訂正させていただきます。申し訳ありません。

ご審議のほど、よろしくお願いいたします。

吉田教育長 審議に入る前に、委員の皆様にお諮りいたします。

採択の方法ですが、種目ごとに全部の教科用図書発行者について、私及び委員がそれぞれ5段階で評価した上で順次無記名で投票し、評価点数の総合点が最も高い教科用図書発行者を採択することにしたいと思いますが、これにご異議ございませんか。

〔「異議なし」と答える者あり〕

吉田教育長 ここで、傍聴人の方にお知らせいたします。

傍聴の心得にあるように、議案の進行を妨げるような言動はお控えいただきますようお願いいたします。静粛な会議の進行にご協力をお願いいたします。

社会・地理的分野の教科用図書について審議いたします。

選定資料の説明等のため、選定委員の入室を求めます。

〔選定委員入室〕

吉田教育長 社会・地理的分野の教科用図書について、選定委員より選定資料の説明を求めます。

井上選定委員（新栄中校長） それでは、報告をさせていただきます。

まず、お手元の調査の観点、そちらに内容という部分がございます。今回、資料をこれから報告させていただくときに、キーワードになってまいります。まず、（１）のところには、知識、技能という形で書かれています。また、これにつきましては、各単元のまとまりごとにお伝えしていこうと思っています。

（２）については、思考力、判断力、表現力を高めるためにどのような工夫がされているかということで、これも各社、かなり工夫された点がございます。また、この中に多角的、多面的にという文言がございますが、これも一つのキーワードで、各社、かなり努力されております。

３番目は、こちらは主権者である子どもたち、これから主権者になる子どもたち、また持続可能な社会とのつながり、また社会への参画ということをテーマにお話をさせていただきます。

そして、（４）は、課題を解決していくときの課題、過程、これを工夫ということで確認させていただきます。

また、下の２番、資料について、また３番の表記についてはご覧ください。

そして、最後、４番につきましては、本市でも取り組んでいる小中一貫の連携のあり方、また

他教科との関連等についての記述がこれから出てきますので、ご覧いただければと思います。

それでは、初めに地理、東京書籍をご覧ください。先ほどの知識、技能の面から、1つの分野に絞って比較検討ができるような形で進めていきます。まず、54ページ、55ページをお開けください。ここでは、世界の諸地域ということで、4社、確認をしていきたいと思っています。東京書籍の場合は、この左側のページで、小学校で習った言葉を示し、小中連携を図る工夫がされているところがございます。

また、55ページ、導入の活動の中で、単元全体を貫く探求課題というのを設定しています。特にここではSDGsについて地球的な課題として各章を見ていくという流れがございます。また、ここには見方、考え方というのが、その下のところに表記されているように、多角的、多面的に物事が捉えられるような工夫がされておりま。

58ページをご覧ください。これが1単位授業時間の見開きのページでございます。左側に学習課題を設けているということ、そして数々の資料が展開されています。これは、次のページ、次のページ、それぞれ同じような流れになっているというところがございます。

72ページ、73ページをご覧ください。これが1つのまとまりのまとめという形で行われているものでございます。ここでは、アジア州を振り返ろうということで書かれてあります。左側下のところに「みんなでチャレンジ」というコーナーが設けられ、ここで話し合い活動や表現力アップの工夫がされているところがございます。

また、多様な思考ツールを使ったまとめの活動というのが用意されています。先ほどの探求課題を解決する流れが構造化されているということになります。

それ以外にも、例えば87ページをご覧ください。先ほどのアジア州のまとめの形とは違う形のツールが使われているということです。それ以外にも、例えば99ページ等でも、ただ文章でまとめるというのではなく、こういう思考ツールを使ったまとめが行われているというのが特徴です。

67ページをご覧ください。右側の上に、インドでICT企業を起業する人のインタビュー記事が載せられております。こういう世界で、その地域で働く、住む人たちの考えを子どもたちがしっかり受け取り、次代に生かしていくという流れが展開されているということになるわけです。

また、63ページをご覧ください。多分野と共通で掲載している資料を特設ページに分野関連のマークがあります。例えば右側の下のところ、首都北京の大気汚染と書いてありますと、その右側に小さい三角形で、マル公、マル地、マル歴、つまり分野間の確認ができているということがございます。

続きまして、教育出版をご覧ください。47ページ、先ほどの世界の諸地域のところにつきまして、導入部分はこういう形になっているということになります。つまり、内容のまとまりごとに学習の見通しが端的に示されているということです。

48ページをご覧ください。アジア州の上のところに学習テーマが記載されています。アジアは

なぜ経済が発展したのかというテーマでございます。実は、これはSDGsとの関連で、世界の諸地域については、全ての単元で扱われているということになります。

50ページ、52ページをご覧ください。学習テーマの解決のための学習課題が設定してあります。左側の下のところにクエスチョンマークで書かれているものです。つまり、子どもたちは、この1単位時間、この学習課題の解決に向けて取り組んでいくということになります。

65ページをご覧ください。単元のまとめの部分でございます。学習のまとめの表現では、学習の振り返りとして、自分の言葉で表現したり、意見を交換したりする活動を行い、段階的に学習が深められるように配慮されているということです。また、学習テーマに対するまとめ、話し合い活動もそこにあります。65ページの一番下のところに黄色のマーカーが引かれている部分がそれになります。ほかの単元についても、同じような流れで説明がされています。

続いて、51ページをご覧ください。見開きページの右側の下のところに関連マークが示されています。地理的分野、歴史的分野とここの単元がどういうところと結びついているのか、関係しているのかというのがここに書かれているということになるわけです。

また、巻頭のIVページをご覧ください。ローマ数字のIVページでございます。地理的な見方、考え方として、新しい学習指導要領の中でもうたわれている、課題を解決していくときの視点という形で最初にここに述べられているということになるわけです。

続いて、帝国書院をご覧ください。47ページです。こちらの導入は、世界の諸地域の導入ということです。これは、1ページにわたって書かれております。単元を貫く問いが設けられており、学習の見通し、振り返り活動の基本的な流れが示され、見通しを持った学習活動につながるように工夫されています。また、SDGsとの関連、各章の主題と課題一覧が見やすく表になっているのも特徴です。

50ページをご覧ください。1単位時間の見開きのページです。左側の上のところに、1節の問い、そして真ん中に学習課題が設けられています。学習の見通し、振り返り活動の基本的な流れが示され、見通しを持った学習活動につながるようになっています。また、左側の下のところには、小学校との関連、多分野との関連が記載されているということになります。

64ページ、65ページをご覧ください。アジア州のまとめというものになっています。説明資料というところでは、思考力、判断力、表現力を高める工夫がなされています。課題解決的な学習ができるように工夫されております。

これは、64ページ、65ページだけではなく、例えば107ページをご覧ください。まとめの違うツールを使った展開がそこに書かれているということになるわけです。

219ページをご覧ください。これは、日本の諸地域の学習の最初の冒頭の部分でございます。日本の諸地域の学習で、単元の最初に、どの地域でも小学校の学習を振り返る問いを設けてございます。中学校の学習に結びつける工夫がここでされているということでございます。

続きまして、日本文教出版をご覧ください。教科書の43ページです。各章の導入のページで、小学校で学習した内容を示しています。SDGsとの関連、各章の主題と課題が一覧になって見やすくなっているというのがその右側に書かれているところです。

また、48ページをご覧ください。これが1単位時間の授業でございます。学習課題、そしてそれに迫る見方、考え方が明確に示されています。また、見通しを持った学習が進められるように工夫されています。右側のページには、深めようというコーナーを設けているというのも、各授業で必ず設けているというのも大きな特徴です。

57ページをご覧ください。これがアジア州のまとめの部分です。単元の終わりには学習のまとめが設けられ、基礎基本の定着と学習内容が深められるよう工夫がされているということになります。

81ページをご覧ください。右側の下に、同じように、ここではアフリカの場合ですが、アクティビティーという形で、アフリカのモノカルチャー経済からの自立に向けてという、ウェビングマップの作成という形でのまとめがここに示されているということになるわけです。

54ページをご覧ください。どの会社もそうですが、下のところに、小学校5年生の内容が書いてあります。つまり、中学校の内容と関連づけて学習ができるという形で進められているということになるわけです。

70ページをご覧ください。ここには、「チャレンジ地理」ということで、EU離脱の問題について話し合うという、思考、判断、表現という形のものができるように工夫をされているということになるわけでございます。

報告は以上でございます。

吉田教育長 ただいまの報告について質疑を行います。

各委員の質問に続いて、選定委員の回答を求めます。

野口委員。

野口教育長職務代理者 それでは、まず選定委員としてどの教科書を推薦するのかご説明願います。

瀧田選定委員長（北中校長） お答えします。

選定委員会では、調査報告書、学校における教科書の調査研究報告、さらには法定教科書展示会会場において、来場者の皆様からご提出をいただきました意見などを参考にしつつ協議を行いました。協議終了後、選定委員14名全員が4種類の教科書発行者について、評価をそれぞれ5段階で記載して無記名投票をいたしました。満点は70点ということになります。

その結果でございますけれども、2番、東京書籍、70点、17番、教育出版、45点、46番、帝国書院、54点、38番、日本文教出版、38点という結果です。その結果、本選定委員会としましては、点数の多かった順に、70点の東京書籍、54点の帝国書院、45点の教育出版、この3つを推薦したいと思います。

以上です。

吉田教育長 ほかに。

荒木委員。

荒木委員 選定委員会ではどのような話題が出たのでしょうか。

井上選定委員（新栄中校長） お答えします。

選定委員会では、各社、防災教育を重視しており、ハザードマップや防災情報などが掲載されているということが話題として出ました。

以上でございます。

吉田教育長 ほかに。

渡辺委員。

渡辺委員 学校の調査報告書では、どの教科書会社の推薦が多かったのでしょうか。その主な理由も教えてください。

井上選定委員（新栄中校長） 学校からの推薦では、東京書籍を推薦する学校が最も多く14票、次いで帝国書院、7票、教育出版、2票という結果でした。

推薦理由といたしましては、東京書籍では、資料の豊富さ、特にデータ面です。また、見やすさと情報量のバランスがいいということ、資料読解のための章末問題が設けられており、実践力を身につけるのに適切であるということです。

帝国書院では、写真、地図、グラフ等が大きく見やすく提示され、地理への興味、関心が喚起されるように工夫されている、また単元を貫く問いが設けられ、見通しを持った学習活動につながるよう工夫されているというものでした。

教育出版では、資料の豊富さ、特にデータ面です、見やすさが他社よりも優れているということ、学習課題の確認がしやすい構成となっている等の意見が出ました。

以上でございます。

吉田教育長 よろしいですか。

ほかにございますか。

堀川委員。

堀川委員 小学校との円滑な接続のために、各社、どのような工夫が見られるのでしょうか。

井上選定委員（新栄中校長） 報告いたします。

東京書籍では、小学校で学習した具体的な用語と登場のキャラクターのせりふなどで関連を示しています。また、学習の関連を促すような記述となっております。

教育出版では、巻頭の特集ページで小学校の学習を生かした学習の進め方について示しております。

日文では、ページ下側に小学校との関連を考えられる問いを示しております。

帝国では、小学校との関連が分かるように、ページ下に世界の大陸と海洋、主な国の名称と位置、自然環境に適応した生活など、絵や概念的な単語で示しておりました。

以上でございます。

吉田教育長 ほかによろしいでしょうか。

進藤委員。

進藤委員 選定委員には1号委員として保護者の方がいらっしゃったと思いますけれども、どのような意見がありましたか。

瀧田選定委員長（北中校長） それでは、私からお答えします。

1号委員、保護者の方が2名いらっしゃいましたけれども、意見ですとか考えですとか、そういうものをまとめる道筋、どういうふうにまとめていくかというのが、いわゆる思考ツールというのですけれども、そういうものがあちこちに多く掲載されていて、ノートに自分の考えをまとめたりするときに、子どもたちにとってはとても有効という意見がありました。

以上です。

吉田教育長 よろしいですか。

ほかにございますでしょうか。よろしいですか。

〔「なし」と答える者あり〕

吉田教育長 ほかになければ、質疑を終わります。

それでは、協議を行います。

選定資料にある4つの調査の観点に沿って協議を進めたいと思います。なお、この4つの調査の観点については、それぞれ相互に関連がございますので、一応、最初に内容についてお聞きしますけれども、ほかの項目についても同時に質問があれば、それで質問していただいてよろしいかと思いますけれども、その方向で進めますが、それでよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と答える者あり〕

吉田教育長 それでは、初めに、協議、調査の観点1、内容についてご意見はございますか。

進藤委員。

進藤委員 ご説明ありがとうございます。

今の説明にありましたように、各教科書とも見開きを1単位の時間として、まず、最初のところに導入の資料、そして学習課題を提示して、そして本文、そして最後の末尾の辺りにまとめの活動という構成及び、より多くのくくり、大体、章だと思うのですけれども、その冒頭で地図や写真を使って、当該単元での学習を概観させる導入的なページを設けているというようなこと、構成自体はどこの会社も共通と感じました。導入的なページに関しては、小学校の復習や単元の見通しあるいは課題が明示されている東書さんが一番、丁寧な気がいたしました。

また、学習を進める上では、東書と帝国が単元や章、節ごとに問いあるいは課題を提示して、

本文の課題を問い、次に節の課題を解く、最終的に、そうやって段階を踏むことによって、最後は一番大きなくりの章の問いや課題の解決に結びついていくという形を明確に取っていて、非常に流れが分かりやすいと感じました。課題や問いを選ぶと、配置の仕方も非常に見えていて分かりやすいなということの印象です。

章末については、先ほどの説明にありましたように、どこの会社もまとめの活動を設定していて、学習のまとめができると思いました。章末まとめの学習の中には、東書が図や表を使ってまとめるだけでなく、ほかのところでも図や表が、先ほど話題に出ました、資料を使ったものは、帝国の107ページや、日文の81ページにもありましたけれども、そのほかに、特に東書に関しましては、例えば52ページ、ここでは世界旅行を企画してみようであるとか、あるいは218ページでディレクターになって発信しようというふうに、いかにも子どもさんの興味を引くようなテーマが設定されていて、これは本当におもしろいと思いました。

また、やはり地域に関しましては、いろいろな技能というのが必要になってくるのだと思いますけれども、各社とも特設コーナー、例えば東書であればスキルアップ、教出であれば地理の技、帝国であれば技能をみがく、日文であればスキルアップといった特設コーナーを設けていて、興味を持って学習しながら技能が取得できる工夫がされている、この辺はあまり差がないと思いました。

また、内容の中では、我が国の領土ということがよく問題に挙がりますけれども、いずれも教科書の冒頭の部分で写真入りの記述がされていましたけれども、中でも私は、教出と帝国が、条約や国際法に触れながら、非常に詳細に記述されていると感じました。特に私は、帝国が、50ページにおきまして、条約と絡めながら地図も併記しておりまして、非常に視覚的にも分かりやすく、理論的と感じました。

他教科の関連については、東書は該当ページにマーク、教出、帝国、日文は下の欄の記載があるということは、先ほどご説明があったとおり、非常にこの辺は分かりやすいと思いました。

防災、自然、環境については、何か帝国の記載が多いと思いました。

教科書採択で話題になるのは、越谷が出ているかということになると思いますけれども、唯一、越谷に関しましては、帝国の237ページに大型ショッピングセンターの駐車場、レイクタウンの空撮写真が掲載されていたので、この辺が生徒さんの興味を引くと思いました。

いずれにしても、資料が豊富で、写真もきれいで、視覚的にも見やすく、教科書に興味を持って学習に取り組めるのではないかと思います。

以上です。

吉田教育長 ほかにございますでしょうか。

堀川委員。

堀川委員 今、進藤委員さんから、お話がありましたけれども、私も東京書籍さんの資料が大変読

みやすく、配列も工夫されていると感じました。

先ほどご説明にもありましたけれども、58ページのアジアですけれども、ほかの地域についてもそうなのですが、その降水量と人口密度、各地の雨温図などが同じ場所に配置されていることによって、そこから各国の市民の生活であるとか気候に左右されたような活動とか、そういうことが想像できるようになっているのではないかと感じました。ほかにも大変資料が豊富で、見やすく、参考になると感じました。

また、震災に関してですけれども、東書さんの160ページですか、震災から命を守るということで、詳細に書かれていると感じました。

また、教育出版さんのハザードマップは、143ページに庄内川とか160ページに横須賀のハザードマップが載ってまして、それぞれ比較もできますし、参考になる内容になっていると思います。

ハザードマップでいいますと、日本文教出版さんの151ページ、ハザードマップも見やすく、また148ページから災害に備えるためにということで、釜石の奇跡についても詳しく載ってまして、後世にまで学習できる内容になっているのではないかと思います。

帝国さんについても、大変詳しく資料が載っておりまして、いろんな関連づけで勉強、学習できるようにしているように思いました。

私からは以上です。

吉田教育長 ほかにございますか。

荒木委員。

荒木委員 私も、進藤委員さんや堀川委員さんと同じような印象を持ちました。

東書は、全体的にまとめの部分が分かりやすく、充実しているという印象を持ちました。

以上です。

吉田教育長 野口委員。

野口教育長職務代理者 各社ともやはり工夫されていて、単元の流れとか、あるいは各時間の流れ等も似てきているという印象を持ちました。

東書は、先ほどの説明の中にもありましたけれども、資料の豊富さとか、特にデータ面とか、それから情報量のバランスがよいというような話がありましたけれども、その辺りも使い勝手がいいかと思いました。

また、1時間のまとめの中にチェックというところが各時間あるかと思うのですが、各社とも同じようなことになっているのですが、東書はチェックの欄が結構、抜き出しましたという文言が多くて、少し苦手なお子さんにも取り組みやすい出し方をしているという印象を持ちました。

私は以上です。

吉田教育長 渡辺委員。

渡辺委員 私もほかの委員さんと同じなのですけれども、各社とも資料が豊富で、適切な地図もついでいて、よろしいと思ったのですけれども、特によいと思ったのが、第1号委員の保護者の方から、思考ツールを掲載されていて、ノートに自分の考え方をまとめる部分が分からない場合に活用できるとの意見があったとのことですが、やはりどうやってまとめていいか、知識をどうやってまとめるかというのが分からないお子さんも多いと思うので、そのようなときにやはり東書は、まとめのところで見開き1ページを使って丁寧に誘導しているという印象があり、同様に帝国も、学習の振り返りは見開きを使ってまとめられるようになっていて、いいと思いました。

また、帝国は、写真の掲載がとても上手だと思っておりまして、例えば14ページなのですけれども、日本の姿というところで、日本とアメリカ、ローマとかニューヨークの、同じ緯度のところでどうなっているかという比較して載せてあり、あとは28ページの気候のところでしょうか、この辺の載せ方とかも、非常に分かりやすいという印象があります。

そして、教育出版ですけれども、巻頭のローマ数字のⅢ番のところに、地理的分野、歴史的分野、公民分野との関係が示されていて、1年生には公民はまだ分からないでしょうけれども、こういう形で学んでいくという流れが分かったりとかして、あとはSDGsのことが初めから出ていて、これとの関わりで学んでいくということが分かって、これもよいと思いました。

以上でございます。

吉田教育長 ありがとうございます。

私からも1つだけですが、思考力、判断力、表現力というところでは、地理的分野では、地理的な事象の意味や特色などを、空間的な広がり、あるいは自然環境との相互依存関係であるとか、あるいは空間的な相互作用、さらには地域そのものにも着目して、地理的な、あるいは物の見方、考え方を働かせながら、多面的、多角的に思考力あるいは判断、表現できる力、これを養うということが求められているわけですが、

そこで、世界の諸地域の学習について、東書では、アジア州からオセアニア州と、56ページになりますけれども、56ページから139ページまでにわたって世界を学ぶと。我々が以前勉強したときには、教えたときには、それぞれ、同じように地域を扱ってやってきたのですけれども、今、扱い方が少し違って、例えば節の初めに、59ページを開いていただきたいのですが、アジア州では急速な経済発展、これを研究課題として挙げて、77ページで、ヨーロッパにはどういう扱いをしているのかというと、ヨーロッパ州では統合、これはEUを想定しているのでしょうけれども、今少し、イギリスが抜けるとか、いろいろありますけれども、それから117ページの南アメリカ州、これはどうかというと、今、アマゾンの開発なんかが、森林が問題になっていますけれども、開発とその影響及び、いわゆるSDGsのところ、持続可能な開発などの州ごとの地域の特色を踏まえた探求活動、これを設定して、さらに1単位時間ごとに探求課題を追求するための見通しを

持った段階的な課題が示されて、地理的ものの考え方、これを深めていこうという学習を進めやすくしている。

例えば76ページを少し開いてもらいたいのですけれども、「ヨーロッパ州を眺めて」では、最初に出た、アジアの最初で自然とか環境とか文化、人口について、これはどこの会社も同じようですが、学習したと同じように、ヨーロッパでも自然環境や文化、人口について学習した後に、あと、見ていくと、統合に関わることをテーマにして、1時間ごとに課題を設定しているのです。これは別な言葉で言うと、課題が構造化していると、こういうことになるのでしょうか、そういうやり方をしている。日本でも同じように、学習指導要領に示され、これはどこの会社もやっていますけれども、自然環境、人口、資源エネルギー、産業、交通、通信というようなことを探求課題、それごとに探求課題を設定して追求するようになっています。こうしたことから、報告書には、探求課題を解決する流れが構造化されているという感想も書かれている報告書がございました。私からは以上です。

ほかにございますでしょうか。よろしいですか。

〔「なし」と答える者あり〕

吉田教育長 続いて、資料、それから表記・表現、総括、この関係についてということですが、先ほど来からお話が出ておりますので、これらについてはまとめて協議するということでよろしいでしょうか。

〔「異議なし」と答える者あり〕

吉田教育長 では、そのようにいたしますが、何かご意見等はございますか。

大分詳しくお話が出たので、よろしいということで、よろしいですか。

〔「なし」と答える者あり〕

吉田教育長 ほかの観点で協議したい内容等ございますでしょうか。よろしいですか。

〔「なし」と答える者あり〕

吉田教育長 なければ、これより社会・地理的分野の教科用図書に係る採択に入ります。

選定委員の先生方、ありがとうございました。

〔選定委員退室〕

吉田教育長 採択は無記名投票により行い、私及び5名の委員の5段階評価の合計点が最も高いものを採択いたします。

それでは、事務局より投票用紙の配付をお願いいたします。

〔投票用紙配付〕

吉田教育長 次に、投票箱を改めさせます。

〔投票箱点検〕

吉田教育長 各委員は順次投票をお願いいたします。

〔点呼に応じ順次投票〕

吉田教育長 投票漏れはございませんか。よろしいですか。

投票を終了いたしました。

それでは、開票及び集計に入りますが、事務局の集計に当たりまして、立会人として、堀川委員、それから進藤委員を指名いたします。

〔立会人立会いの上開票〕

吉田教育長 集計が終わりましたので、投票結果についてご報告いたします。

投票結果については、発行者番号、発行者名、評価点の合計の順番で、発行者順に読み上げます。

2 番	東京書籍	3 0 点
1 7 番	教育出版	2 1 点
4 6 番	帝国書院	2 6 点
1 1 6 番	日本文教出版	1 9 点

以上のとおり、社会・地理的分野の教科用図書は、2 番、東京書籍を採択することに決しました。

社会・歴史的分野の教科用図書について審議いたします。

選定資料の説明等のため、選定委員の入室を求めます。

〔選定委員入室〕

吉田教育長 社会・歴史的分野の教科用図書について、選定委員より選定資料の説明を求めます。

井上選定委員（新栄中校長） それでは、歴史的分野の報告をさせていただきます。

まず、東京書籍でございます。98ページ、99ページをご覧ください。先ほどと同じように、まとまりごとに比較しやすいように、確認しやすいようにやりたいと思います。今回は、近世の日本というところで、各社、チェックしていきたいと思います。

まず、こちら、見開きのページになっておりまして、導入の活動には、小学校で学習した人物や文化財の資料、用語を掲載して、マーク、例えば括弧、章等で示され、小学校の学習内容を中心に構成した年表を配置することで、小学校での4年間の社会科学習に中学校での3年間の学習を重ねた7年間の社会科学習を系統的に展開できるようにされております。

99ページをご覧ください。ここには、探求課題というものが載せられています。これが探求のステップということで、思考の流れが分かりやすくなっているところでございます。

例えば100ページをご覧ください。こちらに探求課題を受けた探求のステップが載せられています。これは、節ごとに確認できます。

また、144ページをご覧ください。こちらがまとめのページということになります。基礎基本のまとめ、こちらが左側に書かれております。また、右側のページには、先ほど挙げた探求のステ

ップ、これがそれぞれにまとめられるようになって、そして最終的に探求の課題、節の課題に結びつくように段階を追って進められるということになるわけです。

146ページ、147ページをご覧ください。こちらには、まとめの活動ということで、先ほどの基礎基本を押さえた上でまとめを行っております。ここでは、左側の下にありますように、ピラミッドストラクチャーというのが使われております。こちらも、まとめツール、思考ツールが非常に多くあります。

例えば96ページ、97ページをご覧ください。ここでは、そのまとめにXチャートというのが設けられております。

また、60ページ、61ページをご覧ください。ここでは、くらげチャートというのが使われております。名称もおもしろいですが、子どもたちが取り組みやすいようなまとめがそこに挙げられているということでございます。

また、25ページをご覧ください。その右下のところ、少し見にくいのですが、丸いリングが2つ重なっているようなところ、例えば他教科でも扱う学習内容には教科の関連マークが示されて、教科を横断した内容の確認ができるようにされています。

また、最初ですが、6ページ、7ページ、ここでは「歴史へのとびら」ということで、小学校で学習した人物や文化財、出来事を振り返る活動を設け、中学校での歴史学習にスムーズに導入できるような工夫がされているということも特徴です。

続きまして、教育出版です。96ページ、97ページをご覧ください。こちらが近世の導入部分です。「学習を始めよう」では、近世の暮らしと社会という形で掲げられています。これは、近世の暮らしと社会というところを少し覚えておいていただけると、例えば146ページをご覧ください。ここでは、近代の暮らしと社会というように、その時代ごとの暮らしと社会というのを図、絵で示されているというのが大きな特徴ということになります。

142ページをご覧ください。これがそのまとめのページです。各章末の「学習のまとめと表現」のページにおいて、歴史的な見方、考え方を働かせて時代の特色を自分なりの言葉で説明する活動を取り入れるなどの工夫がされているということになります。

また、144ページをご覧ください。時代の変化に注目しようというコーナーが設けられています。これも、ここの144ページ、あと206ページをご覧ください。つまり、こういう絵等で、時代の変化が分かるような形で示されているのも大きな特徴なのかなというふうに思いました。

2ページ、3ページをご覧ください。第1章では、小学校で学習した人物や文化財を振り返るという、先ほども挙げたのですが、時代区分や年表の見方を確かめる活動、これも入っているということになるわけです。

7ページをご覧ください。「歴史にアプローチ」では、小学校で活用した見方、考え方などを振り返りながら、中学校での歴史学習の進め方や見方、考え方、資料活用の方法を確認できるよう

に構成され、本編での学習活動に役立つように工夫されるなど、発達段階に応じて無理なく学習が進められるようになっているという特徴があります。

続きまして、帝国書院です。94ページ、95ページをお開けください。こちらが近世の最初の導入の部分です。こちらは、1ページに全て問いが示されています。章の問い、節の問い、そして1時間当たりの見開きの問い、学習課題と、各本文ページにそれぞれ冒頭に単元を貫く問いを設け、生徒自身が日々の学習内容に見通しが持てるように工夫されているというのが特徴です。

146ページ、147ページをお開けください。「章の学習を振り返ろう」というまとめのところでございます。社会に見られた課題に対する当時の様々な立場を通して、多角的、多面的な考察を深め、自他を敬愛した、公共の精神に基づく正義感、責任感を養えるように工夫されているということでございます。章の問いに対するまとめで、振り返りがやりやすいようになされているところです。

102ページをご覧ください。帝国書院さんの、私は一番大きな特徴はこれだと思っています。「タイムトラベル」です。非常に絵が、イラストが大きく、分かりやすく書かれています。一般の人々の姿を積極的に描かれている、つまり授業をしている教員は、ここから子どもたちにいろいろなことをつかませるということができるわけです。

例えば24ページ、25ページをご覧ください。これも、見開きで大きく当時の生活の様子、ここから子どもたちがいろいろと探っていくということができるような、そうすると、ではほかの時代は何だろうということ、興味深く見るということができるような、「タイムトラベル」というのが設定されていることになります。

また、146ページをご覧ください。先ほどのまとめの部分のところでは、146ページの真ん中、右側のところにあるように、「タイムトラベル」を眺め直そうというコーナーがございます。こうして比較をすることによって、その時代を振り返るという、まとめていくということができるように工夫されているのも大きな特徴です。

続きまして、山川出版です。102ページ、103ページをご覧ください。上が、近世の日本の導入の部分です。ここでは、日本史、世界史が並列になっていて、日本のこのときに世界はどんなことが起きていたのかというのが一目でわかるように、またそれに関連するような資料が上下に散りばめられているということになるわけです。

152、153ページをご覧ください。これがまとめのページです。時代全体を俯瞰して考えるための問いがあり、テーマで描いている事象がどのような時代を背景としたものなのか、歴史の変化の過程で起こる諸課題がどのように解決され、積み重なってきたかを調べられるように、学ぶことができるように工夫されているということになります。

105ページをご覧ください。右側の下のところに、ステップアップというコーナーがございます。つまり、1単位時間でさらに深めたい内容について、そこに必ず見開きのページの、そのところ

ろにステップアップのコーナーが設けられているということになるわけです。

また、110ページ、111ページをご覧ください。これも大きな特色ですが、各世紀の世界の様子ということで、日本の歴史を扱いながら、世界のことが概観できるような形の構成になっているというのも大きな特徴です。

150ページ、151ページをご覧ください。ここでは、身の回りの生活や身近な地域と歴史との関連を気づかせる発問が用意されています。これが「地域からのアプローチ」です。ここでは、奈良、福岡、平泉、金沢等を取り上げて、各事例地を通して歴史学習が紹介されています。つまり、地域から歴史を見ていこうというコーナーでございます。

続きまして、日本文教出版です。106ページをご覧ください。これが近世の日本と世界の導入の部分でございます。これは、かなりダイナミックに紙面を使っております。見開きのページを見ていただければ、左側に中世、右側に近世、一目でその様子の違いがわかるということになるわけです。

これは、例えば158ページ、159ページをご覧ください。ここでは、見開きのページではございますが、同じような形で比較ができるように構成されているということでございます。

110ページ、111ページをご覧ください。その学習の中に、地図で見る世界の動きということで、こちらも日本の歴史の中に世界の歴史があって、世界の中の日本というのを必ず注目させるような形のものでございます。

続きまして、298ページをご覧ください。歴史の学習の最後に、よりよい未来を構想する教材を設定して、新しい時代を築く社会の参画者を育てるような工夫がここになされているということになるわけです。

また、56ページをご覧ください。地域や先人の知恵に学ぶことができるように、身近な地域の歴史や文化財、先人を紹介するコーナーや特設ページを豊富に設けられているというのも大きな特徴です。

続きまして、育鵬社です。103ページをご覧ください。章の初めに、海洋国家日本の歩みというのがございます。これは、必ず海に関する、海洋国家としての日本ということで印象づけられています。

例えば155ページをご覧ください。ここには咸臨丸が描かれているという、海洋国家の日本というのが印象づけられているというところです。

104ページ、105ページをご覧ください。これが大きな特徴だと思っています。鳥の目で見ると近世、そして次のページは虫の目で見ると近世というコーナーがございます。鳥の目、つまりこれは歴史を体感しているというもので、虫の目、これは時代の特色を表しているというもので、それぞれの時代ごとにこういうふうな形でコーナーを設けてあるというのが大きな特徴です。

150ページ、151ページをご覧ください。歴史のターニングポイントというものです。よく授業

では、歴史のターニングポイントという形で授業が進められるのですけれども、そういうコーナーがここに設計されています。

そして、おもしろいなと思ったのは、例えば151ページ、私の歴史博物館をデザインしてみようというコーナーがあるのです。実はこれ、ほかのところにも同じようにあります。例えば98ページ、99ページ、これも同じように歴史博物館のデザインという形で取り組めるようになっているという、子どもにとってみると興味が湧く内容なのかなというふうに思いました。

また、8ページ、9ページをご覧ください。こちらは、序章に小学校で学習した歴史上の人物42人の似顔絵が描かれているということ、これと中学校との、これから学んでいくという意欲が高まるのかなというふうに思っているところです。

最後です。学び舎をご覧ください。86ページ、87ページをご覧ください。こちらが近世の導入部分です。章の扉のページに、これは北極を中心にした地図を描き、テーマに沿って世界各地の様子を想像、予想できるように工夫されています。また、歴史の現場となった各地域の様子を、出来事を具体的に記述して、地域の遺跡や文化財、博物館や資料館の名所を取り上げているというのも大きな特徴です。

134ページをご覧ください。これがまとめのページです。振り返りということで描かれています。ここの大きな特徴は、右側のところにインタビューということで、それぞれ、9つの立場の人に、どんなふうにその時代を見ていたのかということで、多角的、多面的な見方ができるような工夫がなされているということでございます。

また、最初なのですが、6ページ、7ページをご覧ください。歴史を楽しく学ぶためにということとそこに書いてあります。調べ学習の方法が会得できるように、また例題を通して年代の表し方が身につくようにされているというのも大きな特徴です。

96ページをご覧ください。これの大きな特徴は、そのタイトルです。例えば村に入ってきた秀吉であるとか、次のページ、僧が見た朝鮮の民衆であるとか、そのタイトルをイメージしやすい、その時代をイメージしやすいような工夫がなされているというのも特徴だと思われます。

以上でございます。

吉田教育長 ありがとうございました。

ただいまの報告について質疑を行います。

各委員の質問に続いて、選定委員の回答を求めます。

野口委員。

野口教育長職務代理者 それでは、まず選定委員としてどの教科書を推薦するかということでお願いします。

瀧田選定委員長（北中校長） お答えします。

選定委員会では、調査報告書、学校における教科書の調査研究報告、それから法定教科書審議

会会場において来場者の皆様からご提出いただきました意見などを参考にしつつ協議を行いました。

協議終了後、選定委員14名全員で、7種類の教科書発行者について、5段階評価で記載して無記名の投票をしました。70点が満点になります。

結果でございますけれども、2番、東京書籍、70点、17番、教育出版、42点、46番、帝国書院、57点、81番、山川出版、35点、116番、日本文教出版、33点、227番、育鵬社、32点、229番、学び舎、30点という結果です。

本選定委員会としましては、点数の多かった順に、70点の東京書籍、57点の帝国書院、42点の教育出版を推薦いたします。

以上です。

吉田教育長 ほかにございますでしょうか。

進藤委員。

進藤委員 選定委員会では、どのような話題が出ましたか。

井上選定委員（新栄中校長） 選定委員会では、話題として、主体的、対話的で深い学びが重視され、生徒が課題を見出すことが必要であることから、課題設定について、生徒が自ら自由に読み取ることができるようにしているものと毎時間課題を示しているものなど、各社様々な工夫があるという意見が出ました。

以上でございます。

吉田教育長 ほかに。

荒木委員。

荒木委員 学校の調査報告書では、どの教科書会社の推薦が多かったのでしょうか。また、その主な理由について教えてください。

井上選定委員（新栄中校長） 学校からの推薦では、東京書籍を推薦する学校が最も多く14票、次いで、帝国書院7票、教育出版と育鵬社が1票という結果でした。

推薦理由といたしましては、東京書籍では、単元の導入部に、小学校で学習した内容を振り返り、これから学習する内容に対する課題、探求課題を掲載されており、学習する生徒にとって分かりやすい構成になっているためというのがございました。

帝国書院では、時代ごとのイラストから、その時代の特色を考えるページが設定されていて、生徒の意欲を高める工夫がされているということが出ました。

教育出版では、タイトルが見やすく、大きな写真を使用しているので、イメージがしやすいということです。

育鵬社では、思考、判断、表現の向上のページが他社よりも使いやすく、書き込みスペースが充実しているなどの意見が出ました。

以上でございます。

吉田教育長 よろしいですか。

ほかにございますでしょうか。

渡辺委員。

渡辺委員 選定委員会には1号委員として保護者の方がいらっしゃいますが、どのような意見が出ましたでしょうか。

瀧田選定委員長（北中校長） 私からお答えします。

選定委員から、1号委員からですけれども、自分が使っていた教科書に比べて、非常にイラストや写真が大きくて分かりやすく、たくさん使われているという印象だというお話がありました。これで子どもたちも興味を持って取り組めるのだろうなということで、自分もこんな教科書で授業を受けてみたいというような意見をいただきました。

以上です。

吉田教育長 ほかにございますでしょうか。よろしいですか。

〔「なし」と答える者あり〕

吉田教育長 ほかになければ、質疑を終わりにします。

それでは、協議を行います。

選定資料にある4つの調査の観点に沿って協議を進めたいと思います。まず、調査の観点1、内容についてご意見はございますか。

進藤委員。

進藤委員 いずれの会社も、世界の中の日本という視点で、世界史の記載が増えていると思いました。

山川は少し違うのですけれども、巻末附属の年表も日本史と世界史が併記されていて、各章の扉で年表がやはり日本史、世界史が明記されていました。

あと、いずれの教科書も見開きのページで1つの授業の単位という形の構成になっておりまして、まず冒頭のところに導入資料があって、次に学習課題、そして本文があって、若干の例外もあるのですけれども、最後に確認とか表現とかという形でまとめの活動をさせている、この点、山川が、まとめというよりはむしろステップアップという形で、さらに次の段階に深い学びをさせようという形になっていて、少し学び舎に関しましては、特段、まとめのような、各時間では活動はないのかと思いました。

あとは、東書、教育、日文に関しましては、見開きごとに歴史スケールが掲載されていて、今自分たちがどこの時代を勉強しているのかということを常に意識できる工夫がされていると思いました。

少し先ほど学び舎のことを申し上げましたので、私は学び舎が非常に独特だと思いました。そ

の独特なところの一つとしては、本文を拝見しますと、通常、教科書につきものの太字が何もないということです。これはむしろ、かえって生徒たちに考えさせる意図を感じました。また、先ほどのご説明の中にあつたように、タイトルも非常に独特で、例えば113ページなどは刀より権力の力であるとか、地鳴り、山鳴り、のぼりを立ててとか、この本はタイトルに人間の歴史とあるように、様々な立場の方とか、そういった人に焦点を当てた形での記載が多いと感じました。

1 単位時間よりも小さくくりで課題が示されて、章などはある程度のまとまりの、最後にまとめやすいような活動を設けているというのはほぼこの会社も共通しているところという感じが、ただ、最初の問いの投げかけ方には差異が生じると感じました。

学習を進めるに当たって分かりやすい構成になっていると思ったのは、やはり東書と帝国でした。すなわち、節や章などのまとまりごとに細かい課題が設定されていて、それらを徐々に段階的に解決することによって、より大きなまとまりの課題の解決につながるという流れを分かりやすく説明しているからです。また、節、問い、課題の開示の仕方も非常に分かりやすいと思いました。

特に東書に関しましては、先ほども話題に出ていましたように、章のまとめの活動の中で思考チャート、例えば61ページではくらげチャート、146ページにはピラミッドストラクチャー、96ページにXチャートなどが活用されていて、これらの思考チャートというのは、歴史に限ったことではなくて、他教科でも活用できるのではないかと思います。

その他、まとめの活動のところで私が気づいたのは、章ごとのまとめで特徴的だったのが、歴史の年表の穴埋めをさせるだけではなくて、地図を参照させて、その出来事がどこで起きているのかということを必ず確認させる作業があるわけです。これは、どこで、いつ、どんなことがあったのかということを具体的に理解させるために非常に有用なのではないかと思います。

特に日文につきましては、編ごとにまとめの部分には、世界史と日本史、双方の年表と地図を使ってまとめをさせるという活動が用意されていて、日本史と世界史の関係が非常にきれいに整理できると感じました。

また、章の初めに、あるいは時代の区切りの部分にその時代を大きく捉えるために様々な工夫があり、特にユニークだと感じたのは、私は育鵬社でした。先ほどもありましたように、鳥の目で見ると、虫の目で見るというタイトルで、鳥の目では、イラストを用いて、時代をマクロ的な観点から見て、虫の目では、資料や写真を使ってミクロ的な観点から観察させて、多面的なところから観察させるというところでおもしろいと思いました。

また、イラストを利用したものとしては、帝国の「タイムトラベル」、これは非常におもしろくて私は大好きだったのですけれども、その時代のイラスト、大きなイラストを用いて様々な想像させたり、議論させたりするきっかけを提供されていると思いました。

読んでいて非常に感じたのは、出版社ごとの違いが以前よりは小さくなっていると思いました。

それでもやはり読み進めていくと、執筆者の考えであるとか歴史観であるとかが見え隠れして、読む側としてはついにやっとしてしまうところもあるのですけれども、採択するに当たっては、見え隠れするのが多いほうがいいのか、少ないほうがいいのかということをよく考えなくてはならないと思いました。

以上です。

吉田教育長 ほかにございますでしょうか。関連していても結構ですが。

野口委員。

野口教育長職務代理者 今回、学び舎さんでは、まとめがなく、大事なものについても自分で見つけるような工夫もあると思いましたし、あとは山川出版ですか、どちらかというと高校で使っている部分が多いので、先へつながる内容について詳しく説明する部分が多いという印象も持ちました。

ただ、現場からの声で、東書の声が多いのですけれども、やはり地理と同様、どこもそうなのですが、見開きにして分かりやすいというのがありますし、また小学校とのつながりもかなり明確にされている、現場としては使いやすいのだろーうと思いました。

最初の導入の段階で、小学校の学習事項があり、特に年表でざっくり小学校の歴史を振り返りながら、最終的にはもっと詳しい年表でまとめるということで、どんなものを詳しく学習したのかということは分かりやすくなっている、その辺りが分かりやすいという印象を私は持ちました。

以上です。

吉田教育長 ほかにございますでしょうか。

荒木委員。

荒木委員 私も、進藤委員さんと野口委員さんと同じように感じました。

帝国では、やはり「タイムトラベル」が、生徒たちが歴史への興味を持って取り組めるのではないかと思います。

あと、東書さんは、先ほどの地理と同じように、まとめのページがしっかりしていると思います。歴史の探求のステップは、発展性のある内容になっていて、いいと思いました。

以上です。

吉田教育長 渡辺委員。

渡辺委員 私は、世界大戦のところを少し比較してみたのですけれども、どの出版社も第一次大戦、第二次大戦、書いているのですけれども、特に、教育出版、このような形の見開きでまとめを作っていて、非常に分かりやすいという印象を持ちました。

それと、山川は、野口委員さんからもありましたように、やはりもともと高校の教科書に強かったと思ったのですけれども、例えば大戦のところのまとめなのでも、ここの第一次大戦と第二次大戦を分かりやすく、これについてまとめようとして書いてあって、これは非常におもしろ

ろいと感じました。

あとは、少し印象に残ったのが帝国なのですけれども、年表は帝国はたしか、割と縦に使って、教科書の内容を見てみても、なるべく縦で年表を使っているという印象を受けました。

以上でございます。

吉田教育長 ほかに。

堀川委員。

堀川委員 ご説明ありがとうございました。

私は、各社、本当に資料が豊富で、きれいで目を引く印象がありましたけれども、圧巻だったのは、日文さんの、先ほどのご説明にもありましたけれども、見開きの絵が印象に残っております。

また、今回、今までたくさんお話がありましたけれども、それ以外の面ということで、今回、アイヌと琉球の話題が増えているということで、少し見させていただいたのですけれども、各社、いろいろな視点から取り扱っておりました。東書さんでは、アイヌ文化と継承、また江戸幕府における琉球王国やアイヌ民族との関係といった視点から大変詳しく掲載されております。

また、帝国さんでも、東アジアをつなぐ琉球とかアイヌの交易、また琉球王国とアイヌの人々への支配といった点、また琉球とアイヌの人々の暮らしといったことで考えられて捉えていると思いました。各社、本当に丁寧にアイヌと琉球について書き込みがありまして、大変参考になりました。

また、余談ですけれども、来年、オリンピック、延期になりましたけれども、東書さん、日文さんではオリンピックの歴史などやオリンピックと日本といった掲載もありました。

私からは以上です。

吉田教育長 ありがとうございました。

ほかにございますでしょうか。

なければ、私からですけれども、皆さんのお話を聞いていて、もう一回授業をやるのなら全部の教科書を使いたい、いいところ取りでやりたいと思いましたけれども、そうはいきませんので。

1つ、生きて働く知識、技能としては、技能として資料から情報を読み取るというのが歴史では求められていて、したがって、いろいろな資料を載せているわけです。例えば東書の33ページを見ていただくと、文献資料の読み取り方というのが、右上にスキルアップというところで、文献資料を読み解く、これは丁寧に書かれていて、さらに37ページを見ると、よく出てくる系図の扱いについて、これについても、我々大人は分かっているけれども、子どもについては、日常目にしていないところでしょうから丁寧に解説をつけていると思いました。

それからもう一つ、技能として年表にまとめるというのがあるのですけれども、これも東書の8ページを見てみると、これもどの会社も当然ながら扱っているわけですが、最初の段階

で、8ページ、それから9ページ、さらに11ページと、これだけ年表について扱って、詳しくやっている。

それから、小学校の関連でも、例えば18ページを見ると、下に年表があつて、それで小学校との関わりがどういうところであるのか、年表で位置づけているのです。

それから、62ページへ飛んでいくと、同じように章の初めで、同じような年表が載っております。年表を大事にしているな、それから年表でまとめて使っているのだな、小学校で習ったこともここに位置づけさせていると思いました。

それから、思考力、判断力、応用力というところかというと、歴史的な分野では、歴史的な事象の意味や特色など、その時期や当然年代、あるいは移り変わりに着目して、歴史的な物の見方、考え方、時間的に見るということでしょうか、多面的、多角的に判断できる力、そういう力を養うことが求められているのですけれども、例えば東書では150ページを開いてください。150ページからずっと、163ページの順で学習するのですけれども、これは近代化の進展ということでございますけれども、特に156ページに世界地図が載っていて、日本との関係が注目される中で、アメリカの領土の広がっていった、獲得していった領土とか年代、これが出されているのです。同時に、162ページを見ると、経緯図。

この両方を見せているのは、ほかにもあるのですけれども、例えば帝国でも、挙げている資料が少し違いますけれども、この2枚を見て、かなり、いわゆる、選定委員からターニングポイントというところがありました、ターニングポイントとしてこれは使えと、いろいろなものが概観できると思いました。資料の扱い方、見せ方がうまいということです。

例えばペリーの上陸が2枚の資料から、歴史的な位置、地理的な位置、何でこんな遠いところにやってきたのだと、たしか東から始まったのだよな、しかし西へたどり着いた。やってきた船を見てみると、日本の船と比べると違いがある。これは、産業革命があつたのだから、何のために来たのだろう。鯨だ、鯨の肉を食っているのかな、鯨油、潤滑油。そうすると、産業革命と一緒になのかな、同時期のことなのだな。やがてこれは、潤滑油というのはオイルに変わっていくのです。石油と関係してくるのだけれども、石油はまだ大規模に開発されていないです。いろいろなことが分かりますよね。非常にターニングポイントでして、こういう資料の見せ方が一つできるというところがおもしろいかな。どこまで資料を提供したらいいのだろうという進藤委員さんの話にもありましたけれども、やはり使い方かと思えますけれども、そういう資料が教科書にも、普通だと副教材を使ってやるのだけれども、教科書に載っているところが非常におもしろい。

また、歴史的な分野では、あれもこれもつい教え過ぎてしまうことが多いのですけれども、章の初めに探求課題と節ごとに探求課題を追求するための段階的な課題、これは先ほどの地理でも同じでしたけれども、構造化されていて、これに沿って授業を組み立てることにより知識が偏り過ぎない、しかも基本的な事項を精選することも可能になるという思いで聞いておりました。報告

書でも、資料が豊富で、副教材をカバーできる内容になっていて使いやすいという報告が東京書籍ではあったように思います。

ほかにごきますでしょうか。1についてはよろしいですか。

〔「なし」と答える者あり〕

吉田教育長 それでは、先ほどと同様、資料、それから表記・表現、総括についてはまとめてご意見を伺いたいと思います。何かごきますでしょうか。

これについても、先ほど同様、いろいろなところで資料を使いながらご説明いただきましたので、よろしいですか。

〔「なし」と答える者あり〕

吉田教育長 では、ほかの観点でご協議したいことはごきますでしょうか。よろしいですか。

〔「なし」と答える者あり〕

吉田教育長 ないようですので、歴史的、歴史の教科用図書に係る採択に入ります。

選定委員の先生方、ありがとうございました。

〔選定委員退室〕

吉田教育長 採択は無記名投票により行い、私及び5名の委員の5段階評価の合計点が最も高いものを採択いたします。

それでは、事務局より投票用紙の配付をお願いいたします。

〔投票用紙配付〕

吉田教育長 次に、投票箱を改めさせます。

〔投票箱点検〕

吉田教育長 それでは、各委員は順次投票をお願いいたします。

〔点呼に応じ順次投票〕

吉田教育長 投票漏れはごきませんか。よろしいですか。

〔「なし」と答える者あり〕

吉田教育長 投票を終了いたしました。

それでは、開票及び集計に入りますが、事務局の集計に当たりまして、立会人として、荒木委員、それから渡辺委員を指名いたします。

〔立会人立会いの上開票〕

吉田教育長 集計が終わりましたので、投票結果についてご報告をいたします。

投票結果については、発行者番号、発行者名、評価の合計の順番で、発行者順に読み上げます。

2番	東京書籍	30点
17番	教育出版	22点
46番	帝国書院	25点

81番 山川出版社 19点

116番 日本文教出版 19点

227番 育鵬社 17点

229番 学び舎 17点

以上のとおり、社会・歴史的分野の教科用図書は、2番、東京書籍を採択することに決しました。

社会・公民的分野の教科用図書について審議いたします。

選定資料の説明等のため、選定委員の入室を求めます。

〔選定委員入室〕

吉田教育長 社会・公民的分野の教科用図書について、選定委員より選定資料の説明を求めます。

井上選定委員（新栄中校長） それでは、公民的分野です。

今回は、単元、大きなまとまりとしては、私たちの暮らしと経済、経済のところで6社、見ていきたいと思っております。

東京書籍、127ページをご覧ください。各単元の導入部に、小学校社会科や地理、歴史で学習した内容を用語や写真で振り返り、活動を設けることで、小学校の学習から中学校への学習へと円滑に接続できるようになっています。また、地理、歴史の学習との関連を意識しながら効果的に公民の学習が進められるように工夫されています。127ページ、下の写真のところにある、先ほど、おむすびの形をした、公、地、歴と書いてあるところがこれに当たります。

128ページ、129ページをご覧ください。導入の活動です。コンビニの経営者になって出店計画を立てようということでございます。子どもたちにとっては非常に興味のある内容が示されていて、経済学習の導入として工夫されているなというふうに感じるところでございます。

また、130ページ、131ページをご覧ください。各単元の学習を、単元全体を探究課題、そして探究のステップ、1単位時間の学習課題の3段階の問いがあり、細かいステップで課題を解決することで、思考、判断した内容を適切に表現することができるように工夫されているということでございます。

174ページをご覧ください。ここが振り返りの内容でございます。探究のステップの問いを解決しようということで、まとめの活動を通して、章で学習した内容を整理させることで何を学んだのかを捉えられるように工夫されているところでございます。

また、次の176ページをご覧ください。初めのところではコンビニの出店計画、そしてまとめの活動ではコンビニのお弁当を企画しようというようなコーナーが設けられ、子どもたちが非常に工夫して、関心を示すような内容がここに掲げられているということであります。

また、同じように、76ページをご覧ください。これは政治のところで、導入のページでは、誰を市長に選ぶということ、そして122ページ、ここではS市の市長になって条例をつくろうという

ことで、導入とまとめで関連のある、こういう形のものが準備されているということでございます。

また、167ページをご覧ください。右上のところに、介護の楽しさとやりがいということで、介護福祉士の方のインタビューが載せられているところがございます。これからの進路を考えていく上で、また今、世の中がどういうふうな形になっているかということで、現場で働く方のインタビュー記事が幾つか載せられているのも大きな特色です。

続きまして、教育出版です。128ページ、129ページをご覧ください。ここが経済の最初の部分のところなのですが、ここでは学習の初めに、もしも全ての給食を1人で作ったらということをやテーマに、分業と交換、生産性の向上、経済の基本になるような考え方が入っているということになります。また、単元を貫く学習課題が提示され、それを解決するために学習を積み重ね、まとめ学習で振り返るという流れになっているということでございます。

130ページをご覧ください。これが1単位時間の授業の流れということになります。左側に、節の狙い、本時の課題というのが載せられています。また、右側には、確認、表現、びっくりマークのものが毎時間、その場所に設定されていて、子どもたちが毎時間、同じようなスタイルで学ぶことができるようになっているということでございます。

164ページをご覧ください。これがまとめの活動です。学習のまとめの表現では、思考ツール、ここではマトリックスというのが使われているのですが、活用して課題に取り組み、学習内容を統合、進化できるように工夫されているということになります。また、章の課題のまとめがそのところでなされているということも大きな特徴です。

141ページをご覧ください。ここでは、「公民の窓」というコーナーがあります。日本や国際社会の情勢について認識を深めることで社会参画する態度を養うように、それぞれのページ、それぞれのコーナーが設けられております。

また、180ページをご覧ください。その下、欄外部分のところですよ。小学校や他分野、他教科との関連を表示し、系統的な学習がしやすいようにされているのが特徴です。

また、ローマ数字、巻頭の部分なのですが、IVページです。学びの記録としての公民のノート作りということで、ここではノート作りについても教科書に書いてありました。これがほかのところにはない特徴かなというふうに感じたところがございます。

続きまして、帝国書院です。107ページ、108ページをご覧ください。帝国書院の大きなイラストがここでも掲げられて、書かれております。この大きなイラスト、これは小学校との関連というのもございます。見方、考え方を捉えるという意味でも、非常に大きな役割がここにあるというふうに考えられます。

ほかのページはどうなのかなというふうに調べてみると、例えば171ページ、172ページです。ここでも大きなイラストで描かれているという、子どもたちが問題に関して気がつきやすいよう

な内容になっているということでございます。

続きまして、109ページ、110ページ、1単位時間の流れが書かれています。章の問い、一番上にあります、節の問い、そして本時の課題が1ページ内に全て網羅されています。章の初めに単元を貫く章の問いが明示され、見通しを持って学習に取り組めるように工夫されているということです。

そして、155ページです。章の学習を振り返ろうということで、知識、理解の部分、また右側には、見方、考え方を働かせて、思考力、判断力、表現力を身につけようということで、先ほどの課題に沿った内容が書かれているということがあります。

また、111ページ、112ページをご覧ください。ここでは、「アクティブ公民」というコーナーで、あなたが無人島に漂着したらという、これも子どもたちにとっては非常に興味深い内容のもので、話し合い活動、自分の考えを表現するような内容のものに工夫されているということになるわけです。

154ページをご覧ください。ここには、「先輩たちの選択」ということで書かれております。中学生のメッセージを設定しており、社会の中で取り組む一歩への意欲が高まるような工夫がされているということです。こういうコーナーが幾つか設けられているというところが大きな特徴です。

続きまして、日本文教出版です。122ページ、123ページをご覧ください。こちらは、漫画からその編の見方、考え方というのを捉えさせるような仕組みになっています。ここでは、希少性や分業と交換という考え方を挙げているわけです。例えば34ページ、35ページ、ここでも同じような形で見方、考え方を捉えているということになっているわけです。

続いて、124ページ、125ページをご覧ください。学習の課題、見方、考え方、これが示されています。また、右側には確認、または深めようというコーナーが左側に載せられています。どのページも同じような形で展開されております。

175ページをご覧ください。学習の整理と活用の部分でございます。右側には、ピラミッドチャートを使った、シンキングツールを使ったまとめというのがそこに書かれています。多角的、多面的に考えられる工夫というのがなされております。

また、152ページをご覧ください。ここには、職業について調べようということで、社会参画を促すページとして「明日に向かって」というコーナーが設定されております。学習内容を生かして地域の課題や将来について考え、社会参画する態度を養うように工夫されているわけです。

また、この教科書のおもしろかったなと思うのは、巻末です。ここに、日本の人口を100人に縮めてみるとというコーナーがあります。こうして小さい人数で世界を見てみよう、日本の様子を見てみようということで書かれている内容がございました。

続きまして、自由社です。122ページ、123ページをご覧ください。知識及び技能を習得される

ようにするために、1単位時間に「ここがポイント！」ということで、授業で押さえるべき確認事項が示してあります。これが見開きのページの右側の下のところに、必ずこの位置に設定されているということになります。

また、129ページ、この右側のところに「やってみよう」という、小さなコーナーなのですが、話合いの視点が示されているということになります。

また、160ページ、161ページ、「アクティブに深めよう」ということで、歴史的な文化背景や社会の仕組みについて考察することで、個人と社会との関わりを中心に学習をする、理解できるようにするように工夫されています。自分の考えを説明する力を身につけられるように工夫されているということです。

また、こちらは終わりの章にレポートと卒業論文をつくろうというコーナーも設けられているというのが大きな特徴です。

134ページをご覧ください。ここは、「もっと知りたい」というコーナーを設けて、重要な事柄を深く理解するために工夫されているというコーナーが設けられております。

続きまして、育鵬社です。116ページ、117ページをご覧ください。ここには「入り口」というものがあります。ここでは、経済の入り口というのが設けられています。グループ活動を設定して、学習内容の見通しを持って主体的に学習に取り組めるように工夫されているということです。ここでは、コンビニエンスストアの新たな店づくりの中のポイントがここに示されているということです。

では、118ページをご覧ください。ここに、1単位時間の学習内容が書かれています。右下に鉛筆マークがありますが、また「やってみよう」というコーナーを設けて、自分の考えを説明する力を身につけられるように工夫してあります。

また、164ページ、165ページをご覧ください。これは「これから」ということです。先ほどが「入り口」だったのに対して、これが「これから」ということです。特にここでは、コンビニエンスストアを経営する会社、これの行動計画というのが示されているということで、先ほどの「入り口」との関連づけがここになされていて、社会参画への意欲を引き出すようなものがここに示されているということです。

162ページをご覧ください。「やってみよう」というコーナーで、人生をデザインしよう、公民ということで、中学校を卒業した後の自分をデザインしてみようというコーナーもここで特別に設定されているということでございます。

私からは以上です。

吉田教育長 ただいまの報告について質疑を行います。

各委員の質問に続いて、選定委員の回答を求めます。

野口委員。

野口教育長職務代理者 それでは、説明ありがとうございました。

まず、選定委員としてどの教科書を推薦するのかご説明願います。

瀧田選定委員長（北中校長） お答えします。

選定委員会では、調査報告書、学校における教科書の調査研究報告、それから法定教科書展示会会場において来場者の皆様からご提出いただいた意見等を参考にして協議を行いました。

協議終了後、選定委員14名で、全員が6種類の教科書発行者について評価を5段階で記載し、無記名で投票いたしました。70点が満点ということになります。

結果でございますけれども、2番、東京書籍、70点、17番、教育出版、43点、46番、帝国書院、59点、116番、日本文教出版、33点、225番、自由社、30点、227番、育鵬社、30点という結果です。

本選定委員会としましては、点数の多かった順に、70点の東京書籍、59点の帝国書院、43点の教育出版を推薦させていただきます。

以上です。

吉田教育長 ほかにございますか。

堀川委員。

堀川委員 選定委員会ではどのような話題が出たのでしょうか。

井上選定委員（新栄中校長） 選定委員会では、授業の導入について、各社、導入時に写真やイラストを掲載し、生徒の興味、関心を高める工夫が見られるということが出ました。

以上でございます。

吉田教育長 ほかに。

進藤委員。

進藤委員 学校の調査報告書では、どの教科書会社の推薦が多かったのでしょうか。また、その主な理由について教えてください。

井上選定委員（新栄中校長） 学校からの推薦では、東京書籍を推薦する学校が最も多く13票、次いで、帝国書院、5票、教育出版、2票という結果でした。

推薦理由といたしましては、東京書籍では、18歳成人に向けた主権者教育に関する項目が整備され、思考力、判断力、表現力を育成する紙面構成が単元の導入、展開とリンクした状態でなされているためというのが多くありました。

また、帝国書院では、「アクティブ公民」では現実社会に見られる様々な課題が設定されており、グループ学習を通して様々な立場を踏まえた上で合意形成を目指す議論を行うことで、課題の追求、解決に向けて取り組めるよう工夫がされているというのがありました。

教育出版では、章単元を分かりやすくまとめてあり、生徒が内容を掌握しやすいというのがありました。

以上です。

吉田教育長 ほかにございますでしょうか。

荒木委員。

荒木委員 消費者教育や女性教育に関する内容が各社取り扱われているのでしょうか。

井上選定委員（新栄中校長） 中学校指導要領解説社会科編には、消費者の自立の支援を含めた消費者行政を取り扱うことと示しております。

租税については、財政及び租税の意義、国民の納税の義務について理解することと示されております。よって、税の負担者による租税の使い道や配分のあり方、選択、判断する、責任ある行動などについて理解と関心を深めるなど、納税者としての自覚を養うことが大切であります。

消費者教育につきましては、各社で取り上げています。特に東京書籍、帝国書院の2社の記述が多くなっており、法律や消費者行政等についても記述されております。自立については、東京書籍が太字で記されています。

租税教育については、東京書籍、教育出版、帝国書院、日本文教出版、育鵬社が選択、判断するような記述で結んでおります。

以上でございます。

吉田教育長 ほかにございますでしょうか。よろしいですか。

〔「なし」と答える者あり〕

吉田教育長 ほかになければ、質疑を終わります。

それでは、協議を行います。

選定資料にある4つの調査の観点に沿って協議を進めたいと思います。まず、調査の観点1、内容についてご意見はございますか。

進藤委員。

進藤委員 見開きを1単位時間として、冒頭に導入資料、そして本文、学習課題が掲載されていて、本文、そして最後にまとめの活動という構成は、公民においてもほぼこの会社も同じような構成になっておりました。

そして、章の初めなどに導入的なページを設けて、当該単元での学習内容を概観させ、目当てを提示するなどの概括的なものを設定していることも、ほぼこの会社もしておりました。いずれも導入の部分の活動が凝っていて、当該単元と学習の見通しや学習内容が分かるような工夫が施されていると感じました。

学習の内容の流れという点では、やはり東書、帝国は、大きなくりである章ごとに探求課題あるいは問いを設定して、それよりも小さなくりの節でも同様に課題を設定し、本文の課題、そして節の課題を徐々に解いていくことで、段階的に、最終的に章の課題の解決ができるようなやり方を取っていて、学習のプロセスが非常に分かりやすいと思いました。特に東書に関しましては、章のまとめの前に各節の探求課題を振り返る構成になっておりまして、きめ細かな復習が

できて、より知識の定着が図れるのではないかと感じました。

導入部分で、先ほどにも話題になりましたけれども、128ページで、例えばコンビニの経営者になろうということを導入でやって、また最後のまとめの177ページでコンビニの弁当を作ろうという形で、導入とまとめをリンクさせるというのも非常におもしろいと思いました。例えば教育出版が節ごとの課題を設定して、章ごとには学習の見通しというものを掲載されておりましたけれども、なるべく小さくくりで課題設定をするほうが学習の方向性があらかじめはっきりしていて、学ぶほうにしてみるとやりやすいのではないかと思います。

あとは、各社、やはり章の末尾にまとめのページがあって、学習内容の確認と定着を図ることができると思いました。中でも東書、日文は、まとめの活動で、先ほど来話題になっているシンキングツールを使った活動が幾つか散見されました。もちろん、このシンキングツールに関しまして、帝国も「技能をみがく」というコーナーで紹介をしていましたけれども、やはり具体的な場面で使用させるほうが、生徒の印象に残るのではないかと思います。

コンビニに関する技能取得に関しましては、各社、いろいろなタイトル、コーナーで特集していましたので、それほど差がないのかと思いました。

あとは、内容的に、昨今、少しきな臭い話題になっている領土問題のことなのですが、いずれの教科書も扱っておりました。ただし、尖閣に関しては、自由社が非常に独特な扱い方をしていたと思いました。つまり、ほかの会社が全て領土問題ということでくくって、尖閣に関しては領土問題ではないという触れ方をしているのですけれども、自由社に関しては、領土問題の項目では一切触れず、国益の衝突というコーナーで詳細な記載を行って、日本固有の領土であり、領土問題は存在しないということを明記しておりました。ああ、こういう触れ方もあるのかという形で感じました。

また、東書は成人年齢の引下げを見据えて、18歳への準備のページで、社会生活で役立つ指針的なものとなっていて、私は非常に好感が持てました。

社会の課題については全教科書に提示されていますが、いずれも身近な問題を取り上げていて非常に興味深かったです。今さらながら、公民は社会生活を送る上で実践的な内容を学ぶものだと感じました。恥ずかしながら、そうだったのかというふうに自分自身が学び直す事態も非常に多かったと思います。いろいろな社会現象に目を向け、考え、社会参加をするための準備のために様々な工夫とそれぞれの筆者の思いがいずれの教科書からも感じられました。

以上です。

吉田教育長 幅広くご意見いただきましたけれども、関連することでもいいのですが、ほかにございますでしょうか。

野口委員。

野口教育長職務代理者 説明、ありがとうございました。

今、進藤委員さんからもお話があった内容とダブるのですけれども、現場の声からも、18歳成人に向けた主権者教育に関する項目が明記されているということでは、東書はきちんと明記されているという印象を私も持ちました。目次にも18歳へのステップということが明確に出ておりましたので、指導するほうとしては指導しやすいと思いましたし、また先ほどにもありましたけれども、「もっと公民」というところで、情報化のこととか、あるいはアイヌ民族のこと、それから東日本大震災のこと、あるいは空き家のこと、そして公害のこと等、非常に適切な内容で、世の中に目を向けさせていきたいという辺りがよく出ていたと思いました。

私からは以上です。

吉田教育長 渡辺委員。

渡辺委員 やはり公民は、もちろん新しい知識とか法令とかを学ぶということもあると思うのですけれども、それで、それをいろいろ読まなければいけないということもあるのですけれども、学習の振り返りがとても大切だと思うのです。

その観点から見ますと、東書が学習の振り返りで、まず基礎基本のまとめということで1ページ、それからまとめの活動ということで見開き、そして「もっと公民」ということで、さらにステップアップしたような内容ですか、視野を広げるという点で、とてもいいのではないかと思います。

以上でございます。

吉田教育長 ほかにございますか。

荒木委員。

荒木委員 東書では、地理において、また歴史においても同様に、問いに対する答えを求めていくことで全体での理解が深まるという点がよいと感じました。やはり東書はまとめのところが充実していると思います。106ページから107ページの「みんなでチャレンジ」の模擬裁判をやってみようなど、工夫が見られると思いました。

以上です。

吉田教育長 堀川委員。

堀川委員 では、それ以外のことで少しお話ししますが、私だけかもしれませんが、小学校のときよりも、少し抵抗があるのかという面があったのですけれども、東書の表紙を開いたところに、持続可能な社会の実現に向けてということで写真とともにあるのですけれども、そして、そこから次のページ、公民学習の初めにということで、写真などを見ながら、あっ、現代のこういったことを勉強するのかという、イメージがとてもすっきりしていて、つかみやすい表紙になっていると思いました。抵抗なく入れるという印象を受けました。

それと、消費者教育についても、各社、詳しく書いておまして、先ほど進藤委員さんからもお話がありましたけれども、東書さんの18歳へのステップ、契約のあれこれというような、消費

者トラブル、これから中学生に必要なことと思いますし、帝国さんでも、電子マネーとかキャッシュレス決済、また帝国さんではマイナンバーについても記載がありました。各社、電子マネーについても詳しく載っておりますけれども、これから中学生の子たちには欲しいということと感じました。

以上です。

吉田教育長 ほかによろしいでしょうか。

私からですけれども、堀川委員さんがおっしゃったように、公民というのは非常に複雑な社会事象をモデル化するというのをやるのですけれども、モデル化するにも新しい言葉が出てきたりして、あるいは政治、経済、法律に係る専門的な用語、これが出てくるので、子どもたちにとっては非常に難しいという感じを受けるのです。

そこで、各社ともいろいろな工夫をして、事象を捉えやすいようにしているのですが、一般的に公民的な分野では、取り上げる社会事象、日常生活と関連づけながらというところがあるので、これはそのとおりなのですが、具体的な事例を通してそれらについての理解を求め、多面的、多角的に考え、表現できるようにすることが求められているのですけれども、その中で、社会事象を政治、経済、法などに関わることとして捉え、ここのところが一番ポイントになるのです。相互に関連づけて考えるということで、公民的な見方、考え方を深めていくことが大切。

そういった形で、教科書の記述に沿って見ていくと、例えば東書では、先ほど来出ているかと思うのですが、25ページを見ていただけますか。25ページを見ると、説明全体を通して部活のトラブルのことをやったのです。これはずっと見ていくと、これでずっと追っているのです。部活のトラブルを解決するという設定で、現代社会の枠組みとしての、家族であるとか地域社会であるとか集団の中での決まり、権利、利益、責任、義務あるいは決まりをつくる方法、それから効率と構成、評価と見直し、これを学習していく中で、これは政治とか経済とか法に関わることとして捉えさせる、それで公民的な見方を広げる、こういうようなつくりになっているのかなと、自分事として主体的に取り組ませるという工夫がされていると。

同様に、150ページを開けていただくと、これも価格の変動って、私、大学でやった気がするのですけれども、こういうような、分かりやすくさせるために教えるわけですが、ケインズの有効需要にも関わってくる、そこまではやりませんね。それを何でやるかという、150から153にかけて、景気の価格の決まり方でやるのです。景気の価格の決まり方変動、これで景気を買いたいほうと売りたいほうとの関係で見ていくと、設定で、消費と生産に関わる需要量と供給量、こういった専門用語が出てくるので、供給量の関係で均衡価格が決まることや市場価格の変動、独占価格、独占禁止法、公正取引委員会、公共料金、これを学習していくのです。経済活動に関わることとして捉えさせつつ、先ほど言ったように、公民的な見方、考え方を働かせて、市場経済の仕組みについて考えるという、こういう流れになっているわけです。

また、先ほど来出ていますけれども、若者の選挙離れ、これが言われる中で、シチズンシップ教育などという言葉が取り沙汰されているわけですが、そこでよく言われるのが、もう少し具体的に教えたかどうかということなのですが、東書では、44ページや80ページで模擬投票の様子、これは写真だけですけれども、そういうのが掲載されて、また81ページでは大変複雑な選挙制度、これはほかの会社でも見られますけれども、分かりやすい表記をしています。複雑な選挙制度を分かりやすくするために工夫された資料、これを載せております。また、82ページでは、何かと癒着しにくい、いろいろ難しいことがあるので、癒着しにくい選挙公約の具体的な資料、これが載せてあります。ちょうど選挙の時期とぶつかってしまうとえらい騒ぎになったりするのですが、こういう教科書に載せてある分には使いやすい。

106ページでは、先ほど荒木委員さんからもご指摘がありました模擬裁判のシナリオ、こういうのを載せて、具体的にやりやすいように工夫されていると思いました。

また、少年議会を取り上げたり、それから市議会に提出した中学生の例を取り上げたり、いろいろな工夫をされておりますし、さらには若者の活躍、国連では女性の発言も取り上げられていて、そういう、シチズンシップ教育も視野に入れて工夫されていると思いました。

それから、ずっと社会科のところで見てきましたけれども、いわゆる様々な思考ツールですか、たくさん出てきましたよね。ツールミンとかウェビングだとか、フィッシュボーンとかくらげチャート、様々でした。こういう思考ツール、思考を整理するためのツール、これなんかもあるのです。したがって、報告書には、思考ツールが充実して、多面的、多様の考察ができるように工夫されているとか、あるいは身近な事例を用いて、子どもたちの興味、関心を高める工夫というような指摘があったと思います。

ほかにございますでしょうか。内容について、なければよろしいですか。

〔「なし」と答える者あり〕

吉田教育長 そのほかの観点、資料、それから表記・表現、総括についてまとめてお聞きしたいと思いますが、これについてもよろしいですか。

〔「なし」と答える者あり〕

吉田教育長 ほかの観点での協議についてはどうでしょうか。これもよろしいですか。

〔「なし」と答える者あり〕

吉田教育長 ないようですので、これより社会・公民的分野の教科用図書に関わる採択に入ります。

選定委員の先生方、ありがとうございました。

〔選定委員退室〕

吉田教育長 採択は無記名投票により行い、私及び5名の委員の5段階評価の合計点が最も高いものを採択いたします。

それでは、事務局より投票用紙の配付をお願いいたします。

〔投票用紙配付〕

吉田教育長 次に、投票箱を改めさせます。

〔投票箱点検〕

吉田教育長 それでは、各委員は順次投票をお願いいたします。

〔点呼に応じ順次投票〕

吉田教育長 投票を終了いたしました。

それでは、開票及び集計に入りますが、事務局の集計に当たりまして、立会人として、野口委員、それから堀川委員を指名いたします。

〔立会人立会いの上開票〕

吉田教育長 集計が終わりましたので、投票結果についてご報告いたします。

投票結果については、発行者番号、発行者名、評価点の合計の順番で、発行者順に読み上げます。

2 番	東京書籍	3 0 点
1 7 番	教育出版	2 3 点
4 6 番	帝国書院	2 6 点
1 1 6 番	日本文教出版	2 0 点
2 2 5 番	自由社	1 8 点
2 2 7 番	育鵬社	1 8 点

以上のとおり、社会・公民的分野の教科用図書は、2 番、東京書籍を採択することに決しました。

◎休憩の宣告

吉田教育長 それでは、午前中の審議はここまでとし、暫時休憩いたします。

休憩 午前 1 1 時 5 6 分

再開 午後 1 時 0 0 分

◎開議の宣告

吉田教育長 休憩前に引き続き会議を始めます。

地図の教科用図書について審議いたします。

選定資料の説明等のため、選定委員の入室を求めます。

〔選定委員入室〕

吉田教育長 地図の教科用図書について、選定委員より選定資料の説明を求めます。

井上選定委員（新栄中校長） それでは、説明いたします。

地図に関しましては、そちらの報告書にあるのですが、中身を見ながらというのはそろえたいと思います。まず領土について、それと防災について、そして環境について、この3点についてはそれぞれの会社ごとに見ていきたいと思っています。

まず、東京書籍です。巻末をご覧ください。日本の周辺の地図では、日本の東西南北、近隣諸国と領土を巡る問題を抱えている島々について写真を交えて示し、また日本の排他的経済水域についても示すことで、日本の領域などについて理解を深められるように工夫されております。

また、巻頭の部分をご覧ください。こちらの3ページぐらい後になるのですが、SDGsについても、こちら、東京書籍については触れられておりまして、国際社会が抱える様々な課題を理解できるように工夫されているということでございます。

続いて、151ページをご覧ください。ここでは、日本の自然環境、防災に関してのものが挙げられております。左下のところには、ハザードマップの例について掲げられており、写真等で分かりやすく書かれているというのが大きな特徴です。

また、中に、左側のページのところに「ジャンプ」というマークがあります。こちらは、基本資料やテーマ資料にこのマークが明示されて、関連づけて学習ができるように工夫されているところです。

また、上のタイトルのところにマル公、これは公民的分野との関わり、また152ページ、上のところの日本の主な公害のところには歴史の「歴」と書いてあります。つまり、地図を見ながらも、歴史、それぞれ、地理だけではなく、多分野の学習にも役立つように工夫されているというのが大きな特徴ではないかというふうに思います。

また、ここではDマーク、インターネット等でいろんなものが見られるというものが、巻頭の1ページ、2ページ、3ページの右下のところにまとめて配置されています。つまり、ここから、この地図、教科書の全てに、ここから取るというか、関連するものが見られるという形になっております。

続きまして、帝国書院です。帝国書院は、少し大きめの地図帳ということになっています。巻末をご覧ください。日本の領土や排他的経済水域の地図を大きく掲載し、東西南北端の島については写真と地図を併用しているというのが特徴です。

また、領土問題につきましては、78ページをご覧ください。こちらも見開きの大きなページのところに、今大きな問題になっています、地域を取り巻く問題ということで、78ページ、それとその裏、80、81、82ページに写真とともに載せられているというところが特徴です。

13ページ、14ページをご覧ください。こちらでは、世界の環境問題について書かれているところです。こちら、地図、その場所、あとは資料等がうまく配置されているという状態です。

それと、33ページ、34ページをご覧ください。日本地理では、重要な歴史、地名、事項などが

地図中に記載をされています。これは、例えば見ていただければ分かるのですが、沖縄のところには小さく沖縄戦と書いてあったり、レイテ島沖開戦のことが書かれていたり、地図を見ながら歴史の学習ができるような形になっております。

149ページをご覧ください。これが防災に関するものです。地図や資料が掲載され、防災への意識が高められる一方、防災をテーマとした学習を深められるようになっているというのが大きな特徴です。

また、25ページ、26ページをお開きください。これは、大鳥瞰図というものです。これにいろいろなイラストを入れているというのが大きな特色だと考えられます。

また、各地図の中には、地図の活用というコーナーを設けて、思考力、表現力を深める、そんな工夫がされています。

また、こちらの会社は、それぞれのページのところの上に、タイトルの上のところにDコードが設定されているというのも先ほどとの違いということになるわけです。

報告は以上でございます。

吉田教育長 ただいまの報告について質疑を行います。

各委員の質問に続いて選定委員の回答を求めます。

野口委員。

野口教育長職務代理者 ご説明ありがとうございます。

それでは、まず、選定委員としてどの教科書を推薦するか、ご説明をお願いします。

瀧田選定委員長（北中校長） お答えします。

選定委員会では、調査報告書、学校における教科書の調査研究報告、さらに法定教科書展示会会場において来場者の皆様からご提出いただきました意見なども参考にしながら協議を行いました。

協議終了後、選定委員14名で、全員が2種類の教科書発行者についてそれぞれ5段階で評価をし、無記名で投票いたしました。満点は70点ということになります。

結果でございますけれども、2番、東京書籍、55点、46番、帝国書院、70点という結果です。

本選定委員会としましては、点数の多かった順に、70点の帝国書院、55点の東京書籍を推薦いたします。

以上です。

吉田教育長 ほかにございますでしょうか。

渡辺委員。

渡辺委員 選定委員会ではどのような話題が出たのでしょうか。

井上選定委員（新栄中校長） お答えします。

選定委員会では、大きく2つの話題が出ました。1点目は、地図好きの子どもを育てるために、

地図帳に興味を持たせるため、地図の見やすさ、色、情報量などが大切であるということ、2点目は、教科書の大きさについて、大きさについては、大きいと見やすく、各教科の教科書と同じ大きさであれば使いやすいという、それぞれのよさがあることを協議いたしました。

以上でございます。

吉田教育長 ほかにありますか。

堀川委員。

堀川委員 学校の調査報告書では、どの教科書会社の推薦が多かったのでしょうか。また、その主な理由について教えてください。

井上選定委員（新栄中校長） 学校からの推薦では、帝国書院を推薦する学校が最も多く15票、次いで、東京書籍、4票という結果でした。

推薦理由といたしましては、帝国書院では、地図に親しみを持ち、活用しやすくするために、世界の各種の鳥瞰表現の地図を掲載したり、特産物をイラストで表したりするなど、視覚的に読み取れるように工夫されているということです。また、鳥瞰図がシンプルで見やすく、色使いも非常によく、統計資料のデータも分かりやすいというのがありました。

東京書籍では、歴史的分野や公民的分野に関連するページを増やして、3年間の社会科の学習全体で活用できるように工夫されているということ、中学生が使用する上で学習内容と観点を習得させるための工夫が適切であるというなどの意見がありました。

以上でございます。

吉田教育長 ほかにございますか。

進藤委員。

進藤委員 最近のニュースでは自然災害の問題が大きく取り上げられておりますけれども、各社はどのような取扱いがなされているのでしょうか。

井上選定委員（新栄中校長） お答えします。

東京書籍では、151ページ、152ページの見開きに当たるページで自然災害について扱っております。火山と地震、気象災害、東日本大震災の地震と津波、公害、ハザードマップなどになります。

また、帝国書院では、149ページ、150ページの見開きに当たるページで自然災害について扱っています。地震と火山の分布、東日本大震災の被害、自然災害に対する備え、浸水被害ハザードマップについて扱っています。

また、88ページの鹿児島火山災害への備え、96ページの広島の水害、97ページの阪神・淡路大震災後の備えなどの鳥瞰図の形で示されています。

105ページ、琵琶湖の水利用、透明度の変化や130ページのヒートアイランド現象の広がりなど比較可能なものも示されています。

また、108ページ、富士山の降灰予想などのシミュレーションもございます。

以上でございます。

吉田教育長 よろしいでしょうか。

ほかにございますでしょうか。

進藤委員。

進藤委員 選定委員会には1号委員として保護者がいらっしゃいますけれども、どのような意見が出ましたでしょうか。

瀧田選定委員長（北中校長） 私からお答えします。

保護者である1号委員から、地図の2社で大きさがかなり違うわけですが、その大きさに何か違いの意味はあるのかという質問をいただきました。それに対して選定委員からは、大きさについてはそれぞれのよさがありますけれども、大きければ当然見やすいというところ、それからもう1社は、ほかの教科書と同じサイズであるので、取扱いがしやすいという利点があるという回答がありました。

以上でございます。

吉田教育長 ほかにございますでしょうか。よろしいでしょうか。

〔「なし」と答える者あり〕

吉田教育長 なければ、質疑を終わります。

それでは、協議を行います。

選定資料にある4つの調査の観点に沿って協議を進めたいと思います。まず、調査の観点1、内容についてご意見はございますか。

進藤委員。

進藤委員 まず、ぱっと見て何が違うかというのは、教科書の大きさが違う、これは先ほど来出ているところです。

ほかに何が違うかなと思って開いてみると、例えば今我々がいる場所が掲載されている、東書では123ページ、帝国では121ページですか、こちらを少し開けていただいて、比較していただくと一発で分かるのですが、何分にも色使いが全く違います。これが本当に特徴的だと思います。越谷では、小学校では帝国を使っていますので、考えようによっては帝国さんの色使いが、なじみがあって見やすいのかと思いますし、考え方を少し変えてみると、東書は逆に新鮮なのかという気持ちもいたしました。

土地の高さによる色分けと使われ方による色分けというのは両社ともしているのですが、これも帝国さんとしましては、同じページの右端にいろいろなモデルが出ているのに対して、東書は表の折り込みのページを開いて、4ページになるのですが、これを開いて色のモデルを見るということで違いがある、どちらがいいというのは一概には言えないのではと思いますが、それ

ぞれ見やすさに関しては工夫がされていると思いました。

また、帝国に関しましては、資料の縮尺がほぼ統一されているので、比較がしやすいということも感じました。これは、例えば95ページ、資料ページなのですけれども、中国、四国の資料を幾つか、6個ありますけれども、この6個、全く同一でした。縮尺が同一であれば、やはり比較もしやすくなると思いました。

そして、あと、先ほど話題に出ていましたけれども、帝国は地図活用というコラムというか、書き込みが設けられていまして、今開いている95ページ、96ページも地図活用というのがあり、説明や問いの投げかけがあって、学習活動に役に立つと思いました。

適宜、学習課題というものも設定されていましたが、いずれも資料や地図のところに掲載されているのですけれども、掲載箇所がやはり工夫されている成果だと思いますけれども、あまり邪魔に感じないと思いました。

他教科に使用できる資料が掲載されていることも先ほど説明されているとおりですけれども、東書に関しましてはマークが示されているのが非常に分かりやすいと思いました。

そのほかにもいろいろな工夫がありましたけれども、いずれもどちらを見ても楽しくて、あとは色彩もきれいで、非常に役に立つ、楽しい教科書になっていると感じました。

以上です。

吉田教育長 ほかにございますでしょうか。

渡辺委員。

渡辺委員 先ほど選定委員さんのご説明にもありましたように、東書は、「ジャンプ」というところが、とても有効に使えるのではないかと私は思いました。

例えば前半の部分、世界であつたりとか、それからアジアとかヨーロッパとか、各州だったり、その地域のことを調べて、後半の部分で、全体での、例えば九州地区ではこうなのだというような、そこで見て、また戻るといふ、行き来ができて、資料としても活用できると思いました。

あとは、先ほどの、例えば公害のところとか、これは歴史に関係あるとか、公民に関係あるとか、そのように示してくださっているのだから、公民や歴史のところでも有効に使えるのではないかと感じました。

以上です。

吉田教育長 ほかにございますか。

野口委員。

野口教育長職務代理者 大きさについては東書がコンパクトなところがあって、使いやすいのかと思いますし、また我々もずっと、子どもの頃から帝国書院が見慣れているので、色使い等については慣れている反面、東書の色使いも少し新鮮な感じを私も受けました。

東書は、人物がところどころ出ていて、少し今の子どもたちには親しみやすいと思ったところ

もあるのですけれども、ただ一方、帝国書院は、東書も歴史のことも触れてきているかと思うのですけれども、例えばですけれども、107ページのところ、中部地方と五街道なんかも載せてあって、歴史の学習にも使えるのかな、それから下にも年表が載っていて、107ページ、江戸時代の主な出来事が載せてあって、歴史学習にも活用できるかな、そのようなよさもあると思いました。

昨年も申し上げたかと思うのですけれども、地図帳というのは、どっちかという、家にずっと置いて、将来にわたっても使う可能性が一番高いと思うのです。

ただ、明らかに鳥瞰図は、やはりこれは帝国書院が多めに使われているのですか、今、ドローン映像とか、上から見る映像もたくさん出ますので、こういった鳥瞰図が親しみやすいということも併せて感じました。

私からは以上です。

吉田教育長 ほかにございますでしょうか。

荒木委員。

荒木委員 私もほかの委員さんとも重複しますが、どちらの教科書にも工夫が見られると思いました。

帝国さんは、大きくて見やすく、例えば授業中、印をつけるなどというときに、目当てのものをすぐに見つけて見つけることができるのではないかと思います。あと、地図活用のところで学びが深まると感じました。

以上です。

吉田教育長 ほかにはないでしょうか。

堀川委員。

堀川委員 重複してしまうのですけれども、帝国さんの最初の5ページに地図の要素というのがあって、地図を作る場合の面、点、線、文字の要素があって、地図の完成があって分かりやすいという、このことを意識して地図を見たときに、帝国さんの色使い、市街地、畑、果樹園とか、そういったものがより分かりやすく、高低差も含めて見やすいと感じました。

私からは以上です。

吉田教育長 ほかにはないですか。

なければ、私から、これは見比べて、違いを見分けるのはなかなか難しいと思いましたけれども、東書の31ページと帝国の26ページを見ると、断面図の取り方なののですけれども、若干違っているのですね。少し帝国が見にくいと思うのですけれども、23ページにA、Bが書いてあるので、すけれども、Bは24ページに、Aはチベット方面と、右側に書いてありますね、ブータンの。同じように26ページに断面図が書いてあるのですけれども、これを見ると、インド半島が大陸に激突したって、昔は大陸移動説って、そういうことも言われていますぐらいに言われていたのですけれども、今はもう当たり前のように言われているのですが、これで考えると、大陸、インド半

島がユーラシア大陸にぶつかって、しわができて、ヒマラヤ山脈ができるという話があるのですけれども、と同時に、中国の北のところも同じようにしわが寄るのだと、しわとしわの間にはくぼ地がある、そのくぼ地がシルクロードにあるのだって、そういうことから捉えると、これは東書の断面図が、広がりがあると少し思いました。

それから、見せ方ですが、帝国の31ページを見ると、何てことはないのですけれども、中国を主体、大陸を主体にして見ているのですね、大陸と半島を主体に。こういう見せ方の中に、遣唐使であるとか鑑真の来日であるとか、あるいは史跡であるとか琉球の交易船だとか北前船というのをあしらって、時代はごちゃごちゃですけれども、当時の中国と朝鮮半島、ロシアとの関係を空間的な広がりの中にも認知しやすい、見せ方がうまいと思いました。

一方、東書の48ページと帝国の40ページのドバイの見せ方なのですけれども、やはりこれは写真のほうが迫力ある、明らかに違いが見えているという感じがしました。

また、再三出ています、帝国の49、50の鳥瞰図ですけれども、これを見て、45ページの左にヨーロッパの国境が示されているのですね、国境の変化が。ア、イ、ウと3つ示されていますけれども、これを見ると、どうでしょうかね、やはり山脈で区切られていると、国の、国境の変化はないのですね、あまり。ところが、陸続きのところは、ドイツとかポーランドとかあって、見てみると、やはり国の大きさとか、国があったり、なくなったりしているのです。こういうところでは、空間的なものの、深まりとまでは少しいかないけれども、広がりですか、そういうのを見て取れる気がしました。

また、同じような鳥瞰図は東書の同じページにもあるのですけれども、使われている箇所、帝国では東書よりかなり多くて、30か所に及ぶと。有効な使い方、先ほど選定委員からも、帝国の108ページの富士山のところ、鳥瞰図なのだけれども、これと降灰予想が非常に分かりやすく、ああ、こういうふうに行くな、片方は山で少し遮られるかな、片方はずっと広がっていきそうだなというのが何か見て取れるというのですか、うまい見せ方をしていると思いました。

それから、帝国の48、57ですか、48のところを見ると、右下に北海道の地図がございましたね。これで見ると、札幌とパリの緯度の違いなんかが一目瞭然で分かりますよね。

それと、帝国の61ページを見ると、この61ページ、62ページの鳥瞰図と、61ページの②の地図でしょうか、土地利用図と61ページの気温と降水量の分布図、テーマ図ですか、こういうのを表した地図、それから63ページに行って、63ページの上の地図、①のトウモロコシや小麦はどこで作っているのと、放牧はどこでやっているという地図ですけれども、うまく利用できるの、分かりますか。ちょうど経度でいうと100度のところで、例えば62ページの③ちょうどアメリカの真ん中辺、北アメリカ大陸の真ん中辺、100度の経度、これと右と左で気候が少し違うのですよね、雨の降り方。それによって作物の種類が違う、いわゆる適地適作というの、これが見えるようになっているというのですか、分かりやすい。ただ、最近の降水量は違いますが、ある月の降水量の

ほとんどが1日で降ってしまったという話になってしまうと、今どうなっているのか、少し分かりにくいのですが、こういうのは出し方としては分かりやすいという感じがしました。

それから、学習指導要領で求められている身につける知識、技能というところで、いわゆる地形図や市街図の読図を挙げているのですけれども、これについては帝国の8ページを見ると、8ページの右側、8ページの大きく上げている地形図、2番です。函館市が取り上げられているのですけれども、ここでは質問の形で問いができていて、それに答えると地形図や市街図の読図が自然と学習できるようになっているのです。これも工夫されていると、幾つかそういう箇所が帝国の地図にはあります。

それから、見やすさというところで、進藤委員さん、挙げていただきましたけれども、例えば帝国の99ページと100ページ、それから東書の107ページと108ページ、この印象、これはあえて言いませんけれども、どうでしょうかね。

では、情報量はどうだという、少し見ていただけますか。修学旅行に行くつもりになって、京都、滋賀辺りを見てみると、どちらが多いかというのは分かるわけです。判は帝国が大きいので、情報量としては帝国が多いです。では、混み具合はどうかというと、ううんということになるだろうと、見比べると違いが分かると思いました。私は以上でございます。

ほかにございますでしょうか。よろしいですか。

〔「なし」と答える者あり〕

吉田教育長 では、調査の関係については以上といたします。

続いて、資料、それから表記・表現、総括についてはまとめてご意見を伺いたと思いますが、ほとんど出尽くしている感じがありますが。

進藤委員。

進藤委員 少し細かいところなのですが、両方ともきちんとインデックスがきれいについているのですが、東書に関しましては、表表紙から引いていっても、裏表紙から引いていっても、少し、インデックスが引ける工夫がされていて、引きやすさという意味では東書さんが工夫されていると感じました。

以上です。

吉田教育長 ほかにございますでしょうか。よろしいですか。

この関係以外に、ほかの観点で協議したいところはございますでしょうか。よろしいですか。

〔「なし」と答える者あり〕

吉田教育長 ないようですので、地図の教科用図書に係る採択に入ります。

選定委員の先生方、ありがとうございました。

〔選定委員退室〕

吉田教育長 採択は無記名投票により行い、私及び5名の委員の5段階評価の合計が最も高いもの

を採択いたします。

それでは、事務局より投票用紙の配付をお願いいたします。

〔投票用紙配付〕

吉田教育長 次に、投票箱を改めさせます。

〔投票箱点検〕

吉田教育長 それでは、各委員は順次投票をお願いいたします。

〔点呼に応じ順次投票〕

吉田教育長 投票漏れはございませんか。

〔「なし」と答える者あり〕

吉田教育長 投票を終了いたしました。

それでは、開票及び集計に入りますが、事務局の集計に当たりまして、立会人として、進藤委員、それから荒木委員を指名いたします。

〔立会人立会いの上開票〕

吉田教育長 集計が終わりましたので、投票結果についてご報告をいたします。

投票結果については、発行者番号、発行者氏名、評価点の合計の順番で、発行順に読み上げます。

2 番 東京書籍 2 4 点

4 6 番 帝国書院 3 0 点

以上のとおり、地図の教科用図書は、46番、帝国書院を採択することに決しました。

保健体育の教科用図書について審議いたします。

選定資料の説明等のため、選定委員の入室を求めます。

〔選定委員入室〕

吉田教育長 保健体育の教科用図書について、選定委員より選定資料の説明を求めます。

小川選定委員（大相模中校長） それでは、教科書ごとに説明をさせていただきます。

初めに、東京書籍についてです。最初、内容についてになりますが、教科書を中心に説明させていただきます。初めに、8 ページ、9 ページをご覧ください。導入の活動、「見つける」では、身近な生活などから課題を発見することができ、学習課題に向けて効果的な学習が展開できるように工夫されています。

また、9 ページの下にありますように、「活用する」では、1 単位ごとに話し合いができるように工夫され、学習内容を深め、発展させる工夫がされています。

また、授業の流れが分かりやすく、「見つける」、「学習課題」、「課題解決」、「広げる」では、それぞれのステップに応じて発問が設定され、思考力、判断力、表現力等が高まる工夫がされています。

今日的な課題においては、共生への配慮や安全教育を重視しております。

口絵の1ページから4ページを流してご覧ください。オリンピックのメッセージ、人と人をつなぐスポーツなど、スポーツを通した多様な関わりについて配慮されております。

ほかに、52ページをお開けください。こちらには、運動やスポーツへの多様な関わり方、また174ページをご覧ください。人々を結びつけるスポーツ、このように涵養する工夫が見られます。

また、安全教育に関しましては、教科書の62ページ、こちらから83ページまでの21ページにわたって、傷害の防止の章において安全教育を重視し、涵養する工夫が見られております。

続きまして、108ページ、109ページをご覧ください。こちらの章末資料では、より発展的な学習内容が記述され、調査データがグラフで示されるなど、知識を深めることができます。

続いて、資料についてです。次の110ページをご覧ください。章末資料の後には、学習のまとめの知識において、知識を活用できるキーワードやページが記載されております。

また最初に戻りますが、1ページをお開けください。こちらでは、Dマークのあるページでは、インターネットを使った学習ができるようになっております。デジタルコンテンツ50個の内容の明記と色分けの工夫が見られ、動画と解説が豊富であり、また直接サイトに飛ぶように工夫がされております。

それに関しましては、11ページをご覧ください。11ページの真ん中の段の上になりますが、Dマーク、消費カロリーシミュレーションという言葉がこちらで示されております。

続きまして、表記・表現についてです。教科書は32、33ページをお開けください。学習のヒントや思考を深める2種類のキャラクターが親しみやすくなっております。

また、20ページ、21ページをご覧ください。こちらの教科書の下欄には、関連する学習内容をリンクマークとして示す工夫がされております。

これらに関しましては、口絵の9ページをご覧ください。配色を工夫した8個のマークを示し、学習を深め、他教科やほかのページとのつながりを示す工夫がされております。

最後に、総括についてです。6ページの前のページ、章扉をご覧ください。章扉では、道德との関連をリンクマークで示し、また偉人の紹介など配慮され、この章で学ぶ狙いや学習内容が示され、小中高の系統性が明記されております。

最後に、この教科書におきましては、全体的にほかの教科との関連が豊富であり、学習内容が他教科にあることを示すマークが示され、教科横断的な指導がしやすくなっております。

また、各単元に登場するキャラクターが学習のヒントを吹き出しで提示しているため、生徒が保健学習に親しみ、楽しく取り組みやすく感じられます。以上でございます。

続きまして、大日本図書の教科書をご用意ください。教科書は、20、21ページをご覧ください。初めに、内容についてです。導入の活動、「つかもう」では、身近な題材を取り上げることで主体的に取り組む態度を育むことができるように工夫されております。学習の流れが「学習のねらい」、

「つかもう」、「課題を解決しよう」、「活用して深めよう」で構成され、資料を活用して主体的に学習できるように工夫がされております。

課題の解決では、3種類の課題、このページでは「やってみよう」と書いてありますが、次の23ページには「話し合ってみよう」、このように課題の解決はほかに「調べてみよう」と3種類が示され、思考力、判断力、表現力等を育成できるように工夫がされております。

続きまして、144ページをご覧ください。章末資料になります。こちらでは、より発展的な学習内容が記載され、科学的データで示す工夫がなされております。

続きまして、18ページをご覧ください。他とのつながりにおきましては、一番下にございますように「保健編」、「体育編」、また20ページをご覧ください。こちらの下には「他教科」を示し、関連づけられるように工夫されております。

続きまして、資料についてです。このページ、このままでご覧ください。本文と資料が見開き1ページに収まるように工夫され、左ページにあります「トピックス」により知識を広げることができます。

続きまして、106ページをご覧ください。106ページから109ページにわたりまして、心肺蘇生法の資料になりますが、こちらでは教科書を広げて全体を確認しながら実習ができる工夫がされております。

続きまして、16ページをご覧ください。16ページの真ん中にあります、主体と環境の諸要因の2行目、または4、5行目におきましては、特別支援教育の視点で読みやすい位置での改行がなされております。

また、前の14ページをご覧ください。右下にあります、動画や資料を使用したインターネット学習ができるように工夫され、情報量がとても多く、また知識の整理に役立つまとめの問題がついております。

続きまして、表記・表現についてです。17ページの右下をご覧ください。このようにキーワードが明記されているので、重要語句が一目で分かりやすくなっております。

そして、16ページをご覧ください。参照性が高いレイアウトで、先ほどの主体と環境要因の3行目には星印のマークがされておりますが、またそのこと、その下のミニ知識、欄外にはそのように示すところが全てのページにございまして、このように補足説明や関連資料を示す工夫が見られております。

続きまして、口絵の16ページをご覧ください。こちらでは、配色を工夫した10個のマークを示し、学習を深め、他教科やほかのページとのつながりを示す工夫がされております。

続きまして、29ページをご覧ください。章扉において、章で学ぶ学習内容が示され、小中高の系統性が矢印で明記されております。

続きまして、27ページをご覧ください。各章末には、その章で学習したことをより深く理解す

るための課題を示し、学んだことを生かす取り組みや、次の28ページにお戻りください。このように、学習のまとめでは、学習内容の整理に役立つ重要な言葉の解説が示されております。以上でございます。

続きまして、大修館の教科書をご覧ください。初めに、内容についてですが、口絵の9ページと1ページをご覧ください。この教科書の使い方と上に示されてありますが、このように「課題をつかむ」から「学習のまとめ」までの過程に、身につける、考えるがあり、基礎的な知識と技能の習得の工夫が見られます。

続きまして、9ページをご覧ください。文末には、事例や資料などを通して知識を身につけ、考える工夫などがされております。

続きまして、14、15ページをご覧ください。こちらの「章のまとめ」においては、知識、技能の確認問題、思考、判断、表現の問題、学びに向かって、または課題に向かってを設け、資質、能力の育成が目指せるようになっております。

また、15ページの一番下には、「章のまとめ」を通して学んだことを基に自分の課題を見つけ、学習の振り返りができるようになっております。

続きまして、68ページをご覧ください。特集資料になります。こちらでは、より専門的な知識や調査データが示され、科学的に理解するための工夫が見られます。

続きまして、資料についてです。5ページをご覧ください。章扉になります。5ページの下のごとくでございます「学習を始める前に」の項目においては、学習の見通しと思考力を深めるための工夫がされております。

またページが飛びますが、62ページをご覧ください。こちらのクローズアップでは、幅広い知識と教養が身につくように、深く学習できるように工夫がされております。

前の60、61ページをご覧ください。下の欄外には、情報館と示され、画像や動画等のコンテンツがあり、インターネット学習ができるように調べるキーワードが示され、情報量がとても多くなっております。

続きまして、表記・表現についてです。このページ、61ページをご覧ください。学ぶサブタイトルが水色で色分けされ、記載されており、文字にインパクトがあって見やすくなっております。

それでは、口絵の9ページをご覧ください。こちらの一番下の欄では、配色を工夫した6個のマークを示し、学習を深め、他教科やほかのページとのつながりを示す工夫が見られております。

続いて、総括についてです。再度、4ページ、5ページをご覧ください。この章扉においては、章で学ぶ狙いや学習内容が示され、小中高の系統性が明記されております。また、この章扉においては、身近な日常生活の写真があり、これから学ぶ単元のヒントが身近に感じられ、興味、関心を高める工夫がされております。

最後に、この教科書におきましては、全体の色彩のバランスがよく、資料の絵図が見やすく、

学習しやすいように工夫されております。以上でございます。

続きまして、学研の教科書をご用意ください。初めに、内容について、16、17ページをご覧ください。学習の流れが「学習の目標」、「課題をつかむ」、「考える・調べる」、「まとめる・深める」で構成され、その時間で学んだ知識を活用して学習活動ができるように工夫されています。また、1 単元において学習課題を明示し、日常生活と結びつけやすい問いかけが工夫され、課題解決的な学習を通して、思考力、判断力、表現力等を育成することができるよう工夫されております。

17ページの上にある「JOB」、プロスポーツ選手というところをご覧ください。このように、キャリア教育につながる学習内容が充実し、自分の未来やキャリアを考える「JOB」が示され、学習内容に関連する職業が、ほかのページにもたくさん示されております。

続いて、5ページをご覧ください。このように、科学技術とスポーツの関わりを通して、スポーツの広がりや未来を考えることができるように工夫されております。

ほかのページにおきましては、24ページをお開けください。こちらにつきましては、スポーツの多様性について、また142ページ、143ページをお開けください。こちらでは、人々を結びつけるスポーツと、このように未来を考えることができるように工夫されております。

続きまして、資料についてです。68、69ページをご覧ください。「章のまとめ」では、基礎基本の習得や、真ん中にありますように、キーワードで重要語句の確認ができるように工夫されております。

続きまして、32ページをご覧ください。このページの右下には、キャラクター（ウィズ）が学習内容をより自分のこととして捉え、創造することを目指せるように工夫されております。

また、33ページの下には教科書サイトと示され、デジタルコンテンツがあり、インターネットが学習できるように工夫され、また小学校の道徳と保健にもつながっております。

続きまして、表記・表現についてです。先ほど申し上げました、32ページの下にあります、問いの投げかけを促すキャラクターが非常に親しみを感じられます。

また、32、33ページの欄外の下には、情報サブリや探求、リンクのマークが興味、関心を高め、知識の広がりを身につけるように工夫されております。

また、10ページをご覧ください。こちらにおきましては、配色を工夫した10個のマークを示し、学習を深め、他教科やほかのページとのつながりを示す工夫がされております。

続いて、総括についてです。42ページをご覧ください。こちらの章扉において、章で学ぶ狙いや学習内容、そしてキャリア教育における視点での資料が示され、小中高の系統性が明記されております。

また、90ページをご覧ください。ポイントで見るキーワードから他教科との関連が示されています。こちらはがんについて示されている文章ではありますが、右の欄に関連、理科3年、生命の連続性、このように示されております。

最後に、この教科書におきましては、色彩がきれいであり、教科書全体が柔らかく感じられ、使いやすく工夫されております。

説明は以上でございます。

吉田教育長 ただいまの報告について質疑を行います。

各委員の質問に続いて選定委員の回答を求めます。

野口委員。

野口教育長職務代理者 それでは、まず選定委員としてどの教科書を推薦するか、ご説明願います。

瀧田選定委員長（北中校長） お答えします。

選定委員会では、調査報告書、学校における教科書の調査研究報告、さらに法定教科書展示会会場における来場者の皆様からご提出いただいた意見を参考に協議をいたしました。

協議終了後、選定委員13名で、それぞれ4種類の教科書発行者について5段階評価で無記名投票いたしました。65点が満点ということになります。

その結果ですけれども、2番、東京書籍、44点、4番、大日本図書、44点、50番、大修館書店、49点、224番、学研教育みらい、63点という結果でした。

本選定委員会としましては、点数の多かった順に、63点の学研教育みらい、49点の大修館書店、44点の東京書籍、大日本図書を推薦いたします。

以上です。

吉田教育長 ほかにございませんか。

荒木委員。

荒木委員 選定委員会では、どのような話題が出たのでしょうか。

小川選定委員（大相模中校長） 選定委員会では、健康な生活、また疾病、病気の予防について、また日常生活の関連や小学校とのつながり、さらに学習課程の工夫を各社示していることが出ました。

以上でございます。

吉田教育長 ほかにございませんか。

渡辺委員。

渡辺委員 学校の調査報告書では、どの教科書の推薦が多かったでしょうか。また、その主な理由について教えてください。

小川選定委員（大相模中校長） 学校からの推薦では、学研教育みらいを推薦する学校が最も多く10票、次いで、大修館書店、5票、大日本図書、4票、東京書籍、3票という結果でした。

推薦理由としましては、学研教育みらいでは、基本的な内容が見やすく構成され、課題解決の学習の中でも分かりやすく掲載されている。大修館書店では、目標、課題、思考、まとめ、振り返りの手順が明確で、学習の進め方が分かりやすい。大日本図書では、単元ごとの見出しが分か

りやすく色づけされている、またイラストや資料が豊富で意欲的に取り組める内容になっている。
東京書籍では、教科書の使い方というページがあり、分かりやすい、また学習課題が問いで終わっている、振り返りとまとめがしやすいなどの意見がございました。

以上です。

吉田教育長 よろしいでしょうか。

ほかにございますか。

堀川委員。

堀川委員 体育分野と保健分野、他教科との関連について、各社どのように扱われているのでしょうか。

小川選定委員（大相模中校長） 東京書籍では、2つのリンクマークを設け、保健や体育の教科書内の関連、他教科との関連が示されております。

また、リンクとデジタルコンテンツのある箇所、例えば教科書の11ページをお開けください。失礼いたしました、東京書籍でございます。こちらには、真ん中の上の欄にリンクとデジタルコンテンツの箇所がございまして、関連する他教科の教科書紙面を見ることができるようになっております。

続きまして、大日本図書では、リンクマークを設け、教科内、他教科との関連が示されており、さらに、例えば大日本図書の6ページをご覧ください。6ページの欄外にありますように、家のマーク、また96ページをご覧ください。こちらの下の方には地域マークが設けられ、家庭や地域における健康や安全について考える活動を掲載されております。

続きまして、大修館書店におきましては、158、159ページをご覧ください。158ページの左の欄外には他教科、理科2年、そして159ページには、資料3の上にあります関連、このように2つのマークを設け、教科内の関連するページや関連する内容が他教科にある場合に示されております。

続きまして、学研につきましては、183ページをご覧ください。右上の小さい欄でございますが、関連、社会科となっております。このようにマークを設け、教科内や他教科などの関連についても掲載しており、また190ページをご覧ください。このように、キーワードで見る保健体育の学習内容を設けることで、知識や情報を関連させる工夫が見られます。

以上となります。

吉田教育長 よろしいですか。

ほかにございますでしょうか。

荒木委員。

荒木委員 選定委員会では1号委員として保護者がいらっしゃいますが、どのような意見が出ましたでしょうか。

瀧田選定委員長（北中校長） 私からお答えします。

選定委員、1号委員として男性と女性の保護者の方がいらっしゃるのですけれども、それぞれ次のような発言をいただきました。女性の保護者からは、母親から思うと、どの教科よりも人間が生きていくために重要なことが学べる教科であるということで、とても大事なのだろうという発言、それから男性の方からは、健康について、例えばタバコや感染予防、それから生活習慣病など、教科書を学ぶに当たって、一番時間を取って、先生方が力を入れているところはどこなのでしょうという質問がございました。その回答として、世の中の状況を考えて、現場の教員たちが重要視している内容は、今現在、やはり感染症が1番で、特に中学3年生は時期的に生活習慣病を学習するわけですが、柔軟性を持ちながら単元を入れ替えて、強調すべき時期に合わせて適切に指導を行うことも大切であるという回答をさせていただきました。

以上です。

吉田教育長 ほかにございますか。

〔「なし」と答える者あり〕

吉田教育長 なければ、質疑を終わります。

それでは、協議を行います。

選定資料にある4つの調査の観点に沿って協議を進めたいと思います。まず、調査の観点1、内容についてご意見はございますか。

渡辺委員。

渡辺委員 先ほど保護者委員さんからのお話もあったと思いますけれども、やはり人間が生きていくためにはとても重要な教科であるというご認識をいただいているということなのだと思いますけれども、この教科書を見えますと、3年間で1冊を学ぶことになるのですけれども、やはり目次が非常に大切かと思ひまして、まず目次を比べてみました。そうしますと、少し見ていただきたいのですけれども、大日本の目次が非常にすっきりとしていて、何を学ぶかというのが分かりやすいという印象を受けました。

次に、口絵のところを見えますと、これはどの教科書も非常にいい選定をしているという、スポーツ関係のことから、あとは食事、健康、スポーツ等、食事のこととか、とても分かりやすい。特に大修館に関しましては、SDGsのところがあるのですけれども、口絵の8ページですが、そこところにリサイクルでメダルが作られていることが書いてあって、ああ、なるほど、そういえば、たしか携帯電話を回収されたこともあったと思いました。

それで、次に内容を見えますと、まず学びということで、まず章扉を比較してみたのですが、大修館は章扉が見開きになっていまして、そこにこれから学習することであるとか、先ほど選定委員さんのご説明にもありましたように、学習を始める前にということで、これから学習するに当たっての問いを投げかけていたりしております。

そして、大日なのだと思いますけれども、大日の章扉を見えますと、ここは小学校で学んだことから、

これから中学校で学習すること、そして高校で学習することという見通しを持った提示をしているという感じがいたしました。これも、とても生徒さんにとってはいいことだと思っております。

そして、学研なのですが、学研の例えば71ページを見ていただくと、まず章扉、右側にこれから学ぶことが書いてありまして、左側には前回学んだこと、これですと1年の学習の終わりにという形で、毎回、保健体育って、理論が、毎回やっているものではないので、何をやったかというのがこれで分かりやすく、実はこれは全てこのような形で、例えば134ページ、135ページを見ていただいてもそうなのですけれども、前回の学年でやったことを左側に見ながら、これからやることという形で配列ができていて、とてもよいという印象を受けました。

以上でございます。

吉田教育長 ほかにございますでしょうか。

荒木委員。

荒木委員 大修館の133ページから始まる感染症の予防について、絵や図、文字などが効果的に配されていて分かりやすいと感じました。

学研さんの章のまとめにある、この章で学んだキーワードというところで学習したことを確認することができ、理解が深まると思いました。

吉田教育長 ほかにございますでしょうか。

進藤委員。

進藤委員 もしこの教科書の採択が1年違っていたら、恐らく感染症に関する記載が大分違っていたのではないかと思いますながら、各社、少し見てみました。

いずれも、実は感染症に関しましては、一番多いところが大修館で5ページ、その他はそれぞれ4ページ、大修館が6ページですか、かなり扱っていて、今回のことを、まさか予想していたわけではないと思いますけれども、詳細に扱っていました。

その中で私はへえと思ったのが、実は東書さんでした。その中で、東書さんでは148ページから151ページまで扱っているのですが、151ページの最後のところの「活用する」というところで、昔、スペイン風邪の流行のときに、セントルイスの市長さんが緊急事態宣言を出したことが取り上げられていて、その宣言が有効であった理由について考えてみましょうという課題があるのですけれども、まさに今のことを予測するようなことだと。これから使うにしても、この課題を生徒で考えて議論したら、なかなか興味深いことになるのではないかと思います。

以上です。

吉田教育長 野口委員。

野口教育長職務代理者 私も、進藤委員さんがおっしゃったように、今回のコロナの感染拡大ということがあって、感染症の扱いについてはこれからしっかりやっていかなくてはいけないのだろうと思いました。

今、よく言われている、飛沫とか空気とか接触感染とかということについても、大修館では135ページでしっかり学習するようになっていたといえますか、こういうこともきちんと扱うようになっているということを改めて私も勉強させていただいたのですけれども、そうやって見ていくと、学研では、113ページですか、感染症とその予防ということでは、少し今回のコロナに近いSARSウイルスの画像とかも載せてあって、そしてなおかつ本文にも、結核などのように克服されたかに見えていた感染症が再び地球的規模で蔓延したりすることや、薬の効かない病原体が増えたりすることなどがありますということが書いてあったので、まさに今のところが実施されているのだということを改めて勉強させていただきました。このことが、これから子どもたちもしっかり科学的知識も持っていかななくてはいけないということを改めて感じさせられました。

それから、越谷は以前に竜巻の被害を受けているのですけれども、それにつきましては、東京書籍の86ページとか、あるいはもう一か所、大日本図書でしたか、101ページに越谷の事例が写真で出ているのですけれども、載っているということで、そのようなところは親しみがあると思いました。

学研では、161ページに、保健所とか保健センターのことについても、きちんと保健体育の学習の中で扱われていると改めてご確認させていただいて、越谷は保健センターも保健所もありますので、地域にも即した学習ができると思いました。

以上です。

吉田教育長 ほかにございますでしょうか。

私からは1点ですけれども、本市では、自己肯定感の高揚を小中一貫教育の3つの狙いの1つに定めて取り組んでいるところなのですが、学研の59ページに心身の発達と心の健康というところの自己形成というところで、直接、自己肯定感という言葉は使われておりませんが、自己を肯定的に捉え、自分のいいところはありますか、先生から褒められたことはありますかみたいなアンケートの結果が載せられていて、非常に本市の取組みと共通していると感じました。

ほかにございますでしょうか。

野口委員。

野口教育長職務代理者 少しつけ足しになりますけれども、先ほども言われているがん教育についても、学研で記述している部分が多めに取られているという印象です。

以上です。

吉田教育長 ほかにございますか。

堀川委員。

堀川委員 最近個性や能力を大切にするといったこと、また性の多様性ということで、LGBTについては、学研で43ページに人というところで虹色ダイバーシティの方のコメントが載っていました。また、東書さんでも性の多様性といった内容がありましたし、大日本では、個性や能

力を大切にする性的マイノリティーという言葉がありまして、これからの子どもたちにも必要な学習だと思います。

また、子どもたちの心身機能の発達と心の健康というところで、ストレス発散ということで呼吸法を各社取り上げておりますけれども、東書さんの42ページ、大修館さんの52ページなどで大変詳しく載っております、子どもたちの心の中でストレスが多いと思うのですけれども、呼吸法をぜひ取り入れてほしい、非常に参考になる内容かと思いました。

最後に、大修館さんの巻末に内臓や筋肉や骨格の資料がついているのですけれども、大修館さんでは、そこに短く説明がありまして、各部位を見ながらどういった機能があるのかというのが大変分かりやすく表示されていると思いました。

私からは以上です。

吉田教育長 ほかにございますでしょうか。

観点1の内容についてはよろしいですか。

〔「なし」と答える者あり〕

吉田教育長 それでは、次に資料、表記・表現、総括についてまとめてご意見を伺いたいと思いますが、何かございますでしょうか。

渡辺委員。

渡辺委員 大日本図書なのですけれども、レイアウトが工夫されていて、例えば72ページ、生活習慣病の予防のところなのですけれども、左側に文章で説明等が書いてあって、右側が話し合ってみようとか調べようという形で資料が載っているのです。どのページもそのような形になっているので、これはとても分かりやすいという印象を受けました。

以上でございます。

吉田教育長 ほかにございますでしょうか。よろしいですか。

ほかの観点で協議したい内容等はございますでしょうか。

〔「なし」と答える者あり〕

吉田教育長 ないようですので、これより保健体育の教科用図書に係る採択に入ります。

選定委員の先生方、ありがとうございました。

〔選定委員退室〕

吉田教育長 採択は無記名投票により行い、私及び5名の委員の5段階評価の合計が最も高いものを採択いたします。

それでは、事務局より投票用紙の配付をお願いいたします。

〔投票用紙配付〕

吉田教育長 次に、投票箱を改めさせます。

〔投票箱点検〕

吉田教育長 それでは、各委員は順次投票をお願いいたします。

〔点呼に応じ順次投票〕

吉田教育長 投票漏れはございませんか。

〔「なし」と答える者あり〕

吉田教育長 投票を終了いたしました。

それでは、開票及び集計に入りますが、事務局の集計に当たりまして、立会人として、渡辺委員、野口委員を指名いたします。

〔立会人立会いの上開票〕

吉田教育長 集計が終わりましたので、投票結果についてご報告いたします。

投票結果については、発行者番号、発行者名、評価点の合計の順番で、発行者順に読み上げます。

2 番	東京書籍	2 2 点
4 番	大日本図書	2 2 点
5 0 番	大修館書店	2 5 点
2 2 4 番	学研教育みらい	3 0 点

以上のとおり、保健体育の教科用図書は、224番、学研教育みらいを採択することに決定しました。

技術・家庭、技術分野の教科用図書について審議いたします。

選定資料の説明等のため、選定委員の入室を求めます。

〔選定委員入室〕

吉田教育長 技術・家庭、技術分野の教科用図書について、選定委員より選定資料の説明を求めます。

西村選定委員（平方中校長） それでは、よろしくお願いいたします。

これからの社会生活に伴う上で最も密接な教科、それから活用していかななくてはならない教科です。よろしくお願いいたします。

最初に、内容1について説明をさせていただきます。最初に、東京書籍から行かせていただきます。20ページをご覧ください。（1）についてです。本時の達成目標と学習に関わるキーワードが設定されていて、先生方、それから子どもたちも理解しやすくなっております。

それから、88、89ページをご覧ください。各編の最初に、技術の見方、考え方、技術の適正化、最適化があり、この内容に沿って学習が進められるようになっていきます。

それから、50ページをご覧ください。特に写真が大きく、作業がしやすい特徴があります。

それから、181ページをご覧ください。学習の流れも、目標、実験、活動、まとめの順に構成されていて、基礎基本がしっかりと身につけられるようなシステムになっています。

2つ目の思考力、判断力について説明をさせていただきます。71ページをご覧ください。2通り以上の例題を出して、例題における利点、それから欠点が挙げられています。

21ページをご覧ください。リンクという形で、復習や予習の確認が簡単にでき、課題を解決するヒントが出ています。

137ページをご覧ください。問題解決の評価、改善、修正が取り上げられています。

(3)に行かせていただきます。11ページをご覧ください。「最適化の窓」では、技術の見方、考え方によって、既存の技術の工夫を読み取る学習ができるようになっています。

78ページをご覧ください。材料と加工では、社会からの要求に加え、安全、経済、環境に関する自分の問題解決の例が記載されています。

115ページをご覧ください。栽培では、フィッシュボーンを使用し、思考しながら自ら考え、学ぶことができる内容になっています。

(4)に行かせていただきます。表、表紙の裏を開けていただけますか。理解をする、問題の理解、それから解決する、生活につなげるといった過程に内容がなっております。

168ページをご覧ください。生徒同士の比較、検討、トレードオフを取り入れて、一層子どもたちの理解を深めるようになっています。

260ページをご覧ください。ソサエティを支える技術やSDGsが目指す持続可能な未来に向けた技術がどのように活用されているかを考えさせられるような工夫がされています。

(5)に行かせていただきます。56ページをご覧ください。特に安全や衛生といった関わりのある部分については、分かりやすいマークがついています。

82ページをご覧ください。「技術の匠」という欄が存在し、様々な方々の言葉が提示されています。

こちらが東京書籍の説明になります。

続きまして、教育図書に関して説明をさせていただきます。(1)知識、技能の習得に関してですが、52ページをご覧ください。実験や実習の説明に、手元を写した図や写真が多く採用されています。

42ページをご覧ください。重要な語句は青で示してありまして、視覚障がいを持つ生徒にとっても理解がしやすいようになっています。

(2)に行かせていただきます。思考力、判断力に関してです。21ページをご覧ください。実験や実習で発生した問題点を、実際の仕事をしている人へのインタビューがあつて、「技ビト」ということで、子どもたちが考えるヒントをつくられています。

(3)に行かせていただきます。学びに向かう力、人間性です。120ページをご覧ください。よりよい生活の実現における人工知能、AIの内容が多く紹介されています。こういった内容から、新しい技術というものを身につけるような形になっているのではないかなというふうに

思います。

(4)に行かせていただきます。2ページをご覧ください。見つける、学ぶ、振り返るという学習の流れを明確にしています。

78ページをご覧ください。各内容の文末では、技術のプラス面、マイナス面を提示し、持続可能な社会の実現につながるように表現されています。

(5)に行かせていただきます。先ほども出ましたが、35ページをご覧ください。「技術と加工」の技術では、「技ビト」の特集によって日本伝統の加工方法を掲載してあります。特に寄せ木細工について説明をされています。こういった日本古来の伝統ある技術を紹介しております。

それから、182ページをご覧ください。エネルギー変換の技術では、社会に関連させたサステナビリティの資料が掲載されています。これも、持続可能な社会と企業の成長の関連といったもので注目ができるものというふうに思っています。これが教育図書の説明になります。

続きまして、開隆堂に行かせていただきます。(1)についてです。14ページをご覧ください。各内容において、見方、考え方に気づく、働かせる、定着させるの流れで構成されています。

25ページをご覧ください。学習の最後にはまとめのチェックシートがあり、自己の振り返りができるようになっています。

47ページをご覧ください。誰もが使う身近な製作品を取り上げて、理解を深めやすくなっています。

最後に、70ページをご覧ください。作業の説明箇所に応じた適切な解説がされており、特に重要箇所につきましては拡大の図を、もしくは写真で表されています。

(2)に行かせていただきます。52ページをご覧ください。全ての内容に、問題解決の流れとして見開きで表記しています。構想を具体化するために、課題を検討する観点を考慮しながら、様々な制約、条件の下で技術の仕組みを考えるためにトレードオフを取り入れています。

(3)に行かせていただきます。90ページをご覧ください。適切に技術を工夫し、創造することから、私たちの未来、学習を振り返ろうといったマークが設けられています。

52ページをご覧ください。環境マーク、特に技術の中では環境マークといった印がつけられて、技術と環境の関わりについて記述されています。これは、循環型社会、持続可能な社会に向けての紹介になっているということです。

189ページをご覧ください。限られた資源を有効に活用するために、資源の有効性を意識し、自らの課題を設定、製作する上での技術の過程で、自然的な制約と社会的な制約と社会、安全、環境の3つの事項を視野に社会を生き抜いていく、そういった内容になっています。

(4)になります。194ページをご覧ください。アクティブ・ラーニングの視点に立って授業を推進するために、小項目の冒頭に設けた導入の課題を通して、生徒が積極的に取り組むような動機づけをされています。

56ページをご覧ください。実習例においても、P D C Aのサイクルを意識した実習が構成されています。

(5)に行かせていただきます。特に基本構成として、全体的に各編において、技術の見方、考え方、もう一つ、感じ方を働かせ、よりよい生活や持続可能な社会を構成する資質と能力を育成するために、ガイダンスとまとめがある程度一致するような形でつながりができていきます。

では、2番目の資料に行かせていただきます。東京書籍から行かせていただきます。(1)学習に関心を持たせというところですが、75ページをご覧ください。生徒の作業風景が実際に載せられていて、道具の細かい部分の作業の様子が分かりやすくなっています。

27ページをご覧ください。ページの下には、技術の工夫と豆知識が掲載されています。

19ページをご覧ください。これは、Q Rコードが掲載されて、特に技術・家庭科の中では、実際に動いて見てみる、動画を見るということが大切になってくるので、この辺が活用されています。

教育図書に行かせていただきます。58ページをご覧ください。実習時間に応じて使用する工具、機械、それから機能の情報がそこに入っております。そのため、学習が効果的に高まる内容となっています。

それから、135ページをご覧ください。先ほどもありましたが、Q Rコードが配置されています。

開隆堂に行かせていただきます。70ページをご覧ください。写真では理解しにくい作業においても、矢印や手順を示し、番号を用いたイラストによって構造化し、内容が工夫されています。開隆堂も、Q Rコードが入っております。

次に、3番、表記・表現について説明をさせていただきます。これについては、3社とも同じような形になっていました。東京書籍においては、34ページを見ますと、本時の目標やキーワードが示されています。

ただ、様々なデータに関しては98ページをご覧ください。2017年の内容になっています。

教育図書に関しても、同じように、本時の目標やキーワードが示されています。

ただ、教育図書の75ページを見ていただきますと、こちらのデータにつきましては2018年までの内容となっています。

開隆堂です。「やってみよう」、「調べてみよう」など、関心を高めるような工夫がされています。

それから、これはほとんどのページですが、各ページの下に豆知識というのがありまして、ある程度の子どもたちの理解を深めるものにつながっていると思います。

最後に、総括をさせていただきます。東京書籍、身近なものを取り上げて、生徒が日常で何げなく使用している作品がたくさん掲載されていると思います。小中の連携につきましても、ほかの教科につきましては、理科との関わり、それから情報モラルにつきましても、道徳や数学、家

庭科といったものが、教育図書につきましては、上をずっとめくっていただくと現れると思いますが、「つくって・育てて学ぼう」、「じっくり学ぼう」、「学びを深め生かそう」のまとまりでできております。小中の連携につきましては、同じように、理科、それから情報モラルにつきましては数学とかといったもので書いております。

開隆堂につきましては、「技術・技能の基礎・基本」、「問題発見、計画立案、活動評価・改善」、「技術の評価・活用」のまとまりで構成されています。こちら、小中の連携、他教科に関しては、理科、それから情報モラルにつきましては、道徳、数学、算数、そういったものになっております。

私からの説明は以上です。

吉田教育長 ただいまの報告について質疑を行います。

各委員の質問に続いて選定委員の回答を求めます。

野口委員。

野口教育長職務代理者 ご説明ありがとうございます。

それでは、まず選定委員としてどの教科書を推薦するのか、ご説明をお願いします。

瀧田選定委員長（北中校長） お答えします。

選定委員会では、調査報告書、学校における教科書の調査研究報告、さらに法定教科書展示会会場における来場者の皆様からご提出いただいた意見などを参考にしながら協議を行いました。

協議終了後、選定委員13名で、全員が3種類の教科書発行者について5段階評価で無記名投票をさせていただきました。その結果、65点が満点ということになりますけれども、結果ですが、2番、東京書籍、60点、6番、教育図書、40点、9番、開隆堂、61点という結果でした。

本選定委員会としましては、点数の多かった順に、61点の開隆堂、60点の東京書籍、40点の教育図書を推薦いたします。

以上です。

吉田教育長 ほかにありますか。

進藤委員。

進藤委員 選定委員会では、どのような話題が出ましたか。

西村選定委員（平方中校長） 選定委員会では、生徒の学習意欲を高める手段として、大きな写真はものづくりの経験が少ない生徒にとっては効果的であるという話が出ました。

吉田教育長 ほかに。

荒木委員。

荒木委員 学校の調査報告書では、どの教科書会社の推薦が多かったのでしょうか。また、その主な理由について教えてください。

西村選定委員（平方中校長） 学校からの推薦では、東京書籍と開隆堂が同票で11票、次いで、教

育図書が2票という結果でした。

東京書籍では、材料と加工に関する技術では、製図や工具の使い方が従来よりも細かく明確に表されています。技術分野の学習の意義や大切さを具体的に示されており、生徒が興味を持ちやすいような内容になっているということでした。

開隆堂では、写真やイラスト、手順が簡潔で分かりやすい、それぞれの単元で指導のポイントになるものが明確になっている、生徒の創作意欲をかき立てる内容となっているというような決定をいただきました。

教育図書では、作業の手順が明確で、作業をしながら学習をすることができると、指導と評価の一体化の工夫が見られ、教師側の対応がしやすいといった意見がありました。

以上です。

吉田教育長 ほかにありませんか。

渡辺委員。

渡辺委員 プログラミングに関する扱いで、各社、どのような工夫が見られるのでしょうか。

西村選定委員（平方中校長） プログラミングといいますと、今、双方向というふうなコンテンツがたくさん出ております。そのことについてお答えをしたいと思います。

東京書籍では、導入時にビジュアルプログラミングやチャート図を用いて、翻訳機や信号機のシステムについて触れています。双方向性のあるコンテンツにつきましては、16ページにわたって取り扱い、問題解決の例や評価、改善、修正について記載されています。また、巻末資料には、スクラッチ、ドリトル、ジャバスクリプトとHTMLでのプログラムについて説明されています。

教育図書では、導入時にプログラミングの概要に関する準備、反復、分岐について触れています。双方向性のあるコンテンツにつきましては、24ページにわたって取り扱い、題材の例や構想、製作についての記載があります。また、別冊ハンドブックにて、スクラッチ、なでしこ、ドリトルでのプログラミングについて説明しています。

開隆堂では、導入時に双方向のあるコンテンツのプログラムによる問題解決の流れに触れ、問題を発見する場面と視点の例を取り上げています。双方向性のあるコンテンツについては、10ページにわたって取り扱っています。実習例が課題の設定から評価、改善までについて記載してあります。

以上です。

吉田教育長 渡辺委員。

渡辺委員 すみません、双方向性のあるコンテンツについて、もう少し具体的に教えていただけますか。

西村選定委員（平方中校長） 今まで、こちらから、ある一方だけで通信をするというふうなことです。現在は携帯電話や様々なことで、例えばメールなどでは、出したときに返ってくるとい

うふうなプログラミングが必要になってきています。

渡辺委員 プログラミングを学ぶということですね。

西村選定委員（平方中校長） それを学ぶということです。

渡辺委員 分かりました。

吉田教育長 ほかにございますでしょうか。

渡辺委員。

渡辺委員 続けてなのですけども、選定委員会には1号委員として保護者の方がいらっしゃいますが、どのような意見が出ましたでしょうか。

瀧田選定委員長（北中校長） 私からお答えします。

1号委員の保護者からですけども、教科書を見たときに、活字と写真やイラストのバランスが、昔、自分たちが使っていた教科書は大分違うという印象を持ったというふうに話されていました。子どもたちが取りつきやすいように作られているのだなというふうに感想を述べられていまして、実際の現場、学校では工夫された教科書ということで、技術に対する学習意欲は増しているのだろうかというご質問をいただきました。

それに対して、選定委員からは、昔は家の中で実体験として作業をする場面がたくさんあったわけですけども、今の子どもたちはパソコンやスマートフォンを日常的に使っていて、仮想体験とかということはたくさんしているわけですが、物を使って何かを作るという経験が少ないのだと、そういうことで、少ない子どもたちにどうやらせるかということ、やはり写真やイラストを見せて、視覚的に捉えるということが大事なのだという、そういう工夫がされているのだという話でした。

以上です。

吉田教育長 ほかにございますでしょうか。

〔「なし」と答える者あり〕

吉田教育長 なければ、質疑を終わります。

それでは、協議を行います。

選定資料にある4つの調査の観点に沿って協議を進めたいと思います。まず、調査の観点1、内容についてご意見はございますか。

渡辺委員。

渡辺委員 私のときにはまだ技術はやっていなかったのですけれども、今回、初めて教科書を見せていただいて、すごい分量があるのだということにまずびっくりいたしまして、中学1年生にも、恐らくびっくりすると思って、中を見えますと、ものづくりであつたりとか生物のことであつたりとか、いわゆる情報のことであつたりとか、そんなに大変ではなく、よく見みると、何となく今までやってきたことだと感じると思うのですけれども、ぱっと見た感じだと、開隆

堂の目次が非常にシンプルで、威圧感を与えないという感じがいたしました。

それと、プログラミングについてなのですが、少し読んでみたのですが、ほぼ分かりませんという状況でした。ただ、教育出版の「技術ハンドブック」、これは非常にコンパクトにそれぞれの分野についてまとまっていて、よかったという印象を受けます。

以上です。

吉田教育長 ほかにございますでしょうか。

野口委員。

野口教育長職務代理者 私も、今、渡辺委員さんからもありましたけれども、本当に学習する内容がかなり多岐にわたっていて、多いという印象を率直に持ちました。何か、少し見た感じでは、高校の工業科の教科書みたいという印象を受けて、中学生も勉強する量が多くて大変と思ったのですけれども。

率直に言うと、東書と開隆堂が大分、学校の意見、それから選定委員さんの意見の中でも2つに分かれているということで、どういうところに違いがあるのか考えてみたのですけれども、両方の似ているところは、学習の中ではしっかりしているということ。開隆堂では、技術の基礎基本、そして問題解決、そして学習の振り返りということの流れがはっきりしていますし、東書でも、技術の仕組み、理解から問題解決、評価、選択、改善、運用、改良ということで段階がしっかり分かれていて、分かりやすいのだろーと思いました。

また、イラスト等も適切に使われているという点もありますし、写真も適切だと出ているのですけれども、先ほど渡辺委員さんもおっしゃいましたけれども、若干、開隆堂が簡潔な感じがするということが現場の意見からも出ていましたので、あまり量が多い中で、多くのことが載っていると、全部終わらせるのかという、そういった抵抗感もあるので、少し簡潔なほうを、現場としてはそちらがいいのかと私は感じました。

以上です。

吉田教育長 ほかにございますでしょうか。

では、私から。先ほど渡辺委員さんから目次を見れば分かるよという話がありましたけれども、少し目次のところを見比べてみると、目次から巻頭ですか、例えば東書でいえば巻頭の1、2、それから教科書の構成というところですが、巻頭の1、2で目次みたいのが載っていますので。ここにあるA、B、C、D、これは学習指導要領に定められた、いわゆる材料と加工の技術、生物育成の技術、エネルギー変換の技術、それから情報の技術ということで、これは皆同じ扱いですが、東書では生活や社会の中から課題を選定して、解決を構想して、そのページ、目次を見れば分かりますけれども、次の製作へとつなげていくわけですが、PDCAサイクルを回す形で進めていて、まとめりごとの最後の章で4つの項目、社会からの要求、これは11ページに、さっき選定委員から説明がありましたけれども、東書の11ページにある

4つの項目、社会からの要求、安全性、環境の負荷、経済性に着目して、ブレンストーミング、KJ法などの例を挙げていましたけれども、そういう話し合い活動等をして、技術の最適化について考えさせる。これは、もう一回、東書の目次を見てもらえば分かりますけれども、そういった形になっているのです。例えば①、巻頭のところで、①の材料と加工の技術のところで、1、2、3、4、5を挙げていて、最適化についてまとめていく、第3章のところですか、一番下に、3章のところで、3章の①のところで材料と加工の技術の最適化、78ページ。

これは少しおもしろいと思いました。例を取ってみると分かりやすいと思うのですが、東書の7ページを開けると、プルトップというのでしたっけ、缶を開けるやつ。これを採用するまでに、最初、私、少しうろ覚えなのではけれども、プルトップをやったら、アメリカの方がこれを開発してやったら、指を切ってしまった。指を切ってしまったというので、これは指を切らないようになっているのですね、今。この加工が日本の技術らしいのです。当時は特許を取れなかったと話していましたけれども、少し余計な話していますけれども。これは、次に取ってしまうと、これはごみになってしまうのです。

それで、さっき言った4つの項目というのは、社会からの要求、安全性、環境への負荷、経済性、こういうもので最適化、技術を生かしていくという視点でやるわけです。それが整っていないと、実際には出回ってこない、そういうことを最後に学んでいるというのはおもしろいと思いました。全体を通してパターン化されて、分かりやすくなっているかと思います。

開隆堂を見ると、先ほどから分かりやすいと出ていますが、例えば開隆堂の1ページ目のところですか、技術の分野の学習を始める前にというので、これは非常に、見比べてみても分かると思うのですが、東書の1ページですか、③と1ページを見比べても分かるのですけれども、非常にすっきりしています。1ページ目のところに、開隆堂ではどう書いてあるか、1、2、3と書いてあるのです。生活や社会で利用されている製品の工夫を読み取り、4つの技術の内容、基礎的知識を学習します。最後のところで、技術によって問題を解決した過程を振り返る、さっき言ったようなところでしょうか、振り返り、よりよい持続可能な社会の構築について考える、こういう形になっているので、同じような扱いになっていると思います。

東書では、野口委員さんから出ましたけれども、情報が多く、事業の流れが逆に分かりやすいです、報告書では。課題解決の流れは分かりやすい。一方、開隆堂では、情報の量が適量でと書いてある。読みやすく、しかもポイントが分かりやすい、学習の順序が分かりやすく記載されている形になっている。なかなか難しいと正直なところ思います。

ほかにございますでしょうか。よろしいですか。

〔「なし」と答える者あり〕

吉田教育長 では、1についてはそういうことで、次の資料と表記と表現、それから総括についてまとめていきたいと思いますが、ご意見ありましたらお願いいたします。特によろしいですか。

渡辺委員 先ほど双方向性があるコンテンツの説明を受けたので、少しその点を改めて見てみました。

そうしましたら、開隆堂の238ページ、教育出版は222ページ、そして東京書籍は220ページに双方向性のあるコンテンツとは何だろうと出ていて、しっかりと比較して見てみたのですけれども、そうすると、やはり開隆堂は、キャラクターが割と大きく出ていて、そして、吹き出しも分かりやすくできていると思いましたので、生徒さんたちも割とすんなりと授業に入れるのではないかと感じました。

以上でございます。

吉田教育長 ほかにございますでしょうか。よろしいですか。

〔「なし」と答える者あり〕

吉田教育長 ほかの観点で協議したいところはございますでしょうか。こちらもよろしいですか。

〔「なし」と答える者あり〕

吉田教育長 ないようですので、これより技術分野の教科用図書に係る採択に入ります。

選定委員の先生方、ありがとうございました。

〔選定委員退室〕

吉田教育長 採択は無記名投票により行い、私及び5名の委員の5段階評価の合計点が最も高いものを採択いたします。

それでは、事務局より投票用紙の配付をお願いいたします。

〔投票用紙配付〕

吉田教育長 次に、投票箱を改めさせます。

〔投票箱点検〕

吉田教育長 では、投票をお願いします。

〔点呼に応じ順次投票〕

吉田教育長 投票漏れはございませんか。

〔「なし」と答える者あり〕

吉田教育長 投票を終了いたしました。

それでは、開票及び集計に入りますが、事務局の集計に当たりまして、立会人として、堀川委員、それから進藤委員を指名いたします。

〔立会人立会いの上開票〕

吉田教育長 集計が終わりましたので、投票結果についてご報告いたします。

投票結果については、発行者番号、発行者名、評価点の合計の順番で、発行者順に読み上げます。

2番 東京書籍 28点

6 番 教育図書 21点

9 番 開隆堂出版 29点

以上のとおり、技術・家庭、技術分野の教科用図書は、9番、開隆堂出版を採択することに決しました。

◎休憩の宣告

吉田教育長 それでは、ここで暫時休憩といたします。

休憩 午後 3時05分

再開 午後 3時15分

◎開議の宣告

吉田教育長 休憩前に引き続き会議を始めます。

技術・家庭、家庭分野の教科用図書について審議いたします。

選定資料の説明等のため、選定委員の入室を求めます。

〔選定委員入室〕

吉田教育長 技術・家庭、家庭分野の教科用図書について、選定委員より選定資料の説明を求めます。

西村選定委員（平方中校長） それでは、よろしくお願いいたします。

これからの家庭生活を営む上で、最も密接で、すぐに活用しなくてはならない教科です。そういった意味で見ていただければというふうに思っています。

まず、内容1につきまして説明をさせていただきます。東京書籍（1）、54ページをご覧ください。実習や生活の中で必要な基礎技能をまとめた「いつも確かめよう」というものが記載されていて、分かりやすくなっています。

101ページをご覧ください。各編に「学習のまとめ」、「大切な用語」が掲載されています。

116ページをご覧ください。写真、イラストが必要な手順に沿ってまとめられています。そのため、身につけたい技能がイメージしやすくなっています。

思考、判断について説明をさせていただきます。教科書の20ページをご覧ください。「生活の課題と実践」というものが掲載されていて、課題解決的な学習がスムーズに進められるようになっています。

66ページをご覧ください。実習例では、「私のオリジナル」という工夫例が挙げられていて、生

徒の創造性を高める、そういったものになっています。

学びに向かう力、(3)について説明させていただきます。96ページをご覧ください。1から5までの編では、それぞれ持続可能な生活を目指しており、関連づけて内容が記載されています。特に食生活の部分では、食料自給率や食品廃棄問題など、現在の社会的な問題が取り上げられています。

118ページをご覧ください。学習を深めるために、活動、そして調査活動や比較実験等の課題を設け、よりよい生活を創造できる態度を養うような工夫がされています。

(4)に行きます。66ページをご覧ください。「私たちの食生活」、「私たちの衣生活」の内容の中に実習例が掲載され、その一部に「私のオリジナル」といったコラムが入っております。

54ページをご覧ください。実習や生活の中で必要な基礎技能をまとめた「いつも確かめよう」などで、基礎基本の技能の定着を図るようになっています。また、それに関連づけた写真、イラストが工夫されています。

教育図書に行かせていただきます。(1)の基礎基本についてです。111ページをご覧ください。「やってみよう」が設定され、「見つめる」、「学ぶ」、「ふり返る」の3つのステップで展開されています。

(2)、思考力、判断力について説明をします。78ページをご覧ください。A、B、C、各内容の中で「学びを生かそう」を設置し、その前までの学習を生かして、各生徒が自分の課題の設定、課題解決の学習の6つのステップの中に沿って、思考力、判断力、表現力を養うようにできております。

同じ78ページをご覧ください。その際に、「課題設定のヒント」、「私の課題例」が示されています。

学びに向かう力、(3)です。同じく78ページを見てみますと、課題解決的な学習の進め方を具体的に6つのステップで示しています。

31ページをご覧ください。「メッセージ」のコラムを設定し、学習に関わりのある人からの言葉を掲載しています。そのため、社会とのつながりを感じられるようになっています。

238ページをご覧ください。技術・家庭科の中では、持続可能な社会の構築ということが大切になっていますが、それに向けてSDGsなどの話題のテーマを記載しております。また、書き込みができるワークシートが教科書に取り入れられています。

実践的、体験的な活動についてです。203ページをご覧ください。「私のアレンジ」コーナーが設定されています。そのため、それを参考に、生徒自ら、自分の課題に合った家庭生活ができるように工夫されています。

135ページをご覧ください。「比べてみよう」のコーナーを設置して、調理、製作したものと市販品を比較し、評価するポイントが分かるように配置されています。

開隆堂を説明させていただきます。(1) 基礎的、基本的な知識の部分です。どの項目についても同じなのですが、実物をイメージできる写真やイラストを掲載し、段階的に順を追った知識、技能に関する技術が載っています。

196ページをご覧ください。学習を進めていく上での技術の定着関係から、調理の方法のQ & A、それから製作の基礎基本が掲載されています。

41ページをご覧ください。学習のまとめりごとに「ふり返り」、それから「生活に生かそう」が記載されています。

思考力、判断力、(2) について説明をさせていただきます。268ページをご覧ください。巻末に掲載されている「生活の課題と実践」では、A、B、C、それぞれの内容について6つの段階に応じた課題解決の進め方が示されています。

(3) 学びに向かう力、人間性です。56ページをご覧ください。Aの内容の中に「家庭生活と地域のかかわり」が設定され、「やってみよう」コラムを通して、本文で学んだ知識を実践に向ける、そういったものになっています。

64ページをご覧ください。それぞれの内容に持続可能な生活を設定し、持続可能な社会の構築に向けて全ての内容がSDGsにつながると考え、内容のまとめの特設ページが設定されています。

16ページをご覧ください。「生活に生かそう」で、振り返りとセットで実生活に生かす内容が入っております。

実践的、体験的な活動について説明をします。136ページをご覧ください。食に関する内容ですが、「あと1品つくってみよう」とか「おやつやデザートをつくろう」とか「雑煮をつくろう」とか「地域の野菜を使って、手打ちうどんに挑戦しよう」という、家庭でも取り組みたくなる調理実習例が示されています。

それから、教科書の下段には「豆知識」というのが記載されており、さらに詳しく実践してみたい内容が載っています。

2番、資料について説明をさせていただきます。東京書籍です。デジタルコンテンツが用意されています。21ページです。ただし、東京書籍の場合につきましては、QRコードですが、各編の初めに載っております。それから、実物の写真が大きいという形になっております。

教育図書です。同じように、デジタルコンテンツが用意されております。教科書の各場所によってQRコードが表記されております。同じように、実物の写真が大きいということになっています。

開隆堂です。同じように、デジタルコンテンツが用意されていて、基礎技能の動画が充実しています。それから、こちらはデジタル教科書もあるということで、ICTからの観点から使えるかということです。

もう一つは、実物の写真が大きいということはもちろんですが、左利きの生徒への対応もできるということです。

3番、表記・表現について説明をさせていただきます。東京書籍です。54ページをご覧ください。実習や生活の中で必要な基礎技能をまとめた「いつも確かめよう」という見出しができております。

教育図書に行かせていただきます。79ページをご覧ください。「課題設定のヒント」という見出しで、どこにもヒントが掲載されているページが多くあります。

それから、107ページをご覧ください。調理では、食物アレルギーへの配慮があり、代替食品が例に示されています。

110ページをご覧ください。食中毒と予防を載せてあります。

開隆堂に行かせていただきます。71ページをご覧ください。子どもたちが、「私の興味・関心」というページがあり、記入する欄がついています。

調理では、安全、衛生の注意事項にはマークがつけてあり、食物アレルギー物質を含む食材にも色分けがされています。

最後に、総括に行かせていただきます。東京書籍です。小学校と中学校の系統性が明確になっています。「小学校マーク」、「他教科マーク」というのが示されています。

それから、ほかの教科書と大きな違いが東京書籍にあります。ガイダンスの後に、B（衣食住の生活）、C（食生活・環境）、A（家族・家庭生活）の内容の順番になっています。

教育図書ですが、小学校、中学校の関連性につきましては「リンクマーク」という形で示されています。ページにつきましては、ガイダンスの後、A、B、Cという順番となっております。

開隆堂につきましては、小学校、中学校の系統性が明確になっており、小学校との関連につきましては「小学校での学び」という見出しになっています。他教科、多分野との関連を左上に表示されています。開隆堂も、ガイダンスの後、A、B、Cという順番で学習の流れになっています。

私からは以上です。

吉田教育長 ただいまの報告について質疑を行います。

各委員の質問に続いて選定委員の回答を求めます。

野口委員。

野口教育長職務代理者 それでは、ご説明ありがとうございました。

まず、選定委員としてどの教科書を推薦するのか、ご説明願います。

瀧田選定委員長（北中校長） お答えします。

選定委員会では、調査報告書、学校における教科書の調査研究報告、さらに法定教科書展示会会場において来場者の皆様からご提出いただいた意見などを参考にして協議を行いました。

協議終了後、選定委員13名ですが、全員が3種類の教科書発行者について5段階評価で無記名投票といたしました。65点が満点となります。

結果でございますけれども、2番、東京書籍、58点、6番、教育図書、42点、9番、開隆堂、62点という結果でした。

本選定委員会としては、点数の多かった順に、62点の開隆堂、58点の東京書籍、42点の教育図書を推薦いたします。

以上です。

吉田教育長 ほかにございますか。

堀川委員。

堀川委員 選定委員会では、どのような話題が出ましたでしょうか。

西村選定委員（平方中校長） 選定委員会では、生活に直結する部分が多い教科であることから、各社、具体的な生活場面が多く掲載されているという意見が出ました。

吉田教育長 ほかにございますか。

進藤委員。

進藤委員 学校の調査報告書では、どの教科書会社の推薦が多かったのでしょうか。また、その主な理由について教えてください。

西村選定委員（平方中校長） 学校からの推薦では、開隆堂を推薦する学校が最も多く9票、次いで、東京書籍が8票、教育図書が4票の結果でした。

推薦理由につきましては、開隆堂では、学習環境を通して多様な課題が選定されており、教科書に沿って学習を展開することでアクティブ・ラーニングを実現できる構成になっている。安全、衛生、防災について、学習中の不慮の事故や家庭での事故などに対して、主体的に判断力を育てる、そういったことになっているということです。

東京書籍では、次の項目のつながりが写真やイラストが多く、見やすいレイアウトになっています。細かな説明補足もあり、生徒の実態に応じています。各単元の見出し等が見やすく、全体的に製作意欲をかき立てるような内容になっています。

教育図書では、基礎的、基本的な知識や技能を身につけることができるような内容が編成されています。課題解決の視点を盛り込んだ実習題材が豊富に掲載されています。教科書全体を通して、課題解決の学習の流れが統一されていますという意見がありました。

以上です。

吉田教育長 ほかにございますでしょうか。

荒木委員。

荒木委員 食物アレルギーについての対応はどのように示されているのでしょうか。

西村選定委員（平方中校長） 東京書籍では、48ページ、加工食品の特徴と加工食品の表示の中で

食物アレルギーの言葉が出てきています。また、食物アレルギーの原因となる食品で詳しく説明しています。

教育図書では、107ページに加工食品の選択と購入の中でアレルゲンの言葉が出ています。また、資料、食品の表示を見てみようの中で、アレルゲンの表示方法について説明しています。

開隆堂では、101ページに加工食品の選択の中で、食物アレルギーのアナフィラキシーという言葉が出ています。また、表でアレルギー物質を含む食品を紹介しています。

以上です。

吉田教育長 よろしいですか。

ほかにございますか。

渡辺委員。

渡辺委員 先ほど選定委員さんから、東京書籍は目次のところで、ほかと異なった点があるというふうにおっしゃったのですけれども、そのところでもう一度ご説明をお願いします。

西村選定委員（平方中校長） ほかの教科書と比べていただければ分かると思うのですが、家庭分野の学習指導のA、B、Cという3つがあります。そのA、B、Cが、本来であれば、Aが家族・家庭生活、Bが衣食住の生活、Cが食生活・環境になっています。A、B、Cという順番で行きますと、そういう順番なのですが、東京書籍の場合については、最初に、私たちの食生活、衣生活、住生活という、Bが最初に来ている。

渡辺委員 Bが最初に来ているということですね。

西村選定委員（平方中校長） はい。それから、Cの私たちの消費生活の関係が2番目に来ております。Aが最後になっているという順番です。

渡辺委員 これはどうなのでしょう。例えばいいとか悪いとか、何か意図が、分かれば教えてください。

西村選定委員（平方中校長） 学校生活の中で、一番子どもたちに身近なところから入りますと、実際には、私たちの食生活、衣生活、住生活というのが最初になるのかなということですが、教科書はどこから始めてもいいよというふうな形になっております。ですから、A、B、Cの中で、例えばBを最初にやってもいいということなのですが、東京書籍は、やりやすいような順番で目次を入れ替えたというふうな形ではないかなというふうに思っております。

渡辺委員 そういいますか。はい、分かりました。ありがとうございます。

吉田教育長 よろしいですか。

ほかにございますでしょうか。

〔「なし」と答える者あり〕

吉田教育長 なければ、質疑を終わります。

それでは、協議を行います。

選定資料にある4つの調査の観点に沿って協議を進めたいと思います。まず、調査の観点1、内容についてご意見はございますか。

渡辺委員。

渡辺委員 今、選定委員さんからもご説明いただいたのですが、どの教科書もきちんと目当てがあって、そして学ぶことは何なのかということで、アンケートによると、開隆堂はアクティブ・ラーニングができるということだったのですが、教育出版でも、話し合ってみようというのが章の中に入っていて、アクティブ・ラーニングも対応していますし、それから振り返ろうということも入っていて、3社ともきちんと学習ができるようになっているという印象があります。

それと、調理で手順の写真もいろいろあるのですが、これもどこが見やすいということではなくて、3社とも非常に見やすいと感じております。

以上でございます。

吉田教育長 ほかにございますでしょうか。

進藤委員。

進藤委員 どちらの教科書も、調理実習もそうですし、ものを使った実習もかなり例が多くて、選択的にいろいろなものを試せると思いました。

特に教育図書の200ページなのですが、手作りマスクがありまして、今だったら別に珍しくも何ともないのしょうけれども、1年前にマスクを作らせたというのはおもしろいと思いました。

吉田教育長 ほかにございますか。

荒木委員。

荒木委員 先ほどの技術もそうですけれども、家庭科というのは、学んだことを日常や今後の生活にどれだけ生かせるかというのが大事な教科だと思っています。

学校推薦では、開隆堂と東書を推薦する声が多かったとのことですが、裁縫や調理実習などを確認いたしましても、東書は細かく、とても丁寧で分かりやすく記載されて、開隆堂は簡潔で基礎的なポイントを押さえている、先ほどの技術分野の教科書と同じような傾向が見られると感じました。

吉田教育長 ほかにございましたでしょうか。

野口委員。

野口教育長職務代理者 私から1点だけ、SDGsの扱いといたしますか、やはり開隆堂はかなり、目次を見ても分かる形で、大きいまとまりとして出ているので、取り組みやすいと感じました。
以上です。

吉田教育長 ほかにございますか。

私からですが、家庭分野では、自立に必要な基礎的な理解を図るとともに、それらに関わる、

関わり方、それから作り方など具体的な技能を身につけるということが求められているわけですが、例えば開隆堂の2枚目の目次を見ていただくと分かりやすいかと思うのですが、表記では3となっていますけれども、左の下のところ。その目次のところを見ると、Aの家族・家庭生活のところを見ると、自分の成長と家族・家庭生活から幼児との関わり、3です。幼児との関わりを通して基礎的な知識、ここで基礎的な知識を習得させて、次のところで、触れ合い体験の前ということで、幼児との体験の仕方を考えさせた上で、そして保育実習につなげる中で、幼児との関わり方、関わる技能を身につけさせ、そういう流れをつくっているのかと思って見させてもらいました。

また、Bの衣食住の生活についても、これも同じようで、食と衣については、それに関わる基礎的な知識を習得させた上で、Bの衣食住の生活の4、106ページになりますけれども、日常食の調理ということで調理実習につなげる中で技能を身につけさせる流れをつくっているのかなと思いました。

それから、教科横断的なカリキュラムの視点ということで、家庭分野は相当いろいろなところにつながっていくだろうと思って見させていただいたのですが、他教科とのつながりは相当あります。一々挙げていると切りがないので、やめますけれども、特に消費生活と環境って、そのほとんどが当然ながら社会科との関連を示すマークをつけていまして、総合的な学習の時間あるいは道徳、保健、理科、技術、社会科などとの関連を意識し、系統的に指導できるように工夫されているかと思います。この点、ほかの会社のものも同じかと思いますが、かなり量があると思っています。

それから、学習指導要領に示されているAの家庭生活、これを、64ページと65ページ、目次を見ても分かりますけれども、さっき野口委員からありましたけれども、5の持続可能な家庭生活という、5ということで、時間を割いて持続可能な家庭生活との関わりでも見させると、そういうところを用意してあります。

それから、Bの衣食住の生活の食の、これも目次のところを見ると、152のところの7として持続可能な食生活ということで取り上げております。以下、同じように取り上げているわけですが、A、B、Cのまとまりごとに、それに関わる問題点を持続可能な社会の構築と、そういう視点で、すなわちSDGsとの関わりの中で、グローバルな取組みの重要性についても理解できるように工夫されていると思いました。

ほかに1についてございますでしょうか。よろしいですか。

〔「なし」と答える者あり〕

吉田教育長 では、なければ、次の資料、それから表記・表現、総括についてまとめてご意見を伺いたいと思いますが、何かございましたらお願いをいたします。よろしいですか。

〔「なし」と答える者あり〕

吉田教育長 ほかの観点で協議したい内容はございますでしょうか。こちらについてもよろしいですか。

〔「なし」と答える者あり〕

吉田教育長 ないようですので、これより技術・家庭、家庭分野の教科用図書に係る採択に入ります。

選定委員の先生方、ありがとうございました。

〔選定委員退室〕

吉田教育長 採択は無記名投票により行い、私及び5名の委員の5段階評価の合計が最も高いものを採択いたします。

それでは、事務局より投票用紙の配付をお願いいたします。

〔投票用紙配付〕

吉田教育長 次に、投票箱を改めさせます。

〔投票箱点検〕

吉田教育長 それでは、各委員は順次投票をお願いいたします。

〔点呼に応じ順次投票〕

吉田教育長 投票漏れはございませんか。

〔「なし」と答える者あり〕

吉田教育長 投票を終了いたしました。

それでは、開票及び集計に入りますが、事務局の集計に当たりまして、立会人として、荒木委員、それから渡辺委員を指名いたします。

〔立会人立会いの上開票〕

吉田教育長 集計が終わりましたので、投票結果についてご報告いたします。

投票結果については、発行者番号、発行者名、評価点の合計の順番で、発行者順に読み上げます。

2 番 東京書籍 27点

6 番 教育図書 21点

9 番 開隆堂出版 29点

以上のとおり、技術・家庭、家庭分野の教科用図書は、9番、開隆堂出版を採択することになりました。

英語の教科用図書について審議いたします。

選定資料の説明等のため、選定委員の入室を求めます。

〔選定委員入室〕

吉田教育長 英語の教科用図書について、選定委員より選定資料の説明を求めます。

原田選定委員（武蔵野中校長） では、説明いたします。

まず、東書ですが、知識及び技能を習得するために、各ユニットのプレビューで目的場面状況を押さえ、3つのステップを通して知識の定着を図る工夫をしています。

また、英語を使う目的や場面に合わせて「Let's Write」、「Let's Talk」、「Let's Listen」、「Let's Read」が設定されており、各技能が定着するように工夫されています。

思考力、判断力、表現力等を育成するために、「Read and Think 1. 2」では、まとまった分量の本文を読み、身につけた知識、技能を用いて、自分の言葉で表現する力を身につけられるよう場面が設定され、工夫されております。

学びに向かう力、人間性等を涵養するためには、各技能、領域に特化した活動が豊富で、学習に役立つコツが各学年で紹介されています。コミュニケーションを図る資質、能力を育成するために、聞く、話す活動から授業に入り、徐々に文字を読むことや基本文を学習することで文法を整理する流れを取っています。

資料といたしましては、東書のみA4判で、各単元の最初のページにコラムがあり、その単元で扱う題材の背景的知識を学ぶことができるようになっています。

表記・表現につきましては、各ページの本文以外のスペースが広めで、説明の情報量が豊富です。どの教科書も字体は段階を追って変化させていて、同じような傾向にあります。

総括です。小中学校の学習のつながりとする目安として、達成目標のCAN—DOリストがあり、全学年を掲載しつつ、該当学年はより具体的な達成目標も同時に示しています。また、小学校のリストも載っております。

続いて、開隆堂です。知識及び技能が習得されるよう、各プログラムが複数のセクションで構成され、一定の手順で学習できるように設定されています。

また、「Power—Up」では「聞く」、「読む」、「やりとり」、「発表」、「書く」コミュニケーション活動が設定され、「Retell」で自分の言葉で本文を語る活動があり、工夫されております。

思考力、判断力、表現力等を育成するためには、「Our Project」で、それまでに学んだ表現やできるようになったことを使って行う総合的なパフォーマンス活動が設定されています。

学びに向かう力、人間性等を涵養するためには、既習表現等を使った対話活動や場面、トピックで行うやり取りを繰り返して学習することで表現が身につく工夫がされています。

コミュニケーションを図る資質、能力を育成するためには、漫画のシーンを読んで、気づきから理解へつなげる文法学習の流れを取っています。

資料としては、巻末にあるアクションカードにミシン目加工が施されているため、簡単に切り離すことができるようになっています。

総括としましては、巻末資料として「英語で「できるようになったこと」リスト」が3学年分の一覧表として、到達目標が具体的に示されております。

三省堂です。知識及び技能が習得されるために、各レッスンの構成では「Words」、「POINT」、「Drill」、「Listen／Speak／Talk／Write」としており、ポイントが分かりやすく、基礎が身につけられるように工夫されています。

また、学習した語彙や表現を使い、各領域の技能が身につくよう工夫され、新出文法と既習文法を用いながら自分の考えを発表する場が設けられています。

思考力、判断力、表現力等を育成するために、「Project」では、ペアやグループになって自分たちでアイデアを考え、企画し、発表する活動であり、提示された場面の中において自分たちでつくり上げる、想像力を働かせて活用する活動が設定されています。

学びに向かう力、人間性等を涵養するためには「GET Plus」が新設され、会話の中の表現と言語の働きを整理し、実際のコミュニケーションで活用する力を身につけられるよう工夫されています。

コミュニケーションを図る資質、能力を育成するために、基本表現を「GET」で学んだ後、「USE」で目的、場面、状況に応じた英語を使用する活動を行い、段階を踏んで文法事項を使いながら表現を学び、文法理解や表現力向上を図っています。

資料としては、各レッスンに「Word Bank」があり、生徒たちの知りたい、使いたいと感じる語彙や表現を学習することができるようになっています。

総括としては、裏表紙には「What Can I Do?」があり、当該学年の達成目標を知ることができるようになっています。

教出です。知識及び技能が習得されるよう、各レッスンに「Tips」が設置されており、技能のコツやルールについて学ぶことができるようになっています。

思考力、判断力、表現力等を育成するために、「Project」は話し合ったことを発表する活動が設定され、「Think&Try」では、本文の一部を利用しながら自分の考えを加えて表現できるように工夫されています。

学びに向かう力、人間性等を涵養するために、各学年の巻末にカードがあり、それを使って話すやり取り活動を行うことができるようになっています。

コミュニケーションを図る資質、能力を育成するために、各パートにある「Think&Try」では、学習した本文の一部を利用して、生徒自身の考えを少し加えて表現する活動を行っています。

単元の最後にある「Task」では、本文の内容を基に聞いたり、話したりする活動を行っています。

資料としては、附属の赤色マスキングシートで、赤い文字を隠して重要語句や表現を覚えたり、音声聞きながら発音練習をしたりできるようになっています。

巻末に附属しているカードにはミシン加工を施されており、簡単に切り離して使うことができます。

総括として、「Can—Do 自己チェックリスト」が裏表紙に3学年分、当該学年は大きめに載っております。

光村です。知識及び技能が習得されるために、各ユニットは「扉」、「Part」、「Goal」で構成されており、段階的に学習できるように設定されています。

思考力、判断力、表現力等を育成するために、各ユニットのストーリーに沿って帯教材が設定されており、絵を見て自分の言葉で話す力を伸ばすような活動が設定されています。

学びに向かう力、人間性等を涵養するために、教科書本文は3年間、一続きのストーリーから成っています。単元末の「Goal」と「You Can Do It!」では、学んできた知識、技能を使い、複数の領域を横断した活動に取り組み、グループで学習できるようになっています。

コミュニケーションを図る資質、能力を育成するための工夫には、ユニットは「扉」の聞く活動から始め、5領域の活動を取り入れ、単元の最後に「Goal」が設定され、学んだ技能を振り返る工夫がされています。

資料としては、帯教材「Let's Talk!」の教材は、会話活動を行いながら、使用する相づち表現やよく使う語句がいつでも参照できるようになっています。

総括として、巻末付録として「Can—Do List」が当該学年について載っています。

啓林館です。知識及び技能が習得されるために、各ユニットは段階的に学習できるように設定されています。

思考力、判断力、表現力等を育成するために、「Project」では、既習内容を使って自分の言いたいことを英語で表現できるように設定されています。

3年生の「Further Study」では、まとめとし、ディスカッションと長めの英作文に取り組む活動が設定されています。

学びに向かう力、人間性等を涵養するために、生徒に慣れ親しんだ題材、日本や世界に関わる出来事や人物などが扱われています。

コミュニケーションを図る資質、能力を育成するために、各単元の「Read&Think」では、概要把握から段階的に理解を深め、本文の内容に関連して自分の意見や考えを述べるようになっています。

資料として、1年生の巻末には英語の発音とつづりの仕組みが掲載され、英語学習の入門期や文字と音声の関係性を学習するようにできています。

総括として、巻末に「Can—Doリスト」として3学年分が載っています。

以上です。

吉田教育長 ただいまの報告について質疑を行います。

各委員の質問に続いて選定委員の回答を求めます。

野口委員。

野口教育長職務代理者 ご説明ありがとうございました。

それでは、まず、選定委員としてどの教科書を推薦するのか、ご説明をお願いします。

瀧田選定委員長（北中校長） お答えします。

選定委員会では、調査報告書、学校における教科書の調査研究報告、さらに法定教科書展示会会場において来場者の皆様からご提出いただきました意見などを参考にして協議を行いました。

協議終了後、選定委員13名で、全員が6種類の教科書発行者について5段階評価で無記名投票といたしました。満点は65点ということになります。

結果でございますけれども、2番、東京書籍、59点、9番、開隆堂、42点、15番、三省堂、62点、17番、教育出版、34点、38番、光村図書、46点、61番、啓林館、50点という結果でした。

本選定委員会としましては、点数の多かった順に、62点の三省堂、59点の東京書籍、50点の啓林館を推薦いたします。

以上です。

吉田教育長 ほかにございますでしょうか。

渡辺委員。

渡辺委員 選定委員会ではどのような話題が出ましたでしょうか。

原田選定委員（武蔵野中校長） 選定委員会では、5領域をバランスよく指導するためにアイコンを設定し、視覚的に分かるようにしているということと、各単元ではどの領域も関わるようになっていたというようなことが出ました。

吉田教育長 ほかにございますか。

堀川委員。

堀川委員 学校の調査報告書では、どの教科書会社の推薦が多かったでしょうか。また、その主な理由について教えてください。

原田選定委員（武蔵野中校長） 学校からの推薦では、三省堂を推薦する学校が最も多く6票、続いて、東京書籍、5票、光村、4票、啓林館、4票、開隆堂、3票、教育出版、1票という結果でした。

推薦理由といたしましては、三省堂では、扱われている題材が最近の社会状況、情勢に即している、また生徒の興味、関心を引く話題や題材を扱っている、話す、読む、聞く、書くの場面がほぼ全てのレッスンに設けられている。

東書では、本文からアクティビティにつながりがあり、学習内容が生かしやすい、題材が生徒の興味を引く。

光村では、対話場面や具体的な状況が設定されており、指導のポイントが明確である、到達目標が明確である、イラストや写真が見やすく、分かりやすい。

次の啓林館では、学ぶことが明確になっており、言語活動例も分かりやすく、取り組みやすい

内容となっている。

開隆堂では、場面設定が明確になされており、生徒にとって場面が想定しやすい。

教出では、生徒にとって見やすい、教師にとって使いやすい、be動詞からではなく、一般動詞から入る題材も用意等の意見がありました。

以上です。

吉田教育長 ほかにございませんでしょうか。

進藤委員。

進藤委員 小学校との円滑な接続という点では、各社どのような工夫が見られるでしょうか、教えてください。

原田選定委員（武蔵野中校長） 東京書籍では、入学から夏休み前までの期間を小中接続期として、ユニット0からユニット5まで設定しています。聞く、話す活動から授業に入り、小学校で学んだ表現を取り上げ、それらを中学校の文法学習として積み上げられるように再配列してあります。

開隆堂では、小学校英語から橋渡しとなるように「Get Ready」とプログラム0が設けられています。小学校で学んだ表現、アルファベットやつづりと発音等、文字に関わる内容を丁寧に確認できるように配慮されています。

三省堂では、1年生冒頭に「Hallo Everyone」が置かれ、小学校で学んだことの言葉の使用場面と語句、表現やアルファベットと文字の読み方等を振り返ることができます。また、レッスン1、2、3においても、小学校での学びを生かし、中学校の学びへとスムーズに接続する工夫がされています。

教育出版では、スプリングボードが設定され、イラストを使ったリスニングやゲームに取り組むことによって、小学校で慣れ親しんだ表現を楽しく効果的に復習することができます。1年生序盤のレッスンは、小学校と同様に、生徒の身近な生活に即したコミュニケーションを重視した構成となっています。

光村図書では、小学校の学びを振り返り、生徒ができることを確かめられる内容の小中接続期教材や帯活動で発音とつづりのルールを学ぶことができる教材を1年の巻頭に設定してあります。また、1年ユニット3までは、文字を読む準備期間として負担を少なくしてあります。

啓林館では、1年生冒頭に「Let's Start」が設定されており、小学校での学習を振り返り、耳から学習した英語を文字と結びつけるなど、小学校で学んだ英語を復習して定着させることができるようになっています。イラストも大きく使用し、取り組みやすい内容になっています。

以上です。

吉田教育長 ほかにございますでしょうか。よろしいですか。

〔「なし」と答える者あり〕

吉田教育長 ほかになければ、質疑を終わります。

それでは、協議を行います。

選定資料にある4つの調査の観点に沿って協議を進めたいと思います。まず、調査の観点1、内容についてご意見はございますか。

野口委員。

野口教育長職務代理者 それでは、ご説明ありがとうございました。

私の世代は、導入的に「a pen」「a desk」「This is a pen」という、日本人が誰でも知っている英語から入った世代で、よく考えると、ペンは見れば分かるので、なかなか「This is a pen」という表現を、英語を使う場面って、使うことはなかったと思うのですけれども、be動詞から入って、文法をしっかり学んでやっていこうという世代だったと思うのですけれども、そこから大分、日本人はなかなか話せないということが課題と言われるようになりまして、今、5領域ということで、聞く、話す、読む、書くで、話すのはやり取りと発表とかと分けて、話すことについても重点的にやっていこうということで、各会社ともいろいろと工夫してやっているのだなということがよく分かりました。

先ほどお話のあったように、啓林館と開隆堂はbe動詞から導入しているパターンなのかな、一方、両方同じデスクの中で扱っていこうという会社も結構多くなっていて、結果的には両方同時に並行で進めていくパターンが多くなっていると思うのですけれども、ですから、私が言ったように、少し、昔の英語教育を受けた者からすると、be動詞から教えて、啓林館は、確かに分かりやすいという面はあると思うのです。be動詞のことを教えて、否定文とか疑問文とか、その後、一般動詞をやろう、そういうパターンも確かにあるのかな、分かりやすいところもあるのかなとは思っているのですけれども。

現場の声では三省堂という声が大きいのですが、例えばですけれども、三省堂の1年生の導入を見ていますと、三省堂は割と、毎年のようにお聞きしていると思うのですけれども、例えば15ページにはもう既に、最初の段階でこのようなことを勉強しますという、未習の段階でも、ポイント、下にここで学習する英語の表現が載っていて、いろいろとたくさんの活動を工夫しながらやっていくのですけれども、それがところどころにきちんと整理する形で、例えば18ページでは、be動詞と一般動詞を両方載せて、こういう学習ですと載せていって、そしてまたさらに24ページではbe動詞と一般動詞の疑問文を載せる、そして30ページでは否定文をそれぞれ、be動詞と一般動詞で載せると。それで、最終的には文法にまとめて、36ページですずっと今まで学習したことをすっきりまとめてくれているということで、現場の声の中で非常に分かりやすいのではないかという意見が出たのかと私は感じました。

また、36ページの英語の仕組みというところでは、例えば日本語と英語の大きな違いのところについて、最初の段階で、例えば「I」と「You」ということ、日本語は「I」の表現はいっぱいあるけれども、私という以外の場合はシンプルでいいですよとか、あなたのことも立場によってい

ろいろ日本人は使い分けますけれども、大体、英語の場合は「You」で済みますとかということとか、あるいは語順についても、日本語というのは、世界の言語の中で日本語はかなり特殊なほうだと思うのですが、英語については逆になっているのですということですけれども、こういった文化の違いについても最初に押さえられていて、分かりやすいと思いました。

東書も同じような中身になっていると思うのですが、割合とシンプルに分かりやすくしているのが三省堂ということで、現場からの声になっていると私は感じました。

特に各領域をバランスよくやってもらうのが一番いいと思うのです。今までの、あまりにも文法指導に力が入り過ぎた時期がありましたけれども、その後、今度、コミュニケーション、コミュニケーションということで、話す活動をたくさんさせることによって、またそれに抵抗を感じる生徒さんもいて、英語が少し嫌いになっていく場面もあると。少し知り合いの子に聞くと、あの場面が一番嫌だという子もいるのです。自分で友達を見つけて話さなくてはいけないのだと、それにすごく抵抗を感じると、先生が来るまでは日本語で少し世間話していて、来たとき、通過するときに英語をしゃべったふりしているということで時間を過ごしているという声も少し聞いたことがあります。ですから、バランスよくいろいろな活動をする中で、それぞれ得意な活動はあると思いますので、子どもたちが英語を嫌いにならずに参加できればいいと思っています。そういった意味で、三省堂がきっと先生方としてはいいと感じました。

私からは以上です。

吉田教育長 ほかにございますでしょうか。

荒木委員。

荒木委員 ただいま野口委員さんから三省堂についての流れのご説明がありましたが、私もその流れの中での文法のまとめがしっかりしていて分かりやすい感じがしました。

吉田教育長 ほかにございますか。

渡辺委員。

渡辺委員 東書が少し縦長ということで、他と比較して見てみたのですが、まず表紙扉のところなののですが、英語と世界でつながろうというところで、世界でどのくらい中国語が話されているとか、いろいろあって、その中でも、英語はこんなに話されているということ、だから、英語をまず学ぼうねというのが子どもたちに入ってくるのではないかと感じました。

中身を見てもみると、縦長がうまく利用できていて、学習の見通しを持てるという感じがしました。

どの教科書もこちらの付録のところの単語が充実していて、いいと思うのですが、啓林館の場合は、ユニットごとに単語をまとめているのです。ワードボックスというのですか、そのところで見ると、レッスン1でそれに関連するものを挙げておいて、実際に今度は練習をするときに、例えばコミュニケーションで練習するときに、その部分だけ変えるということで、

語彙も豊富になってきますし、覚えるときもすっと入ってくるのではないかと思います。

以上です。

吉田教育長 ほかにございますでしょうか。

では、私から、学びに向かう力ということで、主体的に英語でコミュニケーションを図ることということが求められているのですけれども、三省堂については場面設定が工夫されていて、こうした場面では易しい単語でこう表現すればいいのだというようなこと、分かりやすくなっているもので、前向きに、これはこういう言葉を使ってやっていけば気になることがあると思いますが。

例えばですけれども、三省堂の1年の51ページで、こんにちとは、これは英語ではハローという、これは簡単に見えるのだけれども、実際に自分で英語をつくってみたら、多分、これはなかなか難しい。こんにちとは日本語で書いて、「This is the pen」をこういう表現とか、55ページで、今神社にいるのだと、多分、一番上ですか、今神社にいるのだ、「I am at 」とか思いました。

それから、70ページ、これは設定が上手なのではないのかなと、70ページに行って、これはブラウン先生が送った、先生が家族の写真を見せていますけれども、タクシーの運転手をやっていて、まちの、ロンドンのほとんどの通りはよく知っていたということなのですから、「there」、「there」でいいのだと。

それから、75ページに行って、これはストリートパフォーマンスだと思うのですけれども、75ページの3つ写真が載っていて、右側の、これはどう表現するのだ、これはどういう言葉で表現するのか、ドレスアップこれは随分易しい、「statue」って難しいかもしれないけれども、こういう表現とか。

88ページで、「Dear friend」って、写真を使って、手紙を送っているのですか、下から3行目に「I am in the first picture」、最初の写真に私がいるの、そういうことですか、「I am in」って。こういうのを見ながらだとすんなり入っていくと思いました。

三省堂の2年生の98ページで、これは中国人の友達に手拭いを贈るのだという話で、袋というの、袋を絵に描いて、袋というのはビニール袋、袋のデザインをしてある写真。これを考えさせて、どのように相手に表現したらいいかと考えさせるのでしょうか、これはしゃれていておもしろいと思ったのが、袋というのは意味があると書いてあって、問題も、袋を「without trouble or stress」、何のことかと思ったのですが、袋にはトラブルもストレスもない意味なのだ、ということですね。よくよく考えたら、ふ・くろうだと、しゃれていると思って、おもしろく英語を勉強できるかなと、これは私だけの解釈かもしれないけれども、そのように思いました。

三省堂では、こういう教材を配して、三省堂の1の2ページ目にこの教科書の仕組みというのが載っていますけれども、ちょうど2ページ目と3ページ目の間に、理解する、活用する、分析

する、ふり返るが載っているのですけれども、これを繰り返して、場面や状況に応じて日常的な話題や社会的な話題について、ここで理解したい、活用して表現したり、伝え合ったりすることができる、そういう力を養えるように工夫していると思いますけれども。

また、聞く、話す、書く、読む、活用する、文法のまとめをという、まとめが何かあるのですけれども、そういう流れを無理なく入れ込んでいると思いました。例えばレッスン7のパート1、これは114ページですけれども、これは113ページを見ると分かるのですが、「Wheel chair basket」、車椅子バスケットというのが、114ページでバスケットのプログラムに参加しましたという例で書き込みがあるのですけれども、その様子をビデオメッセージに仕立てているシチュエーションで書かれていて、これを受けて、聞く、話す、書くの言語活動、これは118ページ、その後に、118ページに、「Basketball and my life」という、自分のことを言っている文章があるのです。辞書を引きながら読んでいましたけれども、これは非常に感動的で、最後にメッセージがあって、「You can do it」と書いてあるのですけれども。

このように無理なくあって、今度は活用のところで、120ページですけれども、自分の気に入った偉人を紹介しようという、こういうふうにつなげているのです。非常にストーリー性があるとおもしろいと思いました。

こういう感動的な話は、レッスン8の132ページのところの、これはマウントフジがごみで汚れていると、富士山がというようなところの扱いですけれども、ここには教科とのつながりは書いていないけれども、これは道徳か何かと関連してもよさそうですね。そういうのを載せてある。全体として、流れとしておもしろいと思いました。

ほかにございませんでしょうか。よろしいですか。

〔「なし」と答える者あり〕

吉田教育長 それでは、資料1の内容については以上といたします。

では、調査の観点の2番目として資料、それから3番目として表記・表現、4番目として総括については、まとめてご意見がございましたらお聞きしたいと思いますのですが、どうでしょうか。よろしいですか。

〔「なし」と答える者あり〕

吉田教育長 この観点以外に協議したい内容はございますでしょうか。よろしいですか。

〔「なし」と答える者あり〕

吉田教育長 ないようですので、これより英語の教科用図書に係る採択に入ります。

選定委員の先生方、ありがとうございました。

〔選定委員退室〕

吉田教育長 採択は無記名投票により行い、私及び5名の委員の5段階評価の合計が最も高いものを採択いたします。

それでは、事務局より投票用紙の配付をお願いいたします。

〔投票用紙配付〕

吉田教育長 次に、投票箱を改めさせます。

〔投票箱点検〕

吉田教育長 投票をお願いいたします。

〔点呼に応じ順次投票〕

吉田教育長 投票漏れはございませんか。

〔「なし」と答える者あり〕

吉田教育長 投票を終了いたしました。

それでは、開票及び集計に入りますが、事務局の集計に当たりまして、立会人として、野口委員、それから堀川委員を指名いたします。

〔立会人立会いの上開票〕

吉田教育長 集計が終わりましたので、投票結果についてご報告いたします。

投票結果については、発行者番号、発行者名、評価点の合計の順番で、発行者順に読み上げます。

2 番	東京書籍	2 6 点
9 番	開隆堂出版	2 3 点
1 5 番	三省堂	3 0 点
1 7 番	教育出版	1 8 点
3 8 番	光村図書出版	2 2 点
6 1 番	啓林館	2 3 点

以上のとおり、英語の教科用図書は、15番、三省堂を採択することに決しました。

道徳の教科用図書について審議いたします。

選定資料の説明等のため、選定委員の入室を求めます。

〔選定委員入室〕

吉田教育長 道徳の教科用図書について、選定委員より選定資料の説明を求めます。

母壁選定委員（光陽中校長） それでは、道徳の教科書について説明申し上げます。

中学校道徳の7社の教科書について、調査の観点の項目ごと、特に1、内容の（2）現代的な課題などの題材を取り上げる上での工夫、（4）「考え、議論する道徳」を通して道徳性を育成する工夫と4総括の部分を中心に説明いたします。道徳は7社ありますので、各社の1年生の教科書と配付資料に記載された内容を照らし合わせて説明いたします。

まず1番目、東京書籍の1内容です。（1）、38ページをご覧ください。「ACTION!」のページでは、役割演技を通して、自分だったらこう考えるという確認ができると同時に、ほかの人

の意見を知ることと自分とは違う考えを知ることができるという工夫があります。

同じく43ページをご覧ください。教材ごとの終わりに「考えよう」、「自分をみつめよう」があります。中心発問に当たる設問で主題について考えた後、自己の生き方について深く考える工夫があります。

(2)、戻りまして、21ページ、「いじめ問題対応ユニット」と55ページ、「生命尊重ユニット」は、それぞれ3つの教材を通して1つのテーマについて学習するように構成され、いろいろな角度から多面的、多角的に考えられ、あえて特定の内容項目を指定しないことで生徒の自由な考えを引き出すための工夫があります。

(3)、116ページをご覧ください。各教材の冒頭にテーマを示し、その時間に考える道徳的問題を押さえた上で学習に入ることができます。

(4)、巻頭の折り込みをご覧ください。巻頭に「話し合いの手引き」を配置し、話し合いの手順やルールを具体的に示しています。22ページにありました「つぶやき」コーナーに自分の考えを書き込め、話し合いの材料として使えます。

最後、巻末をご覧ください。心情円やホワイトボード用紙を活用し、グループエンカウンターやモラルスキルトレーニングを「ACTION!」として配置し、86ページをご覧ください。その人が本当に望んでいることとありますが、体験的な学習ができる工夫があります。

東京書籍の4、総括です。3学年の発達段階、実際の学校行事の時期などを考慮したり、各教科等と関連する教材を積極的に取り上げた上で、関連するマークを教材冒頭に記し、記載したり、教科書の180ページに小学校道徳の教材を掲載したりするなどの工夫があります。巻末の心情円やホワイトボード用紙が付録化しているなどの学びの広がりを図る工夫があります。以上が東京書籍です。

2番目、教育出版の内容についてです。(1)、8ページをご覧ください。各題材の初めのページに読者に対する問いかけ等があり、話し合いの導入ができ、29ページをご覧ください。「やってみよう」では、役割演技を通して今までの生活を振り返れる工夫があります。

少し戻ります。25ページ、教材ごとの終わりに「道しるべ」があり、3つのポイントを連続させ、人間としてのあり方について考えさせ、深い学びにする工夫があります。

(2)「いじめや差別のない社会」について、ユニットになっています。40ページから56ページ、また100ページから106ページ、いじめを直接扱った教材や、いじめや差別を許さない心の育成を間接的に考える、支える教材、コラムページを組み合わせ、多様な視点から考えを深められます。

(3)、94ページをご覧ください。合唱コンクールの内容です。学校生活や行事など、生徒の実態に即したシリーズ教材があり、3年間連動させて学ぶことができます。

(4)、各教材に「導入」「学びの道しるべ」、これは8ページあるいは13ページにあります、を

設け、自分のこととして向き合い、多面的、多角的に考える工夫があり、主体的、対話的な深い学びを促しています。

教育出版の4、総括です。実施学年や学習時期を考慮した教材を配列しながらも取り組みやすさを重視し、生徒の発達段階に即した内容と文章量で構成し、考え、議論する時間が十分に取れるように配慮しています。

目次をご覧ください。「まなびリンク」というウェブサイト进行設け、生徒にとって学ぶ対象の広がり意識した工夫があります。以上が教育出版です。

3番目、光村図書です。光村図書の内容です。12ページをご覧ください。題材によって「見方を変えて」という欄があり、主人公の気持ちと同時に違う側面から考えさせ、多面的、多角的な考え方ができる工夫があります。

同じ12ページに、教材ごとの終わりに「考えよう」があり、道徳的諸価値について考えを深め、「見方を変えて」の設問で多様な見方について補助する工夫があります。

78ページをご覧ください。「深めたいむ」というのがあり、学んだ道徳的価値を、活動を通して確かめ、さらに深く実感を持って考えさせる工夫があります。

(2)「いじめ問題」については、日常の中でいじめに発展しかねない場面を取り上げ、今の78ページ、「情報モラル」については、トラブルを具体的に提示し、今後に生かそうとする意識を高められます。

(3)、目次をご覧ください。生徒の成長を考慮し、1年間を3つのシーズン（まとまり）、ここですと6ページから、60ページから、128ページからと分けてあります。

(4)、4ページをご覧ください。1時間の学びの道筋が分かる「てびき」が教材末に設けられ、自分に引きつけて考えたり、問題を解決するためにどうすればよいかを考えたりする設問が用意されています。

光村図書の総括です。光村図書の巻末をご覧ください。174ページになります。巻末に小学校教材の掲載や1時間ごとに感じたことや考えたことを書き、同じ巻末のところに、シーズンごとにまとめたポートフォリオ形式の「学びの記録」コーナーがあり、シーズンごとに自分の考えを書くページもあり、学習を振り返って、学習の充実を図る工夫があります。教材末の「てびき」の「つなげよう」には、関連図書の紹介などが示されたり、QRコードを読み取りしたりすることができ、学びの広がり意識した工夫があります。以上が光村図書です。

4番目、日本文教出版です。10ページをご覧ください。各題材の最後に「考えてみよう」「自分に+1」という読者に対する問いかけがあり、自分の今の生活を照らし合わせ、考えさせるような工夫があります。

(2)、目次をご覧ください。「いじめ」と向き合う」ユニットとして、1つ目、考えるきっかけとなる扉ページ、2つ目、いじめを直接的に扱った教材と間接的に扱った教材、3つ目、いじ

めに関する知識を深めるコラムとスキルを身につけるコラムを基本構成とし、各学年、いじめが起きやすい時期に設定されています。

10ページをご覧ください。「自分に＋1」では、授業で学んだことを前向きに自分に生かすための設問を提示しています。

(4)「考えてみよう」で、狙いに迫るための発問例があります。158ページをご覧ください。158ページ、「学習の進め方」が設けられ、発表や演技をしたりする活動例が示されています。友達の意見を記入する欄を設けた別冊の道徳ノートを併用することで、より多面的、多角的に考え、議論することができる工夫があります。

日本文教出版の総括です。56ページをご覧ください。よりよい社会と私たちとあります。キャリア教育の理念を基に各学年のテーマを設定した教材の選定や、他教科との連携及び実施時期を考慮した配列をし、系統的、発展的な学習を意図しています。別冊のノートに学習の記録ができ、授業で学んだことを生活にどう生かすかを書く「自分に＋1」や学習を振り返るページが設定されています。目次や132ページにもあるのですが、QRコードを読み取ることができ、学びの広がり意識した工夫があります。以上が日本文教出版です。

5番目、学研です。(1)、日常的に起こり得る、生徒が直面するような題材もあり、自分だったらどう動くかが考えやすくてできるように工夫されています。

19ページをご覧ください。教材ごとの終わりに「考えよう」があり、教材を基にこれからの生き方についてのきっかけとなる質問があります。

戻った18ページに、自分の考えをメモする欄の活用で、気持ちの変化に気づくことができる工夫があります。

8ページに戻ります。8ページをご覧ください。全学年で生命尊重といじめ防止を重点テーマとし、様々な内容項目から、自他の生命を尊重し、他者とともによりよく生きることについて多面的、多角的に考えられます。

10ページをご覧ください。(3)、教材名や本文よりも前に主題名を示さないことで、特定の価値観を押しつけず、生徒自らの気づきや考えを促しています。

(4)、巻頭をご覧ください。2ページです。巻頭に「考えを深める4つのステップ」があり、特設ページ「深めよう」にはステップごとに具体的な例が掲示され、体験的な学習や問題解決的な学習の道筋が示されています。

23ページにある「クローズアップ」では、学習内容と関連する情報や異なる情報を提示し、生き方の選択肢を増やす工夫があります。

学研の4、総括です。学年が上がるごとに系統性を持って学習につなげていくよう、発達段階を考慮し、学年ごとに特定の内容項目と重点的に連動した教材構成にしています。「クローズアップ」というコーナーに情報を掲載したり、巻頭の「マイプロフィール」で今の自分を見詰め、巻

末の「心の四季」で1年間の自分の成長の振り返りをしたりするなど、生徒の学びの広がりを意識した工夫があります。以上が学研です。

6番目、廣済堂あかつきです。5ページをご覧ください。題材ごとに話し合う柱が示されているとともに、有名人の残した明言が紹介され、価値を考える補助的役割になるような工夫があります。

教材ごとの終わりに「考え・話し合う」があり、決まった答えのない問いで、様々な人との意見交換の機会をつくり、多様な考え方に触れる工夫があります。

全学年3時間、「生命の尊さ」について学ぶ教材があります。15ページ、58ページ、130ページです。

併せて、174ページに巻末の特集ページと併せて、様々な内容項目の学習でいじめについて考えることができます。

(3)、5ページに戻ります。学習の手がかりにある「めあて」には、学年段階と教材タイプに応じて2種類あり、生徒が教材の道徳的問題を明朗に捉え、主体的な学習に取り組むことができます。

(4)、教材ごとに「考える・話し合う」が配置され、対話的な学習ができます。

別冊の「道徳ノート」を活用し、多面的、多角的な思考を促す工夫があります。

廣済堂あかつきの4、総括です。本冊の巻末に、ほかの教育活動と強化と連携を図りやすい構成や配列となっています。別冊ノートには、学習を記録でき、一定期間のまとまりで振り返られる「心に残っている授業の記録」があります。以上が廣済堂あかつきです。

7番目、日本教科書です。(1)、生徒がふだんの生活で起こり得るような内容で共感的に読める題材が多くあり、4ページをご覧ください。内容項目について深く考えられるような工夫があります。

12ページをご覧ください。教材ごとの終わりに「考え、話し合ってみよう、そして深めよう」があり、自分自身と向き合い、積極的に授業に取り組める工夫があります。

(2)、いじめ問題を重視し、この日本教科書には、47ページ、104ページ、162ページ、166ページがあります。「友情、信頼」の教材、192ページにあります、の教材はほかの内容項目より多く用意されています。

(3)、生徒が身近な話題の教材や学年間につながりのある教材などが多く掲載されています。

(4)、12ページをご覧ください。今の「考え、話し合ってみよう、そして深めよう」には、生徒の思考や揺さぶる問いを設けています。教材内容にも、自然と生徒が考え出す仕掛けがあります。多面的、多角的に考え、議論する工夫があります。

日本教科書の4、総括です。4ページから6ページまでを見ると、そこに道徳科って何を学ぶのという文があるのですが、各学年の発達段階を踏まえた系統性と各教科の学習内容との関連が

考慮されています。巻末に、1年間を振り返って、「心の成長」や「授業への取り組み状況」を4段階で自己評価したり、学習の振り返りをしたりするようになっています。

以上です。

吉田教育長 ただいまの報告について質疑を行います。

各委員の質問に続いて選定委員の回答を求めます。

野口委員。

野口教育長職務代理者 ご説明ありがとうございました。

選定委員会としてどの教科書を推薦するか、ご説明願います。

瀧田選定委員長（北中校長） お答えします。

選定委員会では、調査報告書、学校における教科書の調査研究報告、さらに法定教科書展示会会場において来場者の皆様からご提出いただきました意見などを参考にして協議を行いました。

協議終了後、選定委員13名で、全員が7種類の教科書発行者について5段階評価で記載して、無記名で投票をいたしました。満点は65点ということになります。

結果でございますけれども、2番、東京書籍、53点、17番、教育出版、34点、38番、光村図書、42点、116番、日本文教出版、42点、224番、学研教育みらい、65点、232番、廣済堂あかつき、35点、233番、日本教科書、30点という結果でした。

本選定委員会としましては、点数の多かった順に、65点の学研教育みらい、53点の東京書籍、42点の光村図書、同じく日本文教出版を推薦いたします。

以上です。

吉田教育長 ほかにございますでしょうか。

荒木委員。

荒木委員 選定委員会ではどのような話題が出たのでしょうか。

母壁選定委員（光陽中校長） 選定委員会では、考え、議論する道徳や問題解決的な学習について、各社、生徒から様々な課題が出るように工夫されていることが出ました。

以上でございます。

吉田教育長 よろしいですか。

ほかにございますでしょうか。

渡辺委員。

渡辺委員 学校の調査報告書では、どの教科書会社の推薦が多かったでしょうか。また、その理由について教えてください。

母壁選定委員（光陽中校長） 学校からの推薦では、学研教育みらいを推薦する学校が最も多く11票、続いて、東京書籍で5票、光村図書出版が2票、日本文教出版が2票、廣済堂あかつきが1票という結果でした。

推薦理由としましては、学研教育みらいでは、教科書がワイド版になり、写真やイラストがより多く掲載されていて見やすくなっている、タイトル下にキーフレーズが書かれており、生徒が主体的に考え、議論できるように工夫がある、生徒自らが持つ問題意識や学びの視点を大事にした追求を多様に展開することができるよう、内容項目全体を様々な角度からアレンジしている。

東京書籍では、巻末に自己評価用紙があり、自己を見詰めるのに使用することができる。また、心情円があり、自分の考えを表現することができる。教材ごとに問題解決的な学習の流れが提示してあり、内容項目ごとに様々なジャンルの教材がそろっている。特にいじめ問題や生命の尊重についての教材が充実している。

光村図書出版では、学びの記録が教科書についているため、どんな流れで学んでいるのか、子どもたちが分かりやすい。

日本文教出版では、プラットフォームのページや学習の進め方が分かりやすく、生徒の思考を深めやすい。

廣済堂あかつきでは、別冊の「道徳ノート」に豊富な資料が載っているなどの意見がありました。

吉田教育長 ほかにございますか。

堀川委員。

堀川委員 中学校学習指導要領の一部改正では、いじめへの対応、あと情報モラルなどの現代的課題などへの対応の充実が図られたところであるといえますけれども、どのように扱われておりますでしょうか。

母壁選定委員（光陽中校長） 教科書ごとに説明いたします。

東京書籍、いじめ問題と生命尊重について、問題対応ユニットを配置し、複数教材を通していろいろな角度からそれぞれの問題の考え方を深められるよう工夫されている。

教育出版、いじめ問題、差別問題、生命の尊さについて深く考える教材を複数組み合わせたユニットを設け、重層的に考え、深めていくことができるように工夫されている。

光村出版、全学年に生命の尊さをテーマとした3教材を掲載して、様々な視点で捉える工夫をしている。

日本文教出版、いじめ未然防止を重要テーマとし、複数の教材、コラムに組み合わせたユニットを年間に複数配置して、集中的、継続的に考えるよう工夫されている。

学研、命の教育を重点テーマとし、生命の尊重といじめ防止に関する題材を3つのテーマで取り扱い、各学年において3教材を掲載する工夫がされている。

廣済堂あかつき、生命尊重を最重要項目と位置づけ、全学年で3教材を掲載して、様々な視点から捉える工夫をし、いじめ防止では4つの視点から考えを深めるように工夫されている。

日本教科書、いじめを許さない心の根底にある生命を尊ぶ態度について、複数教材を配置し、

生命尊重への学びを深める多様な教材から考えが深まるように工夫されている。以上がいじめ問題の対応です。

情報モラルについては、東京書籍、各学年に情報モラルに関する教材を配置し、SNSでのいじめなど新しい問題を掲載しています。また、スマートフォンの画面を配置するなど工夫されています。

教育出版、発達の段階に合った生活場面から情報モラルについて考える教材が掲載され、情報機器を通したよりよい人間関係について主体的に話し合えるよう工夫されている。

光村図書、情報モラルについて、全学年に主体的、対話的で深い学びを実現するため、「深めたいむ」を設け、3年間を通して考えるよう工夫されている。

日本文教出版、全学年で情報モラルに関わる教材やコラムを掲載し、情報社会の倫理や情報セキュリティに関わる内容について、発達の段階に応じて学習できる工夫がされている。

学研、情報モラルについて、発達の段階に合わせて各学年2教材を配置している。そのうち1教材は、共通のイラストを使用し、系統的に扱えるよう工夫されている。

廣済堂あかつき、情報モラルについて考えることのできる教材を全学年に掲載し、巻末に特集ページを設け、ほかの教育活動とも関連を図りながら活用できるよう工夫されている。

日本教科書、情報モラルについては、社会で欠くことのできない情報機器との関わりについての教材を各学年に掲載し、自分事として話し合う工夫がされている。

以上です。

吉田教育長 ほかにございますか。

進藤委員。

進藤委員 選定委員会には1号委員として保護者がいらっしゃいますけれども、どのような意見が出たのでしょうか。

瀧田選定委員長（北中校長） 私からお答えします。

保護者として、内容の大半が家庭で教えなければいけないことだなというふうに思ったということ、それで授業でやったことを、そうすると、日常生活でつなげていくことが大切なのだろうなというふうに保護者として思いましたというご意見をいただきました。さらに、そういう工夫が教科書ではどんなふうにされているのか、そして授業ではそれをどういうふうに扱っているのかというような質問をいただきました。

それに対してですけれども、選定委員からは、教材の中に日常生活とつなげていくものが多く取り上げられていて、現代的な課題、今説明もありましたけれども、例えばSNSによる情報モラルのことですとかいじめのことですとか、そういうものも踏まえながら心を育てることに教材を活用しているという回答がありました。

以上です。

吉田教育長 ほかにございますか。

〔「なし」と答える者あり〕

吉田教育長 なければ、質疑を終わります。

それでは、協議を行います。

選定資料にある4つの調査の観点に沿って協議を進めたいと思います。まず、調査の観点1、内容についてご意見はございますか。

堀川委員。

堀川委員 ご説明ありがとうございました。

道徳については、一昨年、教科書採択があり、現在2年目となっていると思います。学校の調査報告書の中には、現在学研を使っていますが、指導に流れができていて、生徒に指導するのに統一性がある、現行で指導してきた題材や時代に合わせた題材があるなどのコメントが見受けられました。

また、昨年、小学校の教科書採択のときに、道徳のところで主題があるのが、示されているの
がいいのか、悪いのかといったことが話題になりまして、学研さんはなく、そういったものであれば、子どもたちが自由な発想で発言したり、また意見交換できたりするのではないかと、事前に何か狙いを示されると、それがなかなか難しいのではないかとこの話題があったと思うのですけれども、中学生でも書いていないほうの、ほかにもあったかと思いますが、学研さんでは示されていないという説明もありましたので、小学校と同じかと思いました。

また、内容についてですが、各社さん、本当に多様な題材を使っておられて、また子どもたちの心に響くような詩や、またイラスト、写真、漫画なども上手に使って、ただ文章を読んでということではなく、いろいろな発想で、いろいろな学習の方法を自由にするように工夫されていると思ったのですけれども、特に学研の2年生の94ページの漫画の「ブラック・ジャック」、昔から有名な漫画ですけれども、命の尊さを考えるということで、最後、少しショッキングな結末なのですけれども、大変印象に残る題材かと思います。

また、日文さんの1年生の44ページ、相田みつをさんのトマトとメロンの詩というのがあるのですが、そこから命のバトンの詩、また相田みつをさんの紹介などがありまして、それも印象に残りました。

また、東書さんの、先ほど説明にもありました心情円とホワイトボードに関しては、自分の気持ちが表現しやすい、そういう材料になるのではないかと感じました。

あと、個人的な話で大変恐縮なのですが、私も長く武道をやっておられて、礼儀についての記載もありましたけれども、学研の1年生の23ページに、武士道から見る日本人の礼儀ということで、新渡戸稲造さんの、日本人の礼儀や思想が海外でも高く称賛されているといった紹介がされていて、また貴重なことだと思います。

日本の伝統文化から学ぶものということで、光村の3年生では184ページ、茶道についても紹介しております。一期一会という言葉、日文さんでもこの言葉、3年生の「出迎え3歩、見送り7歩」という中にも出てきますけれども、またこれもいい言葉で、大事にしていきたいと思いました。

3年生で礼儀についての題材が入っておりますけれども、日本教科書さんの礼儀はなぜ必要なのか、学研、礼儀って何、光村さんでは礼儀正しさとはとあって、今の中学生にこういったものは大変堅苦しくて受け付けられないのかとも思いますけれども、今の現代社会のいろいろな課題を考えますと、こういった勉強も必要なことかと思いました。

私からは以上です。

吉田教育長 ほかにございますでしょうか。

荒木委員。

荒木委員 学研さんには、命の教育を重点テーマとしていて、クローズアッププラスでメンタルトレーニングであったりとか、あとアンガーマネジメント、例えば1年生の112ページですけれども、であったりとか、自己肯定感といった主題を扱っている点が非常によいと思いました。

吉田教育長 渡辺委員。

渡辺委員 同じく日文も、アンガーマネジメントのことを扱っています。同じくプラットフォームのところで、34、35ページにいじめって何、ということで、森田洋司先生の本から具体的にいじめの構造で、被害者、加害者、観衆、傍観者というようなところを、図で示しているというのは、いいと思いました。

以上です。

吉田教育長 ほかにございますでしょうか。

野口委員。

野口教育長職務代理者 先ほど堀川委員さんから話されました。主題名がない方がよいのではないかということについては話題になったかとは思いますが、本市のこれまでの道徳の研究実績からすると、やはり主題名がなくて、子どもたちに資料を投げかけて、子どもたちの考えに基づいて話し合っていくという学習の流れがある程度できるのかということで、独自開発してもいいのではないかというお話だと思ったのですが。

また併せて、ノートについても前に話題になったのです。時間ごとに書けるノートのところもあるし、そうでなくて、ところどころ書けばいいのではないかという、本市の授業を見ていると、それぞれ、担任の先生が書かせる場面を工夫したりして、話合いの途中で書いたりとか、あるいは終わりにまとめて書いたりとかということで、その辺りは学校の裁量といいますか、教師の裁量に任せてもいいとも感じました。

また、かなり学研の使用してきた、教科化する前から使用してきた実績もあるので、様々な教

材といいますか、場面絵ですとか、それぞれの学校ごとに蓄積されていると思いますので、そういったものも有効に活用したいという気持ちもきっと現場にはあるのかと思いました。

以上です。

吉田教育長 ほかにございますでしょうか。

なければ、私から。道徳の授業では、学研の1の28ページにあるピエロの物語ってあるのですが、読んでしまうととても時間がないので、読みませんけれども、これとか、あと34ページですか、釣りざおの思い出というところで、36ページに、お母さんが釣りざおを握り締めて我が子に訴えるところがあるのですけれども、絵がありますが、こういう話だとか、あるいは112ページですか、ネパールに行って、113ページに絵がありますが、絵を買ってきてくれないか。かなり遠いところに行って買ってくるのですけれども、お金を少し多く渡したものですから、もう帰ってこないのではないかと心配していたところ、彼は相当遅くなってから帰ってきたのです。彼の肩をたたいて私は泣いたと、近頃、あんなに泣いたことはない、そしてあんなに深くいろいろ反省したことはない。帰ってこないと疑ったことを悔いたわけです。何で帰ってきたのだという話で、少しいい話があるのですけれども、こういう話です。

あと、120ページに、自然の懷に流れていって、ご来光を仰ぐような絵があるのですが、私も北アルプスを縦走したときに、夕日が沈むのを見て、多分、私だったら、その話を1時間して終わってしまうのかと思っているのですけれども、要するに自分が読んでいて感動する資料が一番かと思っているのですが、でも、子どもにも伝えやすいものだと思うのですけれども、要するに教師の思いが先行し過ぎると、先生の心に自分の考えを寄せてしまうようなことが起こりますということがよく道徳では言われるのです。そうならないように、資料のよさをうまく活用して、学習者に自分のこととして考えさせるなどして道徳価値に気づかせていかなければいけないということがあるわけです。

また、20ページを見ると、挨拶しますか、しませんかというところがあって、これはあえて結論を出していないのです。何でそんなことになっているかというのは、少し読めば分かるのですけれども。

それと、24ページにも、うわさで決めるのという、これはいじめに発展しそうな内容のことなのでも、これについても結論は出していないです。

116ページに、公平とは何だろうと、これは前、少し見た資料だと思いますけれども、公平とは何だろうというところで、これもあえて結論を出していない。

そうした場合でも、資料にある内容につながるような生活体験の中から、学習者自らが問いを持って臨めるようにし、一体どんなことがそのことにつながるのか、自分だったらどうなのかなどについて話し合うことを通して、道徳的な判断力とか実践意欲とかにつながる学習を進める必要があるわけですが、そこで、各学校では道徳の授業を進めるに当たって資料分析というのをや

っているわけですが、こうした資料分析が進んでいるといないとは深まり方が当然違ってくると思います。したがって、今までの積み重ねを活用するという観点でいえば、どれだけ同じ資料が使われているかについても見ていく必要があると思うのですが。

道徳については前倒しでやるということで、まだ採択をして、道徳科としての教科書を採択して間もないということがあるので、ですので、平成30年に本市では道徳の教科書を採用したのがあるわけですが、3年間で扱う105の教材としての資料のうち、92が学研では共通している、これは当然のことなのですが、となっていると。他社で比較すると、ゼロから6となっていますので、こういったところも配慮すべきと思っているところです。

ほかにございますでしょうか。1の内容についてはよろしいですか。

〔「なし」と答える者あり〕

吉田教育長 それでは、資料、それから表記・表現、総括についてまとめてご意見を伺いたと思います。何かございますでしょうか。よろしいですか。

〔「なし」と答える者あり〕

吉田教育長 ほかの観点で協議したい内容等はございませんでしょうか。これもよろしいですか。

〔「なし」と答える者あり〕

吉田教育長 ないようですので、これより道徳の教科用図書に係る採択に入ります。

選定委員の先生方、ありがとうございました。

〔選定委員退室〕

吉田教育長 採択は無記名投票により行い、私及び5名の委員の5段階評価の合計が最も高いものを採択いたします。

それでは、事務局より投票用紙の配付をお願いいたします。

〔投票用紙配付〕

吉田教育長 次に、投票箱を改めさせます。

〔投票箱点検〕

吉田教育長 投票をお願いいたします。

〔点呼に応じ順次投票〕

吉田教育長 投票漏れはございませんか。

〔「なし」と答える者あり〕

吉田教育長 投票を終了いたしました。

それでは、開票及び集計に入りますが、事務局の集計に当たりまして、立会人として、進藤委員、それから荒木委員を指名いたします。

〔立会人立会いの上開票〕

吉田教育長 集計が終わりましたので、投票結果についてご報告をいたします。

投票結果については、発行者番号、発行者名、評価点の合計の順番で、発行者順に読み上げます。

2 番	東京書籍	2 6 点
1 7 番	教育出版	2 0 点
3 8 番	光村図書出版	2 2 点
1 1 6 番	日本文教出版	2 1 点
2 2 4 番	学研教育みらい	3 0 点
2 3 2 番	廣済堂あかつき	2 0 点
2 3 3 番	日本教科書	2 0 点

以上のとおり、道德の教科用図書は、224番、学研教育みらいを採択することに決しました。

以上をもちまして、予定していた全ての種目について審議が終了いたしました。

これより第37号議案「令和3年度使用中学校教科用図書の採択について」を採決いたします。

採決する教科用図書を種目名、発行者名の順に読み上げます。なお、発行者番号及び教科用図書名については省略いたします。

令和3年度使用中学校教科用図書として

国語、光村図書出版。

書写、光村図書出版。

社会・地理的分野、東京書籍。

社会・歴史的分野、東京書籍。

社会・公民的分野、東京書籍。

地図、帝国書院。

数学、東京書籍。

理科、学校図書。

音楽・一般、教育芸術社。

音楽・器楽合奏、教育芸術社。

美術、光村図書出版。

保健体育、学研教育みらい。

技術・家庭、技術分野、開隆堂出版。

技術・家庭、家庭分野、開隆堂出版。

英語、三省堂。

道德、学研教育みらい。

それから、特別支援教育の国語、数学、音楽を採択いたします。なお、特別支援教育の国語、数学、音楽の教科用図書については、いずれも文部科学省著作でございます。

以上の教科用図書を採択する旨決することにご異議ありませんか。

〔「異議なし」と答える者あり〕

吉田教育長 それでは、ご異議ないものと認めまして、本案は以上のとおり決定いたしました。

ほかに何かございますか。よろしいですか。

〔「なし」と答える者あり〕

吉田教育長 なければ、以上といたします。

最後に、次回の教育委員会会議の日時でございますが、8月27日、木曜日、午前10時から教育委員会室で開催したいと存じますが、いかがでしょうか。よろしいですか。

〔「異議なし」と答える者あり〕

吉田教育長 では、そのようにいたしますので、よろしくお願いいたします。

◎閉会の宣告

吉田教育長 これをもちまして、閉会といたします。

ありがとうございました。

(午後 5時27分)

この会議のてん末記載に相違ないことを証するため、署名する。

教 育 長

吉 田 茂

委 員

野 口 久 男

委 員

堀 川 智 子

委 員

進 藤 秀 子

委 員

荒 木 明 子

委 員

渡 辺 律 子

書 記

教育総務課副課長

市川 今 子